

令和 6（2024）年度  
事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日  
至 令和 7 年 3 月 31 日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

## 目次

I.	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報.....	1
1	法人の概要.....	1
(1)	事業内容.....	1
(2)	所在地.....	1
(3)	教員及び職員の数（令和7年3月31日現在）.....	1
(4)	沿革.....	1
(5)	設立に係る根拠法.....	1
(6)	主管省庁名.....	1
(7)	組織図（令和7年3月31日現在）.....	2
2	役員の状況（令和7年3月31日現在）.....	3
(1)	役員・監事.....	3
(2)	理事.....	6
(3)	評議員.....	15
II.	業務実績報告.....	17

## I. 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報

### 1 法人の概要

#### (1) 事業内容

- 1) 沖縄科学技術大学院大学を設置し、これを運営すること。
- 2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康に関する相談その他の援助を行うこと。
- 3) 学園以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の学園以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- 4) 沖縄科学技術大学院大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- 5) 科学技術に関する研究集会の開催その他の研究者の交流を促進するための業務を行うこと。

#### (2) 所在地

メインキャンパス	沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919 番地 1
シーサイドハウス	沖縄県国頭郡恩納村字恩納 7542
マリン・サイエンス・ステーション	沖縄県国頭郡恩納村字瀬良垣原 656 番 7

#### (3) 教員及び職員の数（令和 7 年 3 月 31 日現在）

教員（除、アジャнкт、トランジショナル教授）： 80 人  
職員（除、派遣職員）： 946 人

#### (4) 沿革

平成 23 年 11 月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園設立

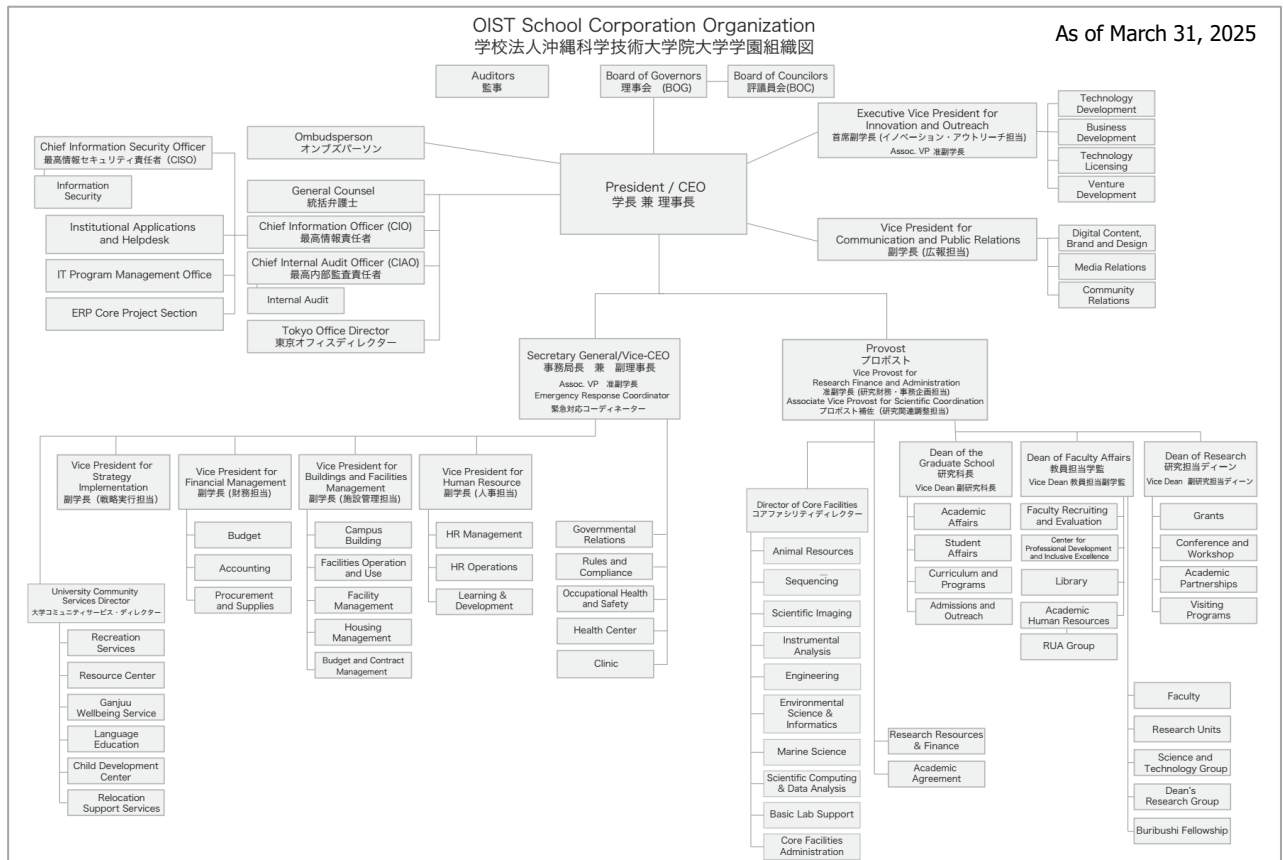
#### (5) 設立に係る根拠法

沖縄科学技術大学院大学学園法（平成 21 年法律第 76 号）

#### (6) 主管省庁名

内閣府、文部科学省

(7) 組織図 (令和7年3月31日現在)





## 2 役員の状況（令和7年3月31日現在）

### ● 定数

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第5条第1項、第7条、第19条第2項の定めるところによる。

### ● 任期

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第9条第1項及び第24条第1項の定めるところによる。

### ● 役員賠償責任保険契約の状況

令和3年2月18日第30回理事会において、役員賠償責任保険（補償対象は訴訟費用及び損害賠償請求等）の更新を全会一致で承認。

#### （1）役員・監事

役職	氏名	任期	主要経歴	
理事長・学長	カリン・マルキデス	2023年6月1日～2028年5月31日	1984年 1975年 1984年 1985年 1989年 1989年 1996年 2003年 2006年 2015年 2019年 2021年 2023年6月	ストックホルム大学博士号（分析化学）取得 ストックホルム大学 化学部門研究所長 ブリガム・ヤング大学 化学部門（米国） 博士研究員 ブリガム・ヤング大学 化学部門助教 ブリガム・ヤング大学 化学部門准教授 ウプサラ大学分析化学部門（スウェーデン） 分析化学部門主任教授 ウプサラ大学科学技術部門化学・化学工学研究科長 スタンフォード大学 化学部門（米国） 客員教授 チャルマース工科大学（スウェーデン） 学長兼理事長 チャルマース工科大学学長上級顧問 アルメニア・アメリカン大学学長兼理事長 デンマーク工科大学（DTU） 理事会議長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園学長・理事長
副理事長・事務局長	加藤 重治	2022年4月1日～2027年	1980年 1986年 1980年 1991年	東京大学工学部卒業 ハーバード大学公共政策学（修士号） 科学技術庁入庁 OECD 日本政府代表部一等書記官

		3 月 31 日*	1994 年 1995 年 1995 年 1996 年 1998 年 1999 年 2000 年 2001 年  2002 年 2003 年 2004 年 2005 年  2007 年  2009 年 2011 年 2012 年 2014 年 2015 年 2017 年  2018 年  2022 年	科学技術庁放射線医学総合研究所企画課長 科学技術庁原子力局核燃料課バックエンド推進室 長 国務大臣科学技術庁長官秘書官 科学技術庁長官官房秘書課企画調査官 科学技術庁科学技術政策局調査課長 文部省教育助成局海外子女教育課長 科学技術庁原子力安全局核燃料規制課長 経済産業省原子力安全・保安院核燃料サイクル規 制課長 理化学研究所フロンティア研究推進室長 理化学研究所企画部長 文部科学省科学技術政策局原子力安全課長 内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付参事官 （総括担当） 経済産業省原子力安全・保安院審議官（実用発電 炉担当） 文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当） 内閣府大臣官房審議官（原子力安全委員会担当） 文部科学省国際統括官 理化学研究所理事長特別補佐 国立研究開発法人理化学研究所理事 文部科学省科学技術・学術政策研究所所長（2017 年 12 月退職） 国立研究開発法人理化学研究所理事（2022 年 3 月 任期満了） 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園 事務局 長・副理事長
監事	池田 博之	2023 年 11 月 1 日 ～ 2026 年 10 月 31 日	1991 年 1991 年 2006 年 2007 年	東京大学教養学部卒業 総務庁（行政監察局企画調整課） 入庁 総務省企画課企画官 併任 情報システム室長（～ 2007 年） 総務省行政管理局行政情報システム企画課国際企 画官 併任 内閣府本府規制改革推進室企画官（～ 2008 年）

			2010 年 2012 年 2013 年 2014 年 2016 年 2017 年 2018 年 2021 年 2022 年 2023 年 2023 年 11 月	併任 総務省人事・恩給局恩給企画課（～2012 年） 併任 総務省行政評価局（～2013 年） 総務省統計審査官（政策統括官付） 総務省国際統計管理官（政策統括官付） 総務省恩給企画管理官（政策統括官付） 総務省官民競争入札等監理委員会事務局参事官 併任 行政管理局公共サービス改革推進室参事官（～2018 年 4 月） 内閣府官民人材交流センター総務課長 日本下水道事業団監査室長 全国市町村研修財団審議役 命 市町村職員中央研修所調査研究部長 兼 教授 内閣府沖縄振興局参事官 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事
監事	兼島 規	2023 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日*	1976 年 1976 年 2005 年 2007 年 2009 年 2012 年 2013 年 2015 年 2023 年 11 月	神戸大学法学部卒業 沖縄県庁入庁（沖縄県労働商工部商工課） 沖縄県企画部科学技術統括監 沖縄県八重山支庁長 沖縄県総務部長 沖縄県企業局長 沖縄振興開発金融公庫理事 株式会社那覇空港ビルディング代表取締役社長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事
監事	ジョージ・ クラーク	2020 年 11 月 1 日 ～ 2026 年 10 月 31 日*	1979 年 2000 年 2003 年 2005 年 2011 年	バットル・パンフィック・ノースウェスト国立研究所基礎科学予算マネージャ、上席内部監査官等 テネシー大学バットル校首席財務担当官 米国オークリッジ国立研究所担当財務マネジメント部長 ハワイ大学天文学研究所事務局長 米国国立電波天文台事務局長 セントラルワシントン大学業務及び財務担当副学長

			2016 年 2020 年 2021 年	米国ブルックヘブン国立研究所首席財務担当官 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事 米国スタンフォード大学 SLAC 国立研究所首席財務担当官（2025 年 2 月退職）
--	--	--	----------------------------	---

\*重任 \*\*再任

## （２） 理事

氏名	任期	主要経歴	
ヴィジェイ ラガバン・クリ シュナスワミ	2011 年 11 月 1 日 ～ 2026 年 10 月 31 日 *	1983 年 1984 年 1986 年 1988 年 1998 年 2005 年 2009 年 2011 年 11 月 2012 年 2013 年 2018 年 2025 年 1 月	タタ基礎化学研究所（インド）博士号（分子生物学） カリフォルニア工科大学（米国）リサーチフェロー カリフォルニア工科大学シニア・リサーチフェロー タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター入 所 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター シニアプロフェッサー兼所長 首相府（インド）科学諮問委員会委員 ハワードヒューズ医学研究所（米国）ジェネリアファ－ ム・リサーチ・キャンパス諮問委員会委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 ロンドン王立協会会員 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター ディスティンクティッシュトプロフェッサー インド科学技術省バイオテクノロジー局局长 インド政府主席科学アドバイザー（2022 年 4 月まで） 沖縄科学技術大学院大学学園 理事会議長
ジェームス・ 比嘉	2020 年 1 月 1 日 ～ 2025 年 12 月 31 日 *	1981 年 1981 年 1984 年 1989 年 1996 年 2001 年 2012 年	スタンフォード大学（米国）学士号（政治学） ヒガ・フォトグラフィー 写真家 アップルコンピュータジャパン株式会社 プロダクトマ ーケティング／国際マーケティング担当ディレクター NeXT コンピュータ アジア リアルネットワークス社、消費者担当副社長、アジア担 当副社長 アップル CEO オフィス シニア・ディレクター 株式会社ローソン イノベーション諮問委員会顧問

氏名	任期	主要経歴	
		2012 年	フィランソロピック・ベンチャーズ・ファンデーション 事務局長
		2012 年	インデックス・ベンチャーズ メンター・イン・レジデンス
		2013 年	Kano Computing インベスターディレクター
		2013 年	株式会社ユニクロ 顧問
		2015 年	Airbnb 顧問
		2018 年	シーメンス 顧問
		2019 年	WorldCover 理事
		2020 年 1 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
カーティス・ カラン	2014 年 11 月 1 日 ～ 2026 年 10 月 31 日 *	1964 年	プリンストン大学（米国）博士号（物理学）
		1968 年	JASON スタディグループメンバー
		1969 年	プリンストン高等研究所長期メンバー
		1972 年	プリンストン大学物理学部教授
		1974 年	アメリカ物理学会フェロー
		1986 年	プリンストン大学ユージン・ヒギンス・プロフェッサー アメリカ芸術科学アカデミーメンバー
		1989 年	米国科学アカデミー会員
		1990 年	JASON スタディグループ運営委員会委員長
		1995 年	プリンストン大学ジェームス・S・マクドネル物理学デ ィスティングイッシュトプロフェッサー
		1998 年	プリンストン大学物理学部長
		2004 年	ディラック賞（国際理論物理学センター）
		2005 年	プリンストン大学理論物理学センターディレクター
		2008 年	アメリカ物理学会会長・副会長 プリンストン大学物理学部長 プリンストン高等研究所評議会会員
		2014 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
モンテ・カセム	2023 年 1 月 1 日 ～ 2025 年 12 月 31 日	1970 年	スリランカ大学自然科学部建築学科
		1976 年	東京大学大学院工学系研究科修士課程都市工学専攻修士
		1976 年	マレーシアサインズ大学専任講師、大学院設立委員会事 務局長
		1982 年	東京大学大学院工学系研究科博士課程都市工学専攻単位

氏名	任期	主要経歴	
		1985 年 1994 年 2004 年 2011 年 2014 年 2015 年 2017 年 2018 年 2021 年 2022 年 2023 年	取得満期退学 国際連合地域開発センター（UNCRD）主任研究員・国連専門官 立命館大学教授 立命館アジア太平洋大学学長 沖縄科学技術大学院大学評議員 学校法人立命館評議員 学校法人立命館理事補佐 日越大学（VJU）理事 大学院大学至善館学長、理事、教授 公立大学法人国際教養大学 理事長・学長 沖縄科学技術大学院大学 評議員会議長 沖縄科学技術大学院大学 理事
リタ・ コルウェル	2011 年 11 月 1 日 ～ 2026 年 10 月 31 日*	1961 年 1991 年 1998 年 2004 年  2006 年  2007 年  2011 年 11 月 2013 年  2014 年	ワシントン大学（米国）博士号（海洋学） メリーランド大学（米国）生命工学研究所所長 全米科学財団 11 代理事長 国家科学技術会議（米国）共同議長 キャノン US ライフサイエンス（米国）会長・上席副社長 メリーランド大学特別教授 ジョン・ホプキンス大学（米国）公衆衛生大学院特別教授 キャノン US ライフサイエンス（米国）上級顧問名誉会長 科学技術振興機構国際諮問委員 東京大学プレジデント・カウンシル・メンバー 米国生物化学研究所所長 2006 年アメリカ国家科学賞 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 ローザリンド・フランクリン協会会長 シグマ XI ウィリアム・プロクター科学功績賞 一般微生物協会賞
ベン・L・フェリ ンハ	2021 年 7 月 1 日	1978 年	ロイヤル・ダッチ・シェル（オランダ・イギリス）リサーチ・サイエンティスト

氏名	任期	主要経歴	
	～ 2027 年 6 月 30 日*	1984 年 1988 年 2004 年  2004 年 2006 年 2008 年  2010 年 2011 年  2011 年  2016 年 2017 年  2019 年 2021 年 7 月	フローニンゲン大学講師 フローニンゲン大学教授 フローニンゲン大学ヤコブス・ファン・ホッフ分子科学特別教授（現在に至る） アメリカ芸術科学アカデミー外国人名誉会員 オランダ王立芸術科学アカデミーメンバー オランダ王立芸術科学アカデミー アカデミー・プロフェッサー オランダ国立科学財団化学部門長（2016 年まで） ミュンヘン工科大学高等研究所ハンス・フィッシャー名誉フェロー（現在に至る） オランダ王立芸術科学アカデミー（KNAW）副会長（2016 年まで） ノーベル化学賞 華東理工大学（中国、上海）フェリンハ・ノーベル賞科学者共同研究センター共同ディレクター（現在に至る） 欧州研究評議会メンバー 沖縄科学技術大学院大学学園理事
藤田 浩之	2021 年 5 月 1 日 ～ 2027 年 4 月 30 日*	1991 年 1992 年 1993 年  1997 年  1998 年 2000 年 2001 年  2003 年  2003 年  2005 年	オークリッジ国立研究所 個体物理学研究助手（米国） マンマス・カレッジ 数学・物理学学士号（米国） ケースウェスタンリザーブ大学 大学院物理学部研究助手（米国） ピッカーインターナショナル株式会社 磁気共鳴画像診断装置(MRI)部門研究者（米国） ケースウェスタンリザーブ大学 物理学博士号（米国） USA Instruments 社研究開発マネージャー（米国） ケースウェスタンリザーブ大学 物理学部非常勤准教授（米国） クイーンズランド大学 情報技術電気工学部非常勤准教授（オーストラリア） USA Instruments 社 3-テスラ・セグメント・エンジニアリングプログラムマネージャー ケースウェスタンリザーブ大学 放射線学非常勤准教授（米国）

氏名	任期	主要経歴	
		2005 年	ケースウェスタンリザーブ大学 MRI・画像物理学所長、上級研究員（米国）
		2005 年	GE ヘルスケア MRI RF コイルエンジニアリング部長
		2006 年	クオリティー・エレクトロダイナミクス創業者、社長兼最高経営責任者
		2009 年	ケースウェスタンリザーブ大学（CWRU）物理学非常勤教授（米国）
		2009 年	クイーンズランド大学情報技術電気工学部非常勤教授（オーストラリア）
		2011 年	ケースウェスタンリザーブ大学医学部放射線学非常勤教授（米国）
		2014 年	国際磁気共鳴医学会（ISMRM）シニアフェロー
		2018 年	在クリーブランド日本国名誉領事（米国）
		2019 年	キャノンメディカルシステムズ株式会社 CT-MR 事業統括部最高技術責任者
		2021 年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
		2022 年	キャノンヘルスケア USA 会長
セナパティ・ゴパラクリシュナン	2017 年 11 月 1 日 ～ 2026 年 10 月 31 日 *	1977 年	インド工学大学マドラス校 修士号（物理）
		1979 年	インド工学大学マドラス校 修士号（コンピューターサイエンス）
		2007 年	インフォシスリミテッド最高経営責任者兼マネージング・ディレクター
		2011 年	インフォシスリミテッド副会長
		2014 年	Axilor Ventures 会長
		2016 年	インド国立工学アカデミーフェロー
		2016 年	インド電子通信工学研究所（IETE）名誉フェロー
		2017 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
セルジュ・アロシュ	2015 年 10 月 1 日 ～ 2027 年 9 月 30 日*	1971 年	パリ第 6 大学（フランス）博士号（物理学）
		1975 年	パリ第 6 大学教授
		1981 年	ハーバード大学客員教授
		1984 年	イエール大学非常勤教授
		1991 年	フランス大学院メンバー
		1994 年	高等師範学校（フランス）物理学部長
		2001 年	コレージュ・ド・フランス量子物理学教授



氏名	任期	主要経歴	
		2012 年 2015 年 2015 年 10 月	コレージュ・ド・フランス学長 ノーベル物理学賞 コレージュ・ド・フランス名誉教授 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
カリン・マルキ デス	2023 年 6 月 1 日～ 2028 年 5 月 31 日	1984 年 1975 年 1984 年 1985 年 1989 年 1989 年  1996 年 2003 年 2006 年 2015 年 2019 年 2021 年 2023 年 6 月	ストックホルム大学博士号（分析化学）取得 ストックホルム大学 化学部門研究所長 ブリガム・ヤング大学 化学部門（米国） 博士研究員 ブリガム・ヤング大学 化学部門助教 ブリガム・ヤング大学 化学部門准教授 ウプサラ大学分析化学部門（スウェーデン） 分析化学部 門主任教授 ウプサラ大学科学技術部門化学・化学工学研究科長 スタンフォード大学 化学部門（米国） 客員教授 チャルマース工科大学（スウェーデン） 学長兼理事長 チャルマース工科大学学長上級顧問 アルメニア・アメリカン大学学長兼理事長 デンマーク工科大学（DTU） 理事会議長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園学長・理事長
加藤 重治	2022 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日*	1980 年 1986 年 1980 年 1991 年 1994 年 1995 年 1995 年 1996 年 1998 年 1999 年 2000 年 2001 年 2002 年 2003 年 2004 年	東京大学工学部卒業 ハーバード大学公共政策学（修士号） 科学技術庁入庁 OECD 日本政府代表部一等書記官 科学技術庁放射線医学総合研究所企画課長 科学技術庁原子力局核燃料課バックエンド推進室長 国務大臣科学技術庁長官秘書官 科学技術庁長官官房秘書課企画調査官 科学技術庁科学技術政策局調査課長 文部省教育助成局海外子女教育課長 科学技術庁原子力安全局核燃料規制課長 経済産業省原子力安全・保安院核燃料サイクル規制課長 理化学研究所フロンティア研究推進室長 理化学研究所企画部長 文部科学省科学技術政策局原子力安全課長

氏名	任期	主要経歴	
		2005 年	内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付参事官（総括担当）
		2007 年	経済産業省原子力安全・保安院審議官（実用発電炉担当）
		2009 年	文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）
		2011 年	内閣府大臣官房審議官（原子力安全委員会担当）
		2012 年	文部科学省国際統括官
		2014 年	理化学研究所理事長特別補佐
		2015 年	国立研究開発法人理化学研究所理事
		2017 年	文部科学省科学技術・学術政策研究所所長（2017 年 12 月退職）
		2018 年	国立研究開発法人理化学研究所理事（2022 年 3 月任期満了）
		2022 年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園 副理事長・事務局長
イエスパー・コール	2020 年 7 月 1 日 ～ 2026 年 6 月 30 日*	1989 年	SG ウォーバーク証券ジャパン マネージングディレクター兼チーフエコノミスト
		1994 年	JP モルガン証券株式会社 マネージングディレクター兼チーフエコノミスト
		1997 年	タイガー・ファンド・インベストメント・マネジメント マネージングディレクター
		1999 年	メリルリンチ日本証券 マネージングディレクター兼チーフエコノミスト
		2008 年	タントロン・リサーチ・ジャパン 最高経営責任者
		2009 年	JP モルガン証券株式会社 マネージングディレクター兼株式調査部長
		2015 年	ウィズダムツリー・ジャパン株式会社 最高経営責任者
		2019 年	ウィズダムツリー株式会社 シニア・アドバイザー
		2019 年	オクターヴ・ジャパン株式会社 マネージングディレクター（現在に至る）
			ミズマー・ベンチャーズ アドバイザー（現在に至る）
			カタリスト投資顧問株式会社 シニア・グローバル・アドバイザー（現在に至る）
		2020 年 7 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事

氏名	任期	主要経歴	
小谷 元子	2014 年 11 月 1 日 ～ 2026 年 10 月 31 日*	1990 年 1993 年 1997 年 1999 年 2001 年 2004 年 2008 年  2011 年 2012 年 2014 年 2014 年 11 月 2020 年 2024 年	東京都立大学理学研究科 博士号（理学） マックス・プランク研究所客員教授 東邦大学理学部助教授 東北大学大学院理学研究科助教授 仏高等科学研究所（IHES）客員教授 東北大学大学院理学研究科教授 東北大学大学院理学研究科ディスティングイッシュト プロフェッサー 東北大学原子分子材料科学高等研究機構副機構長・教授 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長 総合科学技術・イノベーション会議議員（非常勤） 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事  東北大学理事・副学長（研究担当） 国際学術会議理事会 会長
野依 良治	2018 年 5 月 1 日～ 2027 年 4 月 30 日*	1961 年 1963 年 1967 年 1963 年 1968 年 1969 年 1972 年 1997 年  2001 年 2002 年 2003 年 2003 年 7 月 2003 年  2005 年 2006 年 2015 年 2015 年 6	京都大学工学部卒業 京都大学大学院工学研究科修士課程修了 京都大学 工学博士 京都大学工学部助手（1968 年まで） 名古屋大学理学部助教授（1972 年まで） ハーバード大学博士研究員 名古屋大学理学部教授（2003 年まで） 名古屋大学大学院理学研究科長・理学部長（1999 年まで） ノーベル化学賞 日本化学会会長（2003 年まで） 名古屋大学特任教授（現在に至る） 独立行政法人理化学研究所理事長（2015 年 03 月まで） 国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発センター主席フェロー 文部科学省科学技術・学術審議会会長（2015 年まで） 教育再生会議座長（2008 年まで） 国立研究開発法人理化学研究所フェロー（現在に至る） 国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センタ

氏名	任期	主要経歴	
		月	一長
		2015 年 7 月	公益財団法人日本科学技術振興財団科学技術館長（現在に至る）
		2018 年 6 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
		2024 年	国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略名誉センター長（現在に至る）
吉野 彰	2020 年 11 月 1 日 ～ 2026 年 10 月 31 日*	1970 年	京都大学工学部 卒業
		1972 年	京都大学大学院工学研究科 修士課程修了
		1972 年	旭化成工業株式会社（現 旭化成株式会社）入社
		1982 年	旭化成工業株式会社川崎技術研究所
		1992 年	同 イオン二次電池事業推進部商品開発グループ長
		1994 年	株式会社エイ・ティーバッテリー技術開発担当部長
		1997 年	旭化成工業株式会社（現 旭化成株式会社）イオン二次電池事業グループ長
		2001 年	旭化成株式会社 電池材料事業開発室 室長
		2003 年	旭化成株式会社グループフェロー
		2005 年	大阪大学大学院 工学研究科 博士（工学）取得
		2005 年	同 吉野研究室室長
		2010 年	技術研究組合 リチウムイオン電池材料評価研究センター 理事長（現在）
		2015 年	旭化成株式会社 顧問
		2017 年	名城大学大学院理工学研究科教授（現在）
		2017 年	名城大学名誉フェロー（現在）
		2017 年	旭化成株式会社 名誉フェロー（現在）
		2018 年	九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター訪問教授（現在）
		2019 年	ノーベル化学賞
		2019 年	九州大学 栄誉教授（現在）
		2020 年	（国研）産業技術総合研究所フェロー
		2020 年	エネルギー・環境領域 ゼロエミッション国際共同研究センター長（現在）
		2020 年	日本学士院 会員（現在）
		2020 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事

氏名	任期	主要経歴	
		2021 年	名城大学 特別荣誉教授（現在）
川上 康	2023 年 5 月 23 日～ 2026 年 5 月 22 日	1985 年 2000 年 2001 年 2004 年 2010 年 2012 年 2013 年 2014 年 2016 年 2017 年 2023 年 5 月 2024 年 4 月	株式会社琉球銀行 入行 同行 人事部主任調査役 同行 総合企画部企画総務課長 同行 総合企画部次長 同行 コザ支店長 同行 営業統括部長 同行 執行役員営業統括部長 同行 取締役総合総合企画部長兼関連事業室長 同行 常務取締役 同行 代表取締役頭取 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 株式会社琉球銀行 代表取締役会長

\*重任 \*\*再任

### (3) 評議員

氏名	任期	所属
モンテ・カセム	2011 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日*	公立大学法人国際教養大学理事長・学長
ゴヴァース 健二	2020 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日*	ベイン・アンド・カンパニー（東京オフィス）シニア・パートナー
安西 祐一郎	2020 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日*	一般財団法人 交詢社 理事長
トーマス・ブッシュ	2023 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学 研究科長
ダンカン・クラーク	2023 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日	BDA (China) Limited, 創業者・会長
ラルフ・アイヒラー	2014 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日*	前スイス連邦工科大学チューリッヒ校学長
渕辺 美紀	2020 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日*	沖縄経済同友会代表幹事
フレデリック・ギルマン	2011 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日*	カーネギーメロン大学物理学部ブール理論物理学教授 カーネギーメロン大学マクウィリアム・コスモロ

		ジー・センター センター長
ギル・グラノットマ イヤー	2021年6月1日～ 2027年5月31日*	沖縄科学技術大学院大学副学長（技術開発イノベ ーション担当）
五十嵐 正和	2023年11月1日～ 2026年10月31日	GE ヘルスケアファーマ株式会社 メディカルアド バイザー
長谷川 真理子	2024年4月1日～ 2027年3月31日	日本芸術文化振興会 理事長
比嘉 伊作	2021年4月1日～ 2027年3月31日*	沖縄科学技術大学院大学 財務担当副学長
東 良和	2020年5月1日～ 2026年4月30日*	沖縄ツーリスト 代表取締役会長
平澤 玲	2011年11月1日～ 2026年10月31日*	財団法人未来工学研究所理事長 東京大学名誉教授 北陸先端科学技術大学院大学経営協議会委員
キース・ホジソン	2014年11月1日～ 2026年10月31日*	スタンフォード大学化学部長
嘉数 悠子	2023年11月1日～ 2026年10月31日	TMT 国際天文台 教育普及マネージャー
菅 大介	2020年11月1日～ 2026年10月31日*	チェリオコーポレーション専務取締役
川上 好久	2018年1月4日～ 2027年1月3日*	前沖縄振興開発金融公庫理事長
川崎 達生	2020年7月1日～ 2026年6月30日*	ユニゾン・キャピタル株式会社代表取締役
*イエスパー・ コール	2021年3月1日～ 2027年2月29日*	ユニゾン・キャピタル株式会社代表取締役
ルオ・イージュン	2023年11月1日～ 2026年10月31日	中央研究院生物多様性リサーチセンターアシスタ ントリサーチフェロー 国立台湾大学生命科学部 准教授
クリスティーヌ・ラ スカム	2022年9月1日～ 2025年8月31日	沖縄科学技術大学院大学 教授会議長
益戸 正樹	2018年1月1日～ 2026年12月31日*	内閣府沖縄振興審議会委員 Uiopath 株式会社特別顧問
松本 良	2011年11月1日～ 2026年10月31日*	東京大学名誉教授 明治大学研究知財戦略機構特任教授
本永 浩之	2024年7月1日～	株式会社沖縄電力 社長

	2027 年 6 月 30 日	
カミラ・ムスタフィ ーナ	2023 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日	マサチューセッツ工科大学生物工学部 博士研究 員
長浜 善巳	2015 年 2 月 19 日～ 2026 年 10 月 31 日*	恩納村村長
エイミー・シェン	2022 年 10 月 1 日～ 2026 年 9 月 30 日*	沖縄科学技術大学院大学 プロボスト
田中 信明	2014 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日*	元国連本部事務次長 ガイアコンタクト CEO
照屋 義実	2022 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日	前沖縄県副知事
臼井 彩香	2023 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日	バルセロナ大学宇宙科学研究所（ICCUB）博士研 究員
山崎 秀雄	2014 年 11 月 1 日～ 2026 年 10 月 31 日*	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系教授
成田 信治	2024 年 2 月 1 日～ 2026 年 1 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学副学長（人事担当）

\*理事兼任者

\*重任 \*\*再任

## II. 業務実績報告

別紙「令和 6（2024）年度業務実績報告」のとおり。

令和 6 (2024) 年度

# 業 務 実 績 報 告

自 令和 6 (2024) 年 4 月 1 日

至 令和 7 (2025) 年 3 月 31 日



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
令和 7 (2025) 年 3 月 31 日				
第 1 章 教育研究に関する事項				
1.1 博士課程 目標 (1)	科学分野における世界トップレベルの教員の英知と最先端の研究機器を最大限に活用し、学生に対して傑出した学術プログラム及び研究トレーニングを提供します。			A
1.1 博士課程 取組 (1)	<p>(研究トレーニング)</p> <p>1101 学生が最先端の科学分野で授業や研究に必要なトレーニングに専念できるよう、授業やメンタリング、研究指導、試験等に関する事務手続を補助し、博士課程において優秀な成績をおさめられるよう支援します。</p> <p>1102 世界トップレベルの学園外研究者や外部試験官と関わる機会を提供し、博士課程における学生の研究機会拡大と成果向上を図ります。</p> <p>1103 学生が十分かつ適切な研究施設や設備の利用とITサポートを確実に受けられるように調整を図ります。</p> <p>(カリキュラム)</p> <p>1104 準正課プログラムを含めたカリキュラムの深化・発展に向けて、多様な授業科目の増設及び厳選を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学生による論文掲載数</li><li>・ 学生による学外の奨学金獲得件数</li><li>・ 論文計画書と学位論文の審査回数</li><li>・ 博士課程修了者数</li><li>・ 教員 1 人あたりの平均学生数</li><li>・ 主要授業科目数</li><li>・ 主要科目以外の授業科目数（ミニコース及びキャリア開発のための活動）</li><li>・ 学外授業の受講に対する単位付与数</li></ul>	<p>(研究トレーニング)</p> <p>1101 学術・研究トレーニングを促進し、プロセスと内容の見直しを継続して行いました。</p> <p>1102 機関協定による外部指導などを通して、学生が世界トップレベルの研究者と関わる機会を提供しました。外部試験官の任命を含む博士論文審査手続きのサポートを継続して行いました。</p> <p>1103 学内外の優れた研究施設や備品を備えた教育環境を提供しました。</p> <p>(カリキュラム)</p> <p>1104 博士課程の学生向けの教育課程の開発を行いました。新しく採用された教員や変化する優先事項に対応すべく、新たに 8 科目を導入、6 科目を廃止し、教育課程の改善を図りました。当該年度は、計 75 の選択科目を学生に提供し、さらにプログラミングや純粋数学論、神経科学ツールの使用、科学者向けの個人金融戦略など、修了単位に含まれない 13 のミニコースも提供しました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>1105 オンラインコースを含め、様々な授業形態の導入と支援を推進します。</p> <p>1106 カリキュラムの見直しを行い、受講時期や内容の最適化を図り、教育の更なる効率化を進めます。</p> <p>1107 教育リソースの開発と教育・学習への取組を改善することにより、より質の高い学習体験を学生に提供します。</p>	<p>・ リサーチ・インターンの人数</p>	<p>1105 通常の選択科目では提供しない分野について、教員の指導のもと自主研究を行う機会や海外の著名なワークショップやサマースクールへの参加機会を提供しました。また、専門性のさらなる向上のため、オンライン学習プラットフォームを提供しました。</p> <p>1106 当該年度は、教員で構成される専門分野別のワーキング・グループの助言に基づき、教員の新規採用・退職に伴うカリキュラムの変更を行いました。</p> <p>1107 研究科職員を対象に、教育に関する研修機会を提供しました。また、一貫した専門性の高い教育水準を維持するため、学生から授業に対する評価を受け、それをもとに教員と見直し、さらなる発展のための協議を行いました。新しく採用された教員による授業科目の構築や授業のサポートを行いました。</p>	
	<p>(リサーチ・インターンシップ)</p> <p>1108 潜在的な研究能力が高い優秀な学生に対して、リサーチ・インターンシップ・プログラムの履修機会を提供します。</p>		<p>(リサーチ・インターンシップ)</p> <p>1108 リサーチ・インターンシップの機会を提供しました。4月と10月の2回の応募期間を通して7,000以上の応募があり、45名をインターン生として受け入れました。</p>	
1.1 博士課程 目標 (2)	学生個々のニーズを理解し、学修ならびに個人及びプロフェッショナルとしての成長を力強くサポートします。			A

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
1.1 博士課程 取組 (2)	<p>(学生支援)</p> <p>1109 学生が学業に専念できるよう、転居手続、渡航準備、住居、語学支援、緊急時対応、経済的支援など、学生のニーズに応じて多様で柔軟な支援を提供します。</p> <p>1110 学生に安全で健全な環境を提供するため、学生が抱える問題の早期発見を積極的に推進し、全学的な連携を円滑に進めるとともに、学生とのコミュニケーション向上を図るなど、包括的な支援体制を講じます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロフェッショナルキャリア開発に関する取組の件数とその内容</li> <li>・ 博士課程学生の定着率及び卒業までに必要な時間</li> </ul>	<p>(学生支援)</p> <p>1109 移転や出張などの幅広いサポートを提供するとともに、学生自身が行う必要がある手続き（行政 手続き等）に関する専門的なアドバイスや指導も継続して行いました。さらに、個別相談、代理行政申請手続き、各種調整、緊急時の支援（経済面及び身体・精神面）、語学サポートも提供しました。</p> <p>1110 個別の相談に応じ、解決策や必要なサポートを迅速に提供するなど、学生の福利厚生と学業の両面から積極的に支援しました。また、保健センターやがんじゅうサービスとも連携しつつ合理的配慮 のフローについても考案し、必要に応じて情報共有を行いました。</p>	
	<p>(プロフェッショナルキャリア開発)</p> <p>1111 多様なキャリア形成の機会に備え、プロフェッショナルキャリア開発プログラムの提供を通じて学生の進路選択を支援します。</p>		<p>(プロフェッショナルキャリア開発)</p> <p>1111 学生が専門的な能力を開発しキャリアを形成（PCD）する機会を提供することを目的に、当該年度は関連イベントを 76 件実施しました。幅広いキャリアの選択肢に備えられるよう PCD プログラムを強化し、多彩な機会を提供しました。</p> <p>&lt;主なイベント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- OIST キャリアフェア（新規）</li> <li>- 企業訪問（新規）</li> <li>- 単位認定される産業インターンシップ（新規）</li> <li>- 九州大学での教育研修（新規）</li> <li>- 学内外の共同によるアカデミックキャリア講演会</li> <li>- 日本学術振興会に特化した助成金申請ワークショップ（一般的な内容を本学学生向けにカスタマイズして提供）</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>1112 プロフェッショナルキャリア開発プログラムを専門的能力開発に関する全学的な取組体制の中に組み込み、職員及び学生の成長、ひいては沖縄を含めた日本全体の発展につなげていきます。</p> <p>1113 キャリアの初期段階にある学生に対して、会議やワークショップの開催、他の研究機関への訪問、キャリアイベントの実施、学園外講演者の招聘を含むネットワーク構築の機会を提供し、若手研究者として活躍できるよう支援します。</p> <p>1114 学生に対して外部資金獲得等の公募情報を提供し、情報管理、申請書類の書き方、面接対策、申請に関する明確なガイダンスの提供を含む一連の申請手続を</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 科学論文執筆の指導</li> <li>- サイエンス・コミュニケーション・ワークショップ（新規）</li> <li>- チーム・コミュニケーション・ワークショップ（選択制から必修性に変更）</li> <li>- 起業・スタートアップセミナー</li> <li>- 一般向け研究発表の機会を含むプレゼンテーションワークショップ（新規）</li> <li>- リーダーシップ基礎ワークショップ（新規）</li> <li>- 修了生との交流の機会</li> </ul> <p>1112 学内の関連部署と協働し、イノベーションや広報・コミュニケーションに関する専門的能力を形成する機会を提供しました。</p> <p>1113 キャリアフェア、企業訪問、産業インターンシップ、国内の大学での教育研修、OIST 理論科学客員プログラム (TSVP) フェローによるキャリアトーク、国内外の機関からの MBA インターンとの交流などの新たな試みを含む 16 のネットワーキングイベントを開催しました。昨年度と比べ、企業説明会への参加企業が 4 倍に増加し、学生に対してより良いネットワーク構築の機会を提供しました。</p> <p>1114 学生が日本学術振興会特別研究員の申請を進める上で役立つサポートとして、応募フローや申請書作成のワークショップを開催し、関連情報を適時適切に提供</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>支援します。</p> <p>1115 学生に対して国内及びグローバル社会の発展に資する研究成果の実用化に必要なスキル習得機会を提供します。</p> <p>1116 コミュニケーション等の知的スキルを習得・強化するためのトレーニングを学生に提供します。</p> <p>1117 沖縄を含む国内の他大学との交流機会（学生交流、ネットワーク構築、教育経験等）を学生に提供します。</p>		<p>しました。また、Google 奨学金、日本学術振興会育志賞、T.バナージ・インディアン学生奨学金、戸部眞紀奨学金、平和中島財団奨学金など外部資金の申請をサポートしました。</p> <p><a href="#">添付資料 1.1-1 外部の奨学金等を獲得した学生数</a></p> <p>1115 プロフェッショナルキャリア開発 (PCD) の一環として、地域社会と連携し、科学的知識を応用して社会ニーズに応え、好影響を与えることを目指しのグループ・プロジェクトを実施しました。当該年度は、56 名の学生が 11 のグループに分かれて行いました。</p> <p>1116 すべての学生に、ビジュアル・コミュニケーション研修を含む 11 のコミュニケーション関連の研修機会を提供しました。また、一般向けプレゼンテーションの機会を 3 回提供しました。</p> <p>1117 プロフェッショナルキャリア開発 (PCD) プログラムの一環として、総合研究大学院大学でのキャリアトークセミナー、九州大学での教育研修、博士人材育成コンソーシアム (CCDP) 内での共同イベントなど、国内の大学と交流する 16 の機会を提供しました。また、九州大学と合同で行った「研究企画セミナー」、沖縄地域留学生交流推進協議会が主催する留学生親善交流会、大学コンソーシアム沖縄が開催した 10 周年記念学生サミットへの参加を促し、他大学の学生と交流する機会を継続して提供しました。</p> <p><a href="#">添付資料 1.1-2 学術交流協定一覧</a></p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
1.1 博士課程 目標 (3)	沖縄、日本、世界との相互利益を促進するために、他の教育機関や地域社会とのさらなる連携・協働を図ります。			A
1.1 博士課程 取組 (3)	<p>(学生の連携)</p> <p>1118 リサーチ・インターンや特別研究学生、共同研究指導、スタディ・リープ（他教育・研究機関における技術・知識習得期間）を含めた多様な交流機会を促進し、他大学との協働関係の維持・拡大に努めます。</p> <p>1119 沖縄県在住の学生や沖縄県にゆかりのある学生に対して学園の知名度向上を図るために、様々なワークショップやイベントを開催し、博士課程及びインターンシップ・プログラムへの応募につなげていきます。</p> <p>1120 個々の学生が沖縄との結びつきを強め、相互利益関係を強化していけるよう沖縄の環境や地域に密着した交流活動の充実・推進を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外からの博士課程志願者数</li> <li>国内外からの博士課程入学者数</li> <li>リサーチ・インターンシップ・プログラム応募者数</li> <li>受け入れたリサーチ・インターン生の数</li> <li>交流機会に係る他大学との協定締結数</li> <li>「高校訪問プログラム」への参加者数</li> </ul>	<p>(学生の連携)</p> <p>1118 学生の研究成果を向上させるため、共同研究指導を促進し、また、他大学との協働関係の維持や新たな協定を締結することで、より一層の関係拡大に努めました。</p> <p>1119 沖縄県内の高校生 27 名を招待し、島の持続可能性について学ぶワークショップ「SHIMA」(2024 年 8 月)を開催しました。また、沖縄県立向陽高等学校、球陽高等学校、開邦高等学校を訪問し、科学講義を行いました。また、学生募集活動の一環として、毎年恒例の「OIST サイエンスチャレンジ 2025」(2025 年 3 月開催)を開催し、国内から合計 25 名の大学生（沖縄県出身者 2 名を含む）を招待しました。</p> <p>1120 プロフェッショナルキャリア開発 (PCD) プログラムの一環として、グループ・プロジェクトや博士論文に関する一般向けプレゼンテーションを行い、地域社会と関わる機会を提供しました。</p>	
	<p>(学生募集活動)</p> <p>1121 多様なバックグラウンドを有する世界トップクラスの優秀な学生を獲得するため、募集活動の多様化を進めます。博士課程及びリサーチ・インターンシップ・プログラムを提供します。</p>		<p>(学生募集活動)</p> <p>1121 リサーチ・インターンシップ・プログラム及び博士課程プログラムへの応募を促進するため、当該年度は以下の学生募集活動を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OIST ネットカフェ（オンライン説明会 3 回）</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>1122 研究科オフィス主催行事参加者に関する情報を維持管理します。</p> <p>(科学教育アウトリーチ活動)</p> <p>1123 学園のブランド力向上を図り情報発信を強化し、大学院大学の教育プログラムに関する認知度を高め、募集対象者の関心を惹きつけます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>- 世界中から 220 名以上が参加登録。</li> <li>- OIST カフェ（東京における対面式の説明会）国内の大学生 38 名が参加。</li> <li>- 国内の大学生を対象とした対面式の説明会。</li> <li>- OIST サイエンスチャレンジ 2025 ワークショップ 国内の学部生及び修士課程の学生 25 名が参加</li> </ul> <p>これらの取り組みもあり、リサーチ・インターンシップ・プログラムに 7,000 名以上、博士課程の応募に 1,100 名を超える応募がありました。</p> <p><b>添付資料 1.1-3 学生に関する情報</b></p> <p>1122 新しい出願プラットフォーム「Slate」の導入により、博士課程やリサーチ・インターンシップ・プログラムの応募者だけでなく、OIST カフェ、サイエンスチャレンジ、その他のワークショップやイベントなど、すべての学生募集活動に関する情報を収集できるようになりました。これにより、入学希望者との過去のやり取りを把握し、今後の学生募集イベントをより効果的に計画・構築することが可能になりました。</p> <p>(科学教育アウトリーチ活動)</p> <p>1123 本学で実施している博士課程やリサーチ・インターンシップ・プログラムに関する情報をウェブサイトに掲載するだけでなく、関心のある登録者全員に、隔月で学生の成功事例や申請等のリマインド情報のほか、イベント情報を含むニュースレターを配信しました。また、本学のプログラムについて最新の情報を提供するた</p>	



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
	<p>1124 スーパーサイエンスハイスクール指定校や理系コースを有する学校をはじめ、地域や全国の STEM 分野に関心のある中高生を対象に、学校訪問プログラムや科学教室、ワークショップなどのさまざまな活動を行います。</p> <p>1125 科学教育アウトリーチ活動を通じて、コミュニケーションや情報共有を強化することにより、中高生の OIST の活動への参画を強化します。</p>		<p>め、広報資料を更新し、入学希望者や来訪者に配布しました。</p> <p>本学の戦略や取り組みの周知、広報のため、大学パンフレット（日英）を作成しました。</p> <p>1124 スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校を対象とした SEED プログラムを合計 23 回実施し、全国から 27 校 1,655（沖縄県内から 3 校 845 名）名の学生を受け入れました。</p> <p>その他、将来研究者を志す人材の育成や、STEM 教育の関心を高めるため、学校訪問やサイエンスクラス、ワークショップなどを実施しました。</p> <p>1125 国内の高校生向けのアウトリーチ活動に加え、恩納村立うんな中学校の科学部を対象に、講演や授業を行いました。</p> <p>LINE をはじめとする情報共有チャネルを活用し、イベント情報の発信を定期的に行うことでアクセス数の拡大を図りました。さらに、地域のラジオ局や新聞等メディアと連携し、広報活動を強化しました。</p>	
1.1 博士課程 目標 (4)	大学院大学の成長に合わせて、研究科オフィス機能の業務効率化、記録・方針のキュレーション（情報収集・整理）、コミュニケーションの改善を一貫して行います。			A
1.1 博士課程 取組 (4)	<p>（方針・プロセス管理）</p> <p>1126 学園内の方針、規則、及び手順の改定を恒常的にを行い、教員や学生と協力しながら博士課程の運営における効率性と有効性の向上を図ります。</p>	・学生及び教員とのミーティング件数とその内容	<p>（方針・プロセス管理）</p> <p>1126 教員、教授会、カリキュラム審査委員会、学生評議会と協議、協力し、方針や規則を見直しました。</p>	



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	1127 規則・制度等の変更について、その管理と内外に向けた伝達の改善を図ります。		1127 規則・制度等の変更について、各事項に係る関係者が事前に最新情報や説明を受けられるようにしました。	
	1128 学生に関する情報記録管理体制の改善と、縦断的データの集約・分析・可視化を推進します。		1128 データの収集、可視化、分析などの記録管理の点で改善された学生情報データベースを開発しました。	
	(業務効率化とプロセスの再構築) 1129 ワークフローとプロセスの再編及び関連ソフトウェアの導入により、業務の効率・能率向上を目指します。		(業務効率化とプロセスの再構築) 1129 データの自動記録とオンライン承認を含むワークフローの開発により、職員の作業負担を軽減しました。	
	1130 個々の職員の能力開発計画を策定し、専門的な能力開発や自己成長のための研修、その他の機会を提供し、職員の成長を支援します。		1130 オンライン教材の利用を含め、就業時間の最大5%を個人の能力開発に費やすことを奨励しました。	
	(コミュニケーション) 1131 相互理解の促進ならびにサービスの質向上に向け、学生、教職員、及び関係部局間の柔軟なコミュニケーションの継続的な促進を図ります。		(コミュニケーション) 1131 正規学生とリサーチ・インターンを対象に日本の法律や学生規範、滞在中の規律を説明するオリエンテーションを定期的に開催しました。改善された学生データベースを活用し、学業の進捗管理の強化を図り、また教職員と学生間の対話の機会を創出し活発なコミュニケーションを促進しました。	
	1132 研究科オフィスのウェブサイト充実させ、入学希望者や学外に向けた情報発信力の強化を図ります。		1132 研究科のすべてのウェブページを精査・再評価し、より理解しやすい新しいウェブサイトの作成を行いました。	
1.2	世界最高水準の学際的な研究を推進します。学生、ポス			A

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
研究活動に関する事項 目標	<p>ドク、その他教職員を含む多様な国際的研究者コミュニティを育成し、基礎および応用研究を通じて新しい知見を生み出します。また、様々な国や地域から集まった学生・ポスドク等に対し教育訓練を実施します。相互の連携を促す環境の整備、最先端の設備・機器の提供およびサポート、ならびに定期的に実施される厳格なピアレビュー等により、優秀な教員や学生、研究員を奨励し、研究力を高めるよう支援します。引き続き、重要な発見につながり、社会のニーズに応え、社会に有益でインパクトのある基礎的・応用的な研究を推進します。さらに、令和 5 年度に採択された文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」等を組織的に推進することにより、更なる研究力向上を目指します。</p>			
1.2 研究活動に関する事項 取組	<p>(学際的研究の促進)</p> <p>1201 新規ユニット立ち上げを支援します。</p> <p>1202 教員のジェンダーバランスを改善するために、女性教員の採用に取り組みます。</p> <p>1203 教員による昼食時間を利用した講義を、学内全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究者の数（教員、ポスドク、技術者及び学生）</li> <li>研究評価に関するサンフランシスコ宣言（DORA）に基づく内部質保証の基準による研究成果の評価</li> <li>複数教員による共同出版数</li> <li>研究に関する受賞数</li> </ul>	<p>(学際的研究の促進)</p> <p>1201 6つの新規ユニットの立ち上げを支援しました。関連部署と連携して立ち上げに係るプロセスを改善し、必要な手順や新規教員が要請したリソースの利用可能性精査・確認を行いました。</p> <p>1202 教員採用委員会（ファカルティ・サーチ・コミッティー）及び全教員を対象とし、教員のジェンダーバランスの改善並びにダイバーシティの向上に関する研修を実施しました。教員の公募においては、女性や少数グループからの応募を増やすため、締切りを延長するなどした結果、新規教員 6 名のうち 4 名が女性となりました。</p> <p>1203 教員が自身の研究を互いに紹介する内容のファ</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
<p>のセミナーシリーズへと拡大し、異なる分野のユニット間の交流を促進し学際的な研究につなげます。</p> <p>1204 図書館は電子リソースを積極的に収集し、必要なコンテンツにリモートアクセスできるようにするとともに、学術情報を効率的に検索するためのインフラを整備します。</p> <p>1205 国内の他大学との共同研究の強化と、本学園では補えない研究分野の学生の指導向上を目的として、他大学連携教員による授業や学生指導を実施します。</p> <p>(研究活動の支援)</p> <p>1206 コアファシリティ（共用研究施設）の効率的な運用や専門的な人材の育成に努め、研究者が世界最高水準の学際的な研究を推進できるよう、その利用促進に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究助成金の獲得数と金額</li> <li>学園研究施設の学園外利用者数と金額</li> <li>コアファシリティ担当部署、プロボストオフィス及び研究担当ディーンオフィスが主催した科学会議の数(回数、参加者数)</li> <li>コアファシリティを使用して行った共同研究の数(数、訪問者数)</li> <li>コアファシリティを使用して、学園外の研究者・学生に実施したトレーニングコースの数(数、参加者数)</li> </ul>	<p>カルティ・リトリートを実施しました。また、隔月開催のファカルティ・フォーラムで研究発表する取組みを新たに開始しました。その他、教員だけではなく、研究員や学生が研究発表を行う学内セミナーシリーズ、他大学との学際的なシンポジウムやワークショップシリーズを開催しました。複数の取り組みを通じて異なる分野やユニット間交流を促進し、学際的な研究を推進しました。</p> <p>1204 世界最大の書誌データベースと国内の図書館システムを連携し、利用者に検索ツールと貸出サービスを提供しました。電子リソースの充実にも力を入れ、電子ジャーナル 7,240 誌、電子書籍 197,549 冊へのアクセスを提供しました。</p> <p>1205 連携教授による当該年度の講義の担当はありませんでした。来年度は連携教授の専門分野を活かしたより自由度の高い講義や、東京でのアウトリーチやプロモーション等の活動を行う予定です。現在、本学と提携機関は、両機関の強みを生かした、より実りある協力体制とすべく、最終調整中です。</p> <p>(研究活動の支援)</p> <p>1206 コアファシリティ（共用研究施設）を学内外に提供しました。ウェブサイトへの最新情報の掲載やパンフレットを作成することで、利用者に対しコアファシリティの特性をより効果的にアピールできるようにしました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>1207 世界最高水準の研究力を更に強化するためのコアファシリティの整備を継続します。</p> <p>1208 研究倫理のさらなる向上に向け、研究倫理に関する専門家を招聘し、研究倫理セミナーを開催するなど、研究倫理教育の徹底に努めます。</p> <p>1209 教員、研究者、学生への外部研究資金申請・管理に関する支援を強化し、公募情報についても継続して情報入手、学園内に配信します。また、共同研究を促進するための支援プログラムを提供します。</p> <p>1210 令和 4 年度に文部科学省「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」で採択された「心・体・環境の健康」を基盤とした持続可能型社会を実現するグローバル・バイオコンバージェンスイノベーション拠点にお</p>		<p>効率性向上のため、機器の購入に係る複数の会議体を 1 つに統合し、透明性の高い手順で選定を行いました。</p> <p>1207 第 5 研究棟ではクラス 1000 のクリーンルームに必要なリソグラフィ、エッチング及び成膜装置を設置され、高性能な施設となり本格稼働しました。新しい透過型電子顕微鏡の設置が完了し、当該分野において最先端な施設となりました。</p> <p>1208 すべての研究員に対し、オンライン必須研修として「責任ある研究行為」を、大学院生に対しては、C ハブエグゼクティブディレクターによる研究倫理教育を必須研修として提供し、その理解の徹底に努めました。さらに、研究インテグリティのセミナーを開催しました。</p> <p>1209 外部研究資金公募情報は研究者及び関連事務部門と共有し、申請準備に係るセミナーや勉強会、コンサルテーションを実施しました。特に科研費については新規採択者向けに必要な事務処理の流れを説明するセミナーを開催し、科研費取り扱いに関わる研究者及び事務系職員向けセミナーを開催しました。また、共同研究を促進する学内研究助成金「SHINKA」の新規公募を行いました。</p> <p>1210 当該プロジェクトについて、科学技術振興機構 (JST) による実地調査及び評価面談で、一定の評価を得ることができました。</p> <p>同プロジェクトについては、当該年度より首席副学長の</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>る研究開発プロジェクトを着実に推進します。</p> <p>1211 政府が掲げる「量子未来社会ビジョン」（令和 4 年 4 月統合イノベーション戦略推進会議策定）に基づき、「量子技術イノベーション拠点」の体制強化を担うため開設された「OIST 量子技術センター」において、国際的な環境の下で、学際的な研究とイノベーションを推進していきます。</p> <p>1212 コアファシリティの学園外利用を促進し、外部資金の多様化を図る他、国内外のコアファシリティネットワークを強化します。</p>		<p>下で行うべく、運営体制を再編しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- プロジェクトリーダーに北野宏明教授、副プロジェクトリーダーにプロボスト エイミー・シェン教授を配置。</li> <li>- マネジメント強化を目的として、アドバイザリー・ボードを設置。</li> </ul> <p>1211 OIST 量子技術研究センターは、「量子未来社会ビジョン」に基づき、国際的な環境の中で学際的な研究とイノベーションの推進に努めました。根本香絵教授と本学の他の主任研究者によって、産学連携による量子人材の育成を目的とした「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」を推進しました。</p> <p>1212 コアファシリティの 5 つのセクションを外部利用に開放しました。</p> <p>これにより、外部利用における業務フローを評価し、必要な改善を行うことができました。</p> <p><b>添付資料 1.2-1 令和 6 年度 OIST 研究施設学外利用者</b></p>	
<p>（研究内容・成果の発信・公表）</p> <p>1213 教員が重要かつ新しい研究結果を発表した場合、学園の広報ディビジョンに連絡するよう教員に勧めます。文部科学省を含む政府機関への提出資料を含め、最も重要な学園の研究成果については、ネイチャーインデックスや同様の比較研究データを用いて記録をまとめます。ウェブサイトにて学術誌に発表された論文に関するニュースを掲載します。また機関レポジトリへの論文登</p>		<p>（研究内容・成果の発信・公表）</p> <p>1213 プレスリリースや記者会見、ソーシャルメディアなどを活用し、主要な研究成果を発信しました。また、機関レポジトリへの論文登録を促し、その保存・公開に努めたほか、「教員活動データベース」を活用し、教員の活動記録を集約しました。</p> <p><b>添付資料 1.2-2 OIST 論文・発表数</b></p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>録にも力を入れます。</p> <p>1214 学園について、ウェブサイト記事、プレスリリース、記者会見、記者懇談会、出版物や電子ニュースレター、ソーシャルメディア、幹部によるコミュニケーションや注目を引くような情報発信の機会等を活用して、国内外の科学学術関係者、一般への分かりやすい情報発信に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 効果的なメディア戦略を実施し、最新の科学成果に関するプレスリリースや記事、幅広い層が興味を持つ活動について、新規及び既存のルートを通じて沖縄県内や国内外のメディアに向けて配信します。</li> <li>- 国内の他学術機関と協力してグローバルなネットワークを維持し、国内外の科学広報分野での貢献を高めます。</li> <li>- ソーシャルメディアやその他のデジタルチャネルを引き続き強化していきます。</li> </ul>		<p>1214 研究・教育・イノベーションを含む本学に関する情報を多様なチャネルを通じて積極的に発信するとともに、ネットワークの拡大と強化にも努めました。当該年度は、これまでの情報発信が実り、インパクトのある全国メディアに複数回掲載され、またグローバルメディアにも取り上げられるなどしました。</p> <p>記事掲載実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 英語記事：109 本</li> <li>- 日本語記事：111 本</li> </ul> <p>記者会見・メディア取材・打合せ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 合計 109 件</li> </ul> <p>主なメディア掲載実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「1 億人の大質問!? 笑ってコラえて！」（日本テレビ、2024 年 4 月） 研究紹介や学生インタビューを含む、OIST の特集としては 3 回目の放送。</li> <li>- 「世界の何だコレ!? ミステリー」（フジテレビ、2024 年 10 月） 研究者・職員・学生へのインタビューを通して OIST を紹介。</li> <li>- 「TBS テレビ SDGs 特番」（TBS テレビ、2024 年 5 月） 子役タレントが本学の教授たちと交流し、研究内容</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
		<p>を学ぶ企画。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 日本経済新聞（2024 年 9 月） マルキデス学長のインタビューを通じて、新たな戦略を紹介する特集記事を掲載。</li> </ul> <p>グローバルメディアへの波及：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 革新的な磁気浮上技術（トゥワムリーユニット） 世界 320 以上のメディアに掲載</li> <li>- EUV リソグラフィ技術（新竹 積 教授） 国内外の複数メディアにおいて 130 回以上掲載地域</li> </ul> <p>メディアとの連携：</p> <p>沖縄に関連する研究成果やイベント情報を積極的に地元メディアへ発信し、テレビや新聞で頻繁かつ詳細な報道が行われました。一部の記事は全国紙にも取り上げられました。</p> <p>サイエンス・コミュニケーションの取り組み：</p> <p>日本におけるサイエンス・コミュニケーション能力の向上に寄与すべく、さまざまな関連イベント等において積極的に主導する役割を担いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 九州大学と共同で「Japan SciCom Forum」を開催： 国内のサイエンス・コミュニケーションネットワークを強化。</li> <li>- 科学技術広報研究会（JACST）副代表に選出： 本学職員が、全国の研究機関・大学の広報担当者によるネットワーク「JACST」の副代表に就任。</li> </ul>	



令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>1215 学園の発展や成功に教職員及び学生が貢献できるよう、進捗状況や課題、達成状況について学内での情報周知を行う学内コミュニケーションチャンネルを強化していきます。</p> <p>1216 学術的地位をより強固なものとするために、国内外の研究者等との遠隔会議やセミナー等を円滑に遂行できるよう、教職員及び学生に対して充実した技術支援と適切なマニュアル及びトレーニングを提供します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 国連大学（東京）で「Science + Art: Creatively Communicating Research」セッションを開催： 国連科学サミットの一環として実施。大学、大使館、メディア、研究機関から約 40 名が参加</li> <li>- 科学広報の合同研修を実施： 九州大学、北海道大学、大阪公立大学及び本学の 4 機関が連携し、サイエンス・コミュニケーション力の強化を目的とした研修を実施。</li> </ul> <p>1215 学内広報活動を通じて、教職員や学生に向けた情報発信を強化し、学内コミュニケーションの充実を図りました。イントラネットやキャンパス内のデジタルサイネージの維持・更新、週 1 回の「OIST ティータイム」の拡充、年間を通じた毎週月曜日のニュースレター「OIST Essentials」の発行のほか、大学全体を対象としたエンゲージメント調査を企画・実施しました。この調査をもとに、エンゲージメント・アクションプランを策定しました。また、学長と幹部職員が学内コミュニティと対話するタウンホール・ミーティングを 2 度開催し、学長コラムを月次で発信するなど、学生や教職員への情報共有、双方向コミュニケーションの強化を図りました。</p> <p>1216 14 の遠隔会議やセミナー等を円滑に遂行できるよう支援しました。会議は、現地開催とオンライン開催の両方で行われたため、ライブストリーミングについての支援や主催者向けのトレーニングを行いました。 72,000 時間以上のオンライン会議が問題なく実施され</p>	



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
			ました。	
<b>1.3 教員関係 目標</b>	卓越した学識と独創性のある研究を行い、学際的な研究に興味を持つ優れた能力を有する、全てのレベルの教員の採用活動を行います。また、教員評価、教員関連のミーティング、研究ユニットのスペース配分、研究者の採用や人事管理を行います。更に、教員や研究員のキャリア開発プログラムやビジタープログラムなど、卓越した研究基盤強化のための活動を推進します。大学図書館、及びその他教員や研究員に関連する事項も推進します。また、全職員にキャリア開発プログラムを提供するとともに、学園内の全研究データの適切な記録・管理の徹底に取り組みます。			<b>A</b>
<b>1.3 教員関係 取組</b>	（教員の採用） 1301 予算と研究スペースを考慮しながら戦略的な採用活動を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究評価を実施した研究ユニット数</li> <li>・ テニユア審査及び昇進審査の数</li> <li>・ 機関レポジトリへの論文登録数</li> </ul>	（教員の採用） 1301 当該年度は、本学の強みや今後の成長を加味し、戦略的に設定した「数理科学」及び「エネルギーや持続可能性に関連した科学全般」の2分野で採用活動を実施しました。また、予算や利用可能な研究スペースについて、学内で検討し、未使用スペースの把握を徹底し、効率的な割当が適時適切にできるよう努めました。	
	（教員・研究評価の実施） 1302 国際的に高い水準において、教員評価（ユニット審査、昇進審査及びテニユア審査）を実施します。  1303 6名の教員のテニユア審査、1名の教員の昇進審査を実施する予定です。		（教員・研究評価の実施） 1302 国際的に高い水準において、外部の評価者による教員評価を行いました。  1303 6名の教員のテニユア審査を実施しました。昇進審査においては、1名の教員のケースが現在進行中で、翌年度（令和7年度）に完了予定です。	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>1304 16 の研究ユニットの審査を実施する予定です。</p> <p>1305 業績評価は、教員担当学監（必要であればプロボスト）が教員の研究、教育活動、大学行政サービスへの貢献、また外部資金の獲得などの項目について評価を行い、給与及びその他のリソースに反映させます。ただし（大学としての総計値とは異なり）、教員の個人的業績評価は学園外には公表されません。さらに教員が研究結果や研究活動について、ウェブサイトや年次報告書に掲載するよう、教員に働きかけます。</p>		<p>1304 学外審査委員会により、12 件の研究ユニットの審査（通常のユニット審査及びテニユア審査に関連するユニット審査を含む）を実施しました。4 件については次年度へ変更または契約終了、定年退職等や短期の契約延長等によりユニット審査を実施しませんでした。</p> <p>1305 年次の業績評価として教員の研究、教育活動、大学行政サービスへの貢献及び外部資金などの項目を評価しました。新しく導入された「教員活動データベース」により、多くのデータを収集し各教員の年次報告書をより効率的に作成しました。</p> <p>添付資料 1.3-1 令和 6 年度研究に関する受賞実績 添付資料 1.3-2 令和 6 年度アウトリーチ活動実績</p>	
		<p>（研究成果レポート）</p> <p>1306 オープンアクセス推進の取組を強化し、機関レポジトリへの登録論文数の増加を図ります。</p>	
		<p>（シニアレベルの教員の任用と定年）</p> <p>1307 定年を超えても研究延長に相応しいと認められ、かつ学長から申し出があった教員は厳格な審査を経て、研究の継続を検討します。</p>	
		<p>（教員の能力開発）</p> <p>1308 令和 4 年度に設立した学園内の能力開発とキャ</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>リア支援を一元的に行う C ハブ (キャリアセンター) では、教員に研修プログラム、ワークショップ、リソース、個別カウンセリングを提供し、リーダーシップや管理能力、メンタリング、コミュニケーション、コラボレーション等の強化に取り組みます。</p>		<p>環として、管理能力、メンタリング、コミュニケーションなどのベスト・プラクティスをまとめた「C ハブ・スポットライト」を発行しました。電子及び紙媒体で学内のみならず一般にも幅広く公開しました。</p> <p>より公平・公正な採用となるよう、全教員を対象に「無意識のバイアス」研修を実施しました。また、指導法及びコースデザインのブートキャンプ (短期集中型研修) を教員、学生、研究員及び国内の他大学の教員に提供しました。</p>	
<p>(学生・研究員・事務職員の能力開発)</p> <p>1309 C ハブでは、教員のほかに、学生、研究員、事務職員の能力開発に取り組むため、リーダーシップ、管理能力、その他のスキル開発のための研修プログラムを提供します。科学分野の女性研究者・教員の増加を目的とした、若手女性研究者のためのリーダーシッププログラムを開始します。</p>		<p>(学生・研究員・事務職員の能力開発)</p> <p>1309 指導法及びコースデザインに関する研修を提供しました。事務職員、学生、研究員を対象に、キャリア設計やライフ・プランニングに関する新たなワークショップシリーズ「セルフリフレクション」を開始しました。また、指導法及びコースデザインのプログラムは1週間の短期集中型で行うブートキャンプを実施しました。研究グループを率いる若手研究者向けのリーダーシッププログラムを提供しました。</p>	
<p>(アルムナイネットワーク (OAAN))</p> <p>1310 アルムナイ・アソシエーションネットワーク (OAAN) プラットフォームを活用し、在籍中の学生や職員が本学の同窓生や関係者と継続的に交流できる取組を行います。OAAN を通じて科学セミナー、ネットワークイベント、能力開発ワークショップやメンタリングプログラムを実施します。</p>		<p>(アルムナイネットワーク (OAAN))</p> <p>1310 OIST コミュニティの研究者・学生と同窓生間の交流を促進するために、アルムナイ・ワークショップを開催しました。同窓生とのネットワークを構築するために、常勤の「修了生ネットワークスペシャリスト」が着任しました。また、OAAN プラットフォームとして、本学の修了生を招待した LinkedIn グループを立ち上げました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
1.4 世界的連携 目標	他大学や研究機関との合同シンポジウムやワークショップの開催、インターンの受入れ等を通じて、世界及び国内の科学コミュニティとの緊密なネットワークを構築します。先端的な基礎研究及び最優秀の科学者を育成することで社会向上を目指す研究大学院大学として国際的な知名度の向上を目指します。			A
1.4 世界的連携 取組	<p>(世界的連携)</p> <p>1401 沖縄を含む国内の他大学との交流機会（学生交流、ネットワーク構築、教育経験等）を学生に提供します。</p> <p>1402 他大学・研究機関との交流・対話の促進等、ネットワーク強化のための活動に重点的に取り組むとともに、国内他大学におけるグローバル化促進や研究力強化等にも資するような大学連携や取組等を促進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学が主催する国際ワークショップ及びコースの数 (25)</li> <li>・ 国際ワークショップ及びコースの参加者からの感想・フィードバック</li> <li>・ 国際的に競争力のある国内外の大学、研究機関との間で取組んだ新たなパートナーシッププログラムの数及び既存プログラムの拡大数 (15)</li> </ul>	<p>(世界的連携)</p> <p>1401 (1117 再掲) プロフェッショナルキャリア開発(PCD) プログラムの一環として、総合研究大学院大学でのキャリアトークセミナー、九州大学での教育研修、博士人材育成コンソーシアム(CCDP) 内での共同イベントなど、国内の大学と交流する 16 の機会を提供しました。また、九州大学と合同で行った「研究企画セミナー」、沖縄地域留学生交流推進協議会が主催する留学生親善交流会、大学コンソーシアム沖縄が開催した 10 周年記念学生サミットへの参加を促し、他大学の学生と交流する機会を継続して提供しました。</p> <p>1402 パートナー機関とのワークショップ・セミナー、リサーチ・インターンシップ、サマーキャンプの企画・実行に取り組み、国内の大学生や若手研究者に対してグローバルな環境での研究経験、また現地だけでなくオンラインも活用した国際的なネットワークの機会を提供することに努めました。若手教員らが国内他大学との連携活動に尽力し、若手研究者及び学生の学際的・国際的交流の機会を増やしました。海外の研究機関との連携を開始し、国内外の研究機関間の協力体制を強化する取り組みを始動しました。これらの活動は、日本学術振興会</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価										
		<div>による「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に資する取組みとなりました。</div> <table><tr><td>理化学研究所 東京大学</td><td>連携教員 1 名の受入れ <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</li><li>・ 量子マテリアルから量子情報へ：トランススケール量子科学と量子マテリアル創成に関するシンポジウム</li></ul></td></tr><tr><td>大阪大学</td><td>連携教員 1 名（本学から派遣）</td></tr><tr><td>慶應義塾大学</td><td><ul style="list-style-type: none"><li>・ シンポジウム（ハイブリッド 1 件）</li><li>・ 医学部生サマーキャンプ 20 名参加</li><li>・ 長期リサーチ・インターンシップ 5 名受入</li><li>・ 新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</li></ul></td></tr><tr><td>東北大学</td><td>新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</td></tr><tr><td>九州大学</td><td><ul style="list-style-type: none"><li>・ シンポジウム 1 件（オンライン）</li><li>・ 新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</li></ul></td></tr></table>	理化学研究所 東京大学	連携教員 1 名の受入れ <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</li><li>・ 量子マテリアルから量子情報へ：トランススケール量子科学と量子マテリアル創成に関するシンポジウム</li></ul>	大阪大学	連携教員 1 名（本学から派遣）	慶應義塾大学	<ul style="list-style-type: none"><li>・ シンポジウム（ハイブリッド 1 件）</li><li>・ 医学部生サマーキャンプ 20 名参加</li><li>・ 長期リサーチ・インターンシップ 5 名受入</li><li>・ 新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</li></ul>	東北大学	新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。	九州大学	<ul style="list-style-type: none"><li>・ シンポジウム 1 件（オンライン）</li><li>・ 新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</li></ul>	
理化学研究所 東京大学	連携教員 1 名の受入れ <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</li><li>・ 量子マテリアルから量子情報へ：トランススケール量子科学と量子マテリアル創成に関するシンポジウム</li></ul>												
大阪大学	連携教員 1 名（本学から派遣）												
慶應義塾大学	<ul style="list-style-type: none"><li>・ シンポジウム（ハイブリッド 1 件）</li><li>・ 医学部生サマーキャンプ 20 名参加</li><li>・ 長期リサーチ・インターンシップ 5 名受入</li><li>・ 新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</li></ul>												
東北大学	新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。												
九州大学	<ul style="list-style-type: none"><li>・ シンポジウム 1 件（オンライン）</li><li>・ 新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。</li></ul>												

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績		自己 評価
			金沢大学	シンポジウム 1 件 (オンサイト)	
			北陸先端科技大 (JAIST)	シンポジウム 1 件 (オンサイト)	
			奈良先端科技大 (NAIST)	新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。	
			琉球大学	新しい共同研究プロジェクトを促進するため学内研究助成金「SHINKA」を提供した。	
			UK Aging Network	シンポジウム 1 件 (オンサイト)	
			オックスフォード大学 (University of Oxford)	解析と偏微分方程式に関する SLMath-Oxford-OIST サマースークショップ	
			欧州分子生物学機構 (EMBO)	軸索変性および再生に関するワークショップ	
			京都大学	量子極限宇宙：物質、情報、重力 (量子極限宇宙に関する合同ワークショップ)	
フランス国立科学研究センター (CNRS)	OIST-CNRS Joint Symposium on West Pacific Marine Biology (西太平洋海洋生物学に関する国際シンポジウム)				

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>1403 世界をリードする質の高い国際的なコースやワークショップを開催し、学園の学生や若手研究者が最先端の科学を学び、外部の優れた研究者と交流する機会を提供します。</p> <p>1404 潜在的な研究能力が高い優秀な学生に対して、リサーチ・インターンシップ・プログラムの履修機会を提供します。</p> <p>1405 学生が学業に専念できるよう、転居手続、渡航準備、住居、語学支援、緊急時対応、経済的支援など、学生のニーズに応じて多様で柔軟な支援を提供します。</p>		<p>1403 当該年度は、OIST 国際ワークショップを 14 件、うち共催ワークショップを 6 件開催（13 件は対面形式、1 件はハイブリッド形式）し、1,172 名が現地参加、2 名がオンラインで参加しました。当該年度は、参加費として 17,507,948 円を徴収し、各種助成金・協賛費として約 110 万円を獲得しました。また他大学との戦略的パートナーシップに基づくシンポジウムを 5 件、研究ユニット主導による他機関との共催シンポジウムを 2 件、客員プログラムの招聘講師との連携シンポジウムを 4 件、開催しました。</p> <p>添付資料 1.4-1 OIST 主催によるワークショップ・ミニシンポジウム</p> <p>1404 （1108 再掲）リサーチ・インターンシップの機会を提供しました。4 月と 10 月の 2 回の応募期間を通して 7,000 以上の応募があり、45 名をインターン生として受け入れました。</p> <p>1405 （1109 再掲）移転や出張などの幅広いサポートを提供するとともに、学生自身が行う必要がある手続き（行政手続き等）に関する専門的なアドバイスや指導も継続して行いました。さらに、個別相談、代理行政申請手続き、各種調整、緊急時の支援（経済面及び身体・精神面）、語学サポートも提供しました。</p>	
第 2 章 ガバナンス及び業務運営の透明性・効率性に関する事項				
2.1 ガバナンス及	学園では、国内法人の伝統的な在り方とは異なり、学園法及び学園の寄附行為に基づき、学外理事を中心として			A



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<b>び業務運営体制</b> <b>目標 (1)</b>	<p>理事会を構成しています。このような理事会は、学園及び大学院大学の業務運営に関し、最終的な責任を負います。また、評議員会は、地域社会の声を含め、幅広い意見を学園及び大学院大学の業務運営に反映させます。これらの二つの合議体が、法令及び学園の寄附行為に基づき、学園における透明で効果的なガバナンスを確保するために重要な役割を担います。これに対し、理事長・学長は、事業計画の実施についてリーダーシップを発揮し、理事会及び評議員会に対し説明責任を果たします。このように、理事会及び評議員会と理事長・学長との間の関係を適切に保つことによって、特色あるガバナンスを実現します。学園の寄附行為や PRP と、その他関連する法律と規則との一貫性を保ちます。また、学園の監事は業務運営の適切性・効率性が確保されるよう、海外の優れた事例との比較も取り入れ、厳格な監査を行います。</p>			
<b>2.1</b> <b>ガバナンス及び業務運営体制</b> <b>取組 (1)</b>	<p>(基本的な運営)</p> <p>2101 定例の理事会を 5 月、10 月、2 月に、定例の評議員会を 5 月、2 月に開催します。5 月の理事会においては、前年度の業務の実績を報告し、評価を行います。評価の結果は公開情報として内閣府へ報告されます。改正私学法の施行に備え、数回の臨時会議開催が予定されます。</p>		<p>(基本的な運営)</p> <p>2101 定例の理事会を令和 6 年 5 月、10 月及び令和 7 年 2 月に、定例の評議員会を令和 6 年 5 月と令和 7 年 2 月に開催しました。5 月と 10 月の会議はハイブリッド（オンサイトとオンラインビデオ通話）、2 月の会議はオンラインで開催しました。5 月の理事会会議では令和 5 年度の実績と成果が報告され、評価されました。この評価結果は内閣府に報告するとともに、本学ウェブページで公開しました。</p>	



令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>2102 理事会及び評議員会は理事会運営委員会や分科会に重要な議題を事前に議論する機会を作るため、5月と10月の会議では、2日間の本会議以外に1日程度の事前会議を設けます。理事会運営委員会及び理事会と評議員会の分科会は事前会議の間に重要な事項について話し合い、また理事会運営委員会は教員評議会と会議を持つようにします。</p> <p>2103 理事長・学長は、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施します。</p> <p>2104 理事長・学長は毎週開催される幹部会議等において、大学の重要なリスクの同定、対応策の策定及び実行を検討・準備し、これらを理事会に報告します。</p> <p>2105 監事は、事前に作成する監査計画に基づき、内部監査や会計監査とも連携しつつ、予算執行、調達・入札、法令順守の状況をはじめ、業務全般について厳格な定期監査を実施するとともに、必要に応じて、臨時の監査を行います。監事は、監事体制の強化を踏まえ、より充実した監査を行うとともに、適切な形で中立性を維持しつつ、大学の他の役員や幹部職員との効果的なコミュニケーションを図ります。監事には、その活動に必要な十分な情報及び人的支援を提供します。監査計画及び監</p>		<p>2102 各理事及び評議員の役割に焦点を当てた議論を深めるため、5月に評議員会の分科会、5月及び10月に全理事会常任委員会を開催しました。 当該年度理事会は、寄附行為改正、学長報告、理事会議長の選出他のため臨時会議を、10月、11月、1月、2月に開催しました。評議員会は10月の理事会に先立ち、9月に寄付行為改正に関する臨時会合を開催しました。</p> <p>2103 理事長・学長は、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施しました。</p> <p>2104 学長の戦略策定、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の全学での計画的な執行等のため、原則毎週上級幹部会議で所要の審議を行いました。各幹部から理事会への報告については、戦略のミッションエリアごとに各上級幹部が中心となり報告する新たなフォーマットを導入しました。</p> <p>2105 監事は、令和6年度の監事監査に関する計画を定め、「令和6年度の監事監査について」として令和6年11月理事長に通知し、当該計画に基づき、令和7年4月までの期間に定期監査を実施しました。定期監査の実施に当たっては、内部監査及び会計監査人監査との連携や活発な議論を行い、各ディビジョンと実際の業務プロセスについて、丁寧に意見交換や議論を行うことに留意しました。監事監査結果は、令和7年5月に開催予定の理事会及び評議会で報告予定です。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
	査結果については、理事会での報告等を通じて、業務運営への反映を促します。		また、定期監査以外の場において、副学長等の幹部職員と積極的に意見交換を行うとともに、会議へは原則として対面で参加し、決裁案件の回付等も含めた各種の手段により情報を入手するなど、本学の業務運営状況のさらなる把握に努めました。	
<b>2.1</b> <b>ガバナンス及び業務運営体制</b> <b>目標 (2)</b>	世界水準の国際的な大学院大学の効果的な運営に相応しい、海外の優れた事例を踏まえた事務組織の構築に努めます。また、予算執行及び業務運営について国への説明責任を果たすために、内閣府と密接なコミュニケーションを図ります。			<b>A</b>
<b>2.1</b> <b>ガバナンス及び業務運営体制</b> <b>取組 (2)</b>	<p>(事務事業の構築)</p> <p>2106 理事長・学長、副理事長、他の幹部による会合を定期的に実施し、情報共有を促進するとともに業務運営の状況を確認します。また、大学の幹部と教授会による会議を隔月毎に開催し、上層幹部と教授間の情報の流れを改善していきます。報酬検討委員会も必要に応じ開催していきます。</p> <p>2107 内閣府との定例協議会等を通じて密接なコミュニケーションを図るとともに、事業計画の実施状況等について適宜報告します。また、翌年度事業構想及び概算要求について、前広かつ綿密に打合せます。</p> <p>2108 最先端の IT ツール、サービス、支援を提供し、世界をリードする大学を目指します。</p>		<p>(事務事業の構築)</p> <p>2106 理事長・学長、副理事長、他の幹部との定例会議を継続し、重要な意思決定の準備、情報の共有、業務執行状況の確認などを行いました。運営幹部から教授会に対し、運営に関する情報を共有する会議を継続して開催しました。報酬検討委員会も適宜開催しました。</p> <p>2107 必要に応じた個別会議を通じて、内閣府との密接なコミュニケーションを維持しつつ、令和 6 年度事業計画の実施状況、令和 7 年事業構想、令和 7 年度概算要求及び令和 7 年度事業計画策定等について適時適切に情報共有しました。</p> <p>2108 サービスや照会窓口、情報共有を一本化できる「サービスポータル」を事務部門でも活用できるようにしたことで、プラットフォーム上で必要なサービスの提供が可能になりました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>2109 ユーザーが IT リソース及びサービスを適時適切に活用できるよう、簡潔明瞭かつ最新の知識ベース及びユーザー教育プログラムを提供します。</p> <p>2110 学園の運営を支える基幹業務プラットフォームを、特定・評価・設計・展開、維持し、学園の発展に確実に対応できるように拡張します。</p> <p>2111 研究と教育を向上させるため、自動化と効率化を可能な限り追求します。</p> <p>2112 研究要件を満たす、柔軟で安全なネットワーク環境の継続性を確保します。</p> <p>2113 令和 5 年度に策定した IT 戦略に基づき、事務業務の改善・効率化を推進します。継続的な対話とフィードバックを通じて、IT とビジネス計画との整合性を確保します。</p>		<p>2109 情報共有のプラットフォーム（サービスポータル）を事務部門でも活用することができるようになりました。また、プラットフォーム上に掲載する案内情報を管理する「パブリッシング・サービス」を構築しました。</p> <p>2110 将来の基幹業務プラットフォームシステム（ERP システム）の導入を見据え、外部専門家と協力し、システムの改善を進めました。当該システムの更新計画の立案や情報収集を行いました。</p> <p>2111 研究用ソフトウェアの使用申請をサービスポータルで行うことを可能にしました。学生情報プラットフォームについて、定期的にシステムレビューを実施しました。</p> <p>2112 新たなインキュベーター施設のためのネットワーク設備を導入し、オープンイノベーション施設及び第 2 データセンター用のネットワーク設計を実施しました。</p> <p>2113 本学の戦略に準じた IT 戦略を立案し、ビジネスプラン、目標等への反映及び成果の可視化を図るため、「IT プログラム・マネジメントオフィス」を新設しました。IT 関連のプロジェクト完了後、レビューを行い当該</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>2114 外部機関による IT レビューを通じてベストプラクティスとの整合性を管理します。</p> <p>2115 大学の諸業務を効率的に支えるエンタープライズ・システムとサービスを特定・開発・支援することにより、デジタル化を推進します。</p> <p>2116 学園における研究や事務運営を強化・支援するため、地域やグローバルで行われている IT 活用の新しい取組について学園として最適なものを検討・選択し、沖縄の発展に一層貢献していきます。</p> <p>2117 運用コストの削減及び安全性の増進を図る一方で、事務他部門と連携しデジタルトランスフォーメーションによる業務改革、働き方改革に貢献し、事務業務の簡易化・自動化を通じて作業環境の標準化及び効率化を促進します。</p> <p>2118 情報セキュリティのガバナンスを強化するための体制を強化し、また情報セキュリティ教育、複数要素認証、及びデバイススペースのアクセス制御を通じ、情報セキュリティを継続的に強化します。既存のセキュリティ脅威の監視機能をさらに強化し、学園のネットワーク又はシステムの完全性を低下させる可能性のある悪意</p>		<p>プロジェクトの管理改善を行いました。</p> <p>2114 外部の研究機関からアドバイザーを招き、IT 部門や CIO オフィスについての組織体制や IT 戦略について助言を求めました。</p> <p>2115 財務、研究、施設管理、業務プロセスワークフロー管理、学生情報管理、OIST クリニック診察予約管理などを同一サービスポータル上で行えるよう開発を進め、運営の円滑化を図りました。</p> <p>2116 大学 ICT 推進協議会（AXIES）や他大学との連携、勉強会を通じて、最新動向や国内・海外の取り組み（AI 政策策定など）の知見を深め、IT 戦略や取り組みに活用しました。</p> <p>2117 300 以上の業務プロセスを集約し、事務業務の流れを把握できるプラットフォームを開発・提供することで、業務の簡易化・自動化を促進しました。</p> <p>2118 当該年度は、情報管理に関するインシデントが 1 件ありました。被害はなかったものの、管理体制の強化を図るため、アウトソーシングを含めた次世代セキュリティ情報イベント管理（SIEM）とエンドポイント検出対応（EDR）等機能のアップグレードに向けた準備を進めています。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>のあるソフトウェアやハッキングなどの脅威をリアルタイムに検出することを可能にするとともに、脆弱性の検知・対応や Web サイト改ざん等への対策を徹底します。インシデントレスポンス計画の策定および定期的なシミュレーション演習の実施によりレジリエンスの確保を目指します。</p> <p>2119 学園の各部署において発生する法的事項について法的助言を行うとともに、各部署が扱う契約について、ドラフト、交渉から締結に至るまで全面的に支援し、学園における適切な運営を確保します。</p> <p>2120 法廷内外の請求から学園を防御し、財政的損失及び社会的評判の失墜を防止します。</p> <p>2121 学園内外における問題行動を防止するため、全ての教職員及び学生に、毎年、日本の法令等（特に薬物規制、飲酒運転、銃刀携帯、刑事手続/国外強制退去、学園における懲戒等）の研修プログラムの受講を徹底します。</p>	<p>2119 学園の各部署において発生する法的事項や契約について助言し、適切な運営を確保しました。法律相談数 144 件（昨年度比 92%）、契約レビュー数は 212 件（昨年度と同数）でした。</p> <p>2120 当該年度進行中であった訴訟が和解・終了しました。経済的損失を最小限にとどめ、社会的評判の確保に努めた結果、すべての事案を解決することができました。現在裁判所係争中の訴訟はありません。</p> <p>2121 外部弁護士によるセミナー「日本の刑罰法規と刑事手続」を 4 月に開催し、100 名以上の教職員・学生が対面またはオンラインで参加しました。また、新入職員向けのオンライン資料を提供しました。</p>	
<b>2.2</b> <b>予算配分と執行</b> <b>目標</b>	<p>国からの補助金をはじめとする予算の執行について、国やその他の資金提供者、さらには国民に対する説明責任を果たすため、実績を点検し、適正かつ効果的に予算を配分及び執行します。特に、国の財政の厳しい状況を踏まえつつ、研究教育の維持及び発展に資するよう効率的な予算の執行を図ります。</p>		<b>A</b>

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
2.2 予算配分と執行 取組	(予算配分と執行)		(予算配分と執行)	
	2201 リソース（人件費、運営費、機器購入費等）の配分・再配分は、ストラテジック・リソース・アロケーション委員会が迅速かつ的確な配分案を策定し、最終的に理事長・学長が決定します。		2201 当該年度リソース（人件費、運営費、機器購入費等）の配分・再配分は、ストラテジック・リソース・アロケーション委員会が的確な配分案を策定した上で、理事長・学長が決定しました。	
	2202 予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分します。		2202 当該年度予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分しました。	
	2203 各部署に配置された予算分析担当者と連携し、予算配分・執行状況報告のプロセスを強化します。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、予算執行状況確認のための月例内部会議において理事長・学長に報告します。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告します。		2203 各部署に配置された予算分析担当者と連携し、当該年度予算配分・執行状況報告のプロセスを強化しました。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、予算執行状況確認のための月例内部会議において理事長・学長に報告しました。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告しました。	
	2204 全ての研究関連予算の執行管理を綿密に行い、必要な修正及び調整を行うため、9 月に配分の中間見直し、第 4 四半期の初めの 1 月に再度配分の見直しを行います。外部資金の獲得額が増加傾向であることを踏まえ、学長の指揮のもと既存の枠組みであるストラテジック・リソース・アロケーション委員会（SRAC）の運用を強化し、重要事項の共有を徹底するなど、外部資金を含む学園全体の予算要求案の策定と配分計画・執行管理を適正に行います。		2204 9 月に配分の中間見直しを、そして第 4 四半期の初めにあたる 1 月にも別途見直しを実施しました。また、次年度予算配分案をストラテジック・リソース・アロケーション委員会（SRAC）にて共有する等、学園全体の予算要求案策定と配分計画・執行管理の適正実施に努めました。	



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
	<p>2205 一定額を超える個々の支出について、コンプライアンス担当が審査すること等を含め、法令や内部規則等を順守して予算執行の手続を行います。</p> <p>2206 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、内部監査を実施するとともに、国の機関等が行う研修への継続的な参加等を通じて、担当職員の育成に努めます。</p> <p>2207 大型研究設備・機器の購入時は、内部規則に基づき、必要に応じ、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期します。</p>		<p>2205 一定額を超える随意契約については、調達担当部門のセクション・リーダー（500 万円未満）及び調達審査委員会（500 万円以上）が、関連法令及び内部規則等に則って審査し、適切に予算を執行しました。</p> <p>2206 最高内部監査責任者の下、内部監査計画に基づき、適切な契約・調達及び会計事務を行うため、内部監査を実施しました。国の機関等が行う研修へ定期的に内部監査スタッフを派遣し、担当職員の育成を継続しました。</p> <p>2207 大型研究設備・機器の購入に当たっては、内部規則に基づき、その都度、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期しました。 委員会の開催件数： 5 件</p>	
2.3 事務事業の効率化 目標 (1)	業務運営における効率化を図るように取り組みます。			A
2.3 事務事業の効率化 取組 (1)	<p>（事務事業の効率化）</p> <p>2301 事務局長及び戦略実行担当副学長の総括の下、①戦略実行、②政府との関係、③外部へのコミュニケーション、④人事、⑤IT の 5 つの領域において、事務業務の合理化・効率化等の改善を進めます。</p> <p>2302 研究資材や試薬等の単価契約や一括購入、複数年契約等の取組を継続することにより、研究事業を効率的</p>	<p>・単価契約の件数： 39 件以上（令和 4 年度の確定値）</p> <p>・競争入札や他の競争的な手法による契約件数の比率：62% 以上</p>	<p>（事務事業の効率化）</p> <p>2301 学長、上級幹部、最高改革責任者（CTO）の統括の下、①戦略実行、②外部・内部コミュニケーション、③事務業務の合理化、効率化等の改善を進めました。</p> <p>2302 研究資材や試薬等の単価契約や一括購入、複数年契約等の取組を継続することにより、研究事業を効率</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>に支援します。</p> <p>2303 システム・機器の保守費は、契約内容の見直し等により、コストの抑制を図ります。</p> <p>2304 契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底します。随意契約手続についても、継続的に監視します。同時に、調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から継続的に見直しを行い、また大学院大学の規模拡充に対応すべく、調達に関する事務分掌や業務手順等の整理を継続します。</p> <p>2305 これまでの内外価格差等の調査結果を踏まえ、内外価格差の是正や経費削減の促進に取り組みます。</p> <p>2306 調達コストの抑制を図るため、これまでに取りまとめた研究資材や機器等の国内外の価格比較データを踏まえ、効果的な価格交渉方法について学園内へ情報提供しま</p>	<p>・研究関連契約を除く入札における落札率</p> <p>・一者応札の率</p>	<p>的に支援しました。</p> <p>単価契約件数： 58 件</p> <p>2303 システム・機器の保守費については、契約内容の見直し、複数年契約の適用等により、コストの抑制を図りました。</p> <p>2304 契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底しました。随意契約手続については、随意契約基準額の引き下げの効果測定を含め、継続的にモニタリングしました。調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から見直しを行い、また大学院大学の規模拡充に対応すべく、調達に関する事務分掌や業務手順等の整理を行いました。</p> <p>競争入札や他の競争的な手法による契約の比率（件数） 件数：116（56.6%）〔令和 5 年度 141（62.1%）〕 研究関連契約を除く入札における落札率：95.7%</p> <p>2305 これまでに蓄積した調査結果等を活用し、調達職員のスキルアップ、交渉能力の向上を目的とする研修会を実施しました。</p> <p>2306 調達コストの抑制を図るため、これまでに取りまとめた研究資材や機器等の国内外の価格比較データを踏まえ、効果的な価格交渉方法について学園内へ情報</p>	



令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>す。また、一者応札を減少させるべく、入札に当たり辞退又は参加しなかった企業に対してアンケートを実施し、改善すべき点をその後の案件に反映するなど、競争性のある公正な入札手続の実施に努めます。</p> <p>2307 施設整備について、国立大学法人の類似施設の水準、建設市場の動向を調査して適切な建設単価と発注方式を設定します。</p> <p>2308 旅費に関する規則等について、更なる手続きの効率化・簡素化を図るため、引き続き見直しを行います。</p> <p>2309 昨今の円安・インフレ・光熱水費の高騰に対応すべく、固定費削減に向けた取組を引き続き実行するとともに、より効果的な方策について検討を継続して行います。</p> <p>2310 国際化の推進に取り組む国立大学等の職員に対して事務国際化研修を実施し、当該大学等の事務国際化に貢献するとともに、同職員を通じて国立大学等の運営管理に関する知見を吸収し、学園の事務の効率化を図ります。</p>		<p>提供しました。また、一者応札を減少させるべく、入札に当たり辞退又は参加しなかった企業に対してアンケートを実施し、改善すべき点をその後の案件に反映させました。</p> <p>一者応札の率：51%</p> <p>2307 建設単価の設定について、効率的な発注をできるよう建設市場の動向調査などを行いました。</p> <p>2308 手続きの効率化の観点から、旅費に関する申請フローを見直しし、旅程に休暇を含む場合のみ旅費チームが事前承認する運用に変更しました。</p> <p>2309 昨今の円安・インフレ・光熱水費の高騰に対応すべく、固定費削減に向けた取組を引き続き実行した結果、施設・設備保全業務（大学全体の施設の運転・警備や清掃等の業務）において約 614 万円の削減効果が得られました。</p> <p>2310 東京大学、東北大学をはじめ計 6 名の派遣職員を受け入れました。当該派遣職員へ国際的な環境下での英語コミュニケーション能力向上へ貢献し、また、派遣先部署では国立大学の運営に関する知見を吸収し、学園の事務の効率化を図りました。</p>	
<p>2.3 事務事業の効</p>	<p>施設・設備を最大限有効に活用します。</p>		<p>A</p>

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
率化 目標 (2)				
2.3 事務事業の効率化 取組 (2)	<p>(施設の有効活用)</p> <p>2311 既存建物内のスペースに関する調査、施設管理ディビジョン、プロボストオフィス及びスペース配分・再配分を所管するスペースアロケーション委員会との連携や研究ユニットへのヒアリングを通じたニーズの把握に基づき、アカデミック、事務、研究設備スペース利用の最適化を推進します。</p> <p>2312 シーサイドハウスの補修と、施設のスペース利用最適化に取り組みます。</p>		<p>(施設の有効活用)</p> <p>2311 スペース利用を希望する教職員からのヒアリング及びスペースアロケーション委員会での協議等を通し、全体のニーズの把握に努めるとともに、スペース利用の最適化を図りました。</p> <p>2312 シーサイドハウスの補修事業者選定にあたっては、費用面のほか、スペースの最適利用についての提案などを審査基準に含めた入札（公募型プロポーザル方式）を行いました。</p>	
2.4 人事管理 目標	優れた人材の獲得、保持、育成のため、教職員らの声を積極的に取り込みます。持続可能かつ効果的な人事制度の構築と継続的見直しを行い、法順守の精神の下、より多様性や包摂性が尊重された働きやすい職場環境の実現に努めます。国による高水準の財政支援により運営される法人として、教職員の総人件費の抑制により一層努めます。			A
2.4 人事管理 取組	<p>(職員の採用)</p> <p>2401 国際的採用競争力の維持と持続可能な人件費水準を達成するため、戦略的に人員計画を策定します。決定された人員枠・要件に基づき、公正で迅速な採用プロセスを構築し、優れた人材の獲得のための採用活動を展開します。</p>	<p>・職位毎の職員数（職種、国籍別、性別）</p> <p>・全職員に対する事務部署の職員の比率</p> <p>・運営費に占める人件</p>	<p>(職員の採用)</p> <p>2401 持続可能な人件費水準を保つため、採用部署と共に人員採用計画を策定しました。採用活動は採用プロセスに則り、国内外から幅広く人員募集をすると共に、内部人材の登用も積極的に行いました。</p> <p>また、人事組織では、これまで分散していた業務所掌を一つのセクションに統合し、部門横断的な人材マネジメ</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価																									
	2402 関係部局と連携し、ソーシャルメディアを用いた積極的な情報発信や潜在的候補者へのアプローチ、採用プロセスの改善により、優秀な人材をより早くより効率的に採用し、雇用者としてのブランド力向上に努めます。また、優秀な県内出身者の雇用に努めます。	費の割合  ・職群・職位ごとの給与額（平均値・中央値・最頻値）  ・研修の受講職員数  ・事務職員の年間学習時間（40 時間）	ント体制を強化しました。さらに、教職員の貢献を適切に評価する文化醸成を目指し、レコグニション制度（学内表彰制度）を新設しました。  その他、人件費管理プロセスの見直しを図りました。  全職員に対する事務部門の職員の比率：39% 運営費に占める人件費の割合：47.3%（決算前のため概算値）  2402 東京で開催された就職フェアに参加し、若手バイリンガル人材へのアプローチを行いました。また、新しく採用担当のマネージャーが着任し、面接プロセスのさらなる効率化に向けた検討を始めました。																										
	2403 職務記述の標準化、求められるコンピテンシー、スキル、経験等を整理・可視化することにより、公正・公平かつ個々人の能力が最大化され組織の利益になるような外部採用・内部異動昇進の仕組の導入を検討します。		<table><tr><td></td><td>事務職 他</td><td>教員</td><td>技術員</td><td>研究員</td><td>合計</td><td>割合</td></tr><tr><td>沖縄 県出 身者</td><td>168</td><td>0</td><td>32</td><td>7</td><td>207</td><td>20%</td></tr><tr><td>県外</td><td>309</td><td>80</td><td>117</td><td>308</td><td>814</td><td>80%</td></tr><tr><td>合計</td><td>477</td><td>80</td><td>149</td><td>315</td><td>1021</td><td>100%</td></tr></table> <p>添付資料 2.4-1 令和 6 年度 職位毎・国籍別職員数</p> 2403 組織の一体感を醸成するため、新たなコンピテンシー「One OIST」を導入しました。併せて、主要ポジションの職務記述書（JD）を見直し、更新しました。			事務職 他	教員	技術員	研究員	合計	割合	沖縄 県出 身者	168	0	32	7	207	20%	県外	309	80	117	308	814	80%	合計	477	80	149
	事務職 他	教員	技術員	研究員	合計	割合																							
沖縄 県出 身者	168	0	32	7	207	20%																							
県外	309	80	117	308	814	80%																							
合計	477	80	149	315	1021	100%																							

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>2404 全教職員と学生に公平で歓迎される職場環境を構築し、維持するための措置を講じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 全ての教職員に「無意識の偏見」研修や、その他の多様性に関する適切なプログラムを提供します。</li> <li>- 学園で働く妊婦及び親のために適切な施設を計画、設計、装備します。</li> <li>- 性別・国籍・職位にかかわらず全ての職員がネットワークを構築できる機会を用意します。</li> <li>- 学園及び沖縄コミュニティ向けのプレゼンテーションネットワークの機会を通じて、多様性、公平性、包括性を促進します。</li> </ul> <p>2405 学園教職員がホットラインやその他のコミュニケーションチャネルを利用・通報できる手法、相談窓口を周知徹底します。</p> <p>2406 管理職や相談窓口となる職員に対しハラスメント防止や対応の研修を促進します。</p> <p>2407 障がい者雇用において、外部の専門支援団体とも連携して、諸設備や日常の指示・連絡方法など職場における合理的配慮を検証・改善します。</p>		<p>2404 教職員、学生及びその家族を対象とした新たな大学全体のコミュニティ・オリエンテーション・プログラムを確立し、沖縄や日本での生活に適応するためのサポートやアドバイスを提供する体制を整えました。また、新たなポスドク・オリエンテーション・プログラムも確立しました。</p> <p>その他、教職員、学生及び派遣職員を対象に、「エンゲージメント・サーベイ」を実施し、モチベーションと満足度について調査しました。</p> <p>2405 ホットライン通報の匿名性を再周知し、安全性を確保しました。また、メディエーターを変更し、新たな連絡先を案内しました。また、苦情や係争に関する学内規定を見直しました。</p> <p>2406 セクハラ・性暴力等の防止と行為者への厳正な措置を図るべく、関連する学内規定を見直し、「セクシャルハラスメント防止研修」を必須研修としました。</p> <p>2407 外部の専門支援団体と定期的な打ち合わせを持ち、職場環境や業務上での合理的配慮を検証し、該当職員へ支援を行いました。また、連携する障害者支援団体の数を増やし、連携を強化しました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>2408 保健センターは、産業保健業務、健康診断やその結果に基づき指導、学生相談、ニーズにあった医療機関の紹介により、学内の職員および学生への健康支援を引き続き提供し、コミュニティ全体が健康な状態で活動できるよう支援します。</p> <p>2409 クリニックは、日本の医療保険診療を実施し、学内と地域コミュニティ向けに診療や処方など医療サービスを提供します。</p> <hr/> <p>((処遇・給与水準)</p> <p>2410 国家公務員や国内外の大学、研究機関、民間企業等の給与水準を踏まえ、「特殊法人等における役職員の給与について(令和元年10月11日総務省行政管理局)」に対する取組を実行します。</p> <hr/> <p>(人材育成・管理体制の強化)</p> <p>2411 以下に列挙した制度の運用を強化し、本学の戦略に基づいて生産性の向上と次世代人材育成を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 採用・人事異動制度</li> <li>- 職務等級・給与制度</li> <li>- 目標管理・人事考課制度</li> </ul>		<p>2408 キャンパス内で定期健康診断、特殊健康診断を提供し、受診できなかった教職員及び学生には、外部医療機関での受診を案内しました。また、日々多くの健康相談と簡単な医療処置や薬剤の提供、外部医療機関の受診相談、医療機関予約のサポートを行いました。当該年度より、保健センターから併設クリニックへ柔軟に紹介する取り組みを開始しました。これにより、保険診療と処方薬へのアクセスが改善しました。</p> <p>2409 クリニックの内科診療機能を強化し、学内で受けられる保険診療の幅が広がりました。また、積極的に紹介状を発行することで、外部医療機関での受診がスムーズになるように支援しました。</p> <hr/> <p>(処遇・給与水準)</p> <p>2410 現任者の給与分析、採用・退職分析、異動・昇進・配置転換の指導を通じ、適正な給与水準の維持に努めました。引き続き給与サーベイの最新情報を入手し、民間企業との給与水準の比較を継続的に実施しました。 <b>添付資料 2.4-2 令和 6 年度 職員の給与水準</b></p> <hr/> <p>(人材育成・管理体制の強化)</p> <p>2411 次世代人材育成のため、後継者育成計画(サクセッションプラン)を新たに導入しました。また、管理職を対象に目標管理・人事考課の対面研修を実施しました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	2412 管理監督者向け研修体系を再構築するとともに、オンライン研修を含む個人別年間学習時間目標（40 時間）を設定して自己研鑽を活性化する。		2412 管理監督者向け研修体系の再構築に継続して取り組み、目標設定および人事評価とそのコミュニケーション方法についての研修を導入しました。また、個人別年間学習時間目標（40 時間）を設定した自己研鑽を推奨しました。  添付資料 2.4-3 令和 4 年度 研修の受講職員数	
2.5 コンプライア ンスの確保 目標	大学経営の全ての面において、コンプライアンスが確保される体制を構築します。			A
2.5 コンプライア ンスの確保 取組	<p>（コンプライアンスの確保）</p> <p>2501 予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学園内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査します。</p> <p>2502 学園内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ、統括弁護士オフィスと協力して適時適切に制定・改正するとともに、PRP 審査委員会を必要に応じて開催し、規則類全体の整合性を維持します。</p>		<p>（コンプライアンスの確保）</p> <p>2501 予算執行状況、500 万円以上の調達に係る契約、学内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から適正に審査しました。</p> <p>2502 関連法令の改正に応じたアップデートや、現行 PRP と事業の運営・運用実態との乖離の解消など、状況の変化に合わせて、必要に応じて統括弁護士オフィスに確認を取るなど、適時適切に学内規則類を制定・改正しました。</p> <p>また、3 月に PRP レビュー委員会を開催し、当該年度の全体レビュー結果を報告するとともに、今後の PRP 総点検の進め方について確認しました。</p> <p>各章をよりポリシー主体の構成にすべきとの学長の方針に沿って、パイロット的に第 13 章「安全、健康及び環境保護」の構成を見直し、ポリシー中心の内容に改正するとともに、今後の各章改正のためのひな型を策定し</p>	



令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）及び同法に基づき整備した学园内規則に則り、適切に文書管理するとともに、その管理・保護等を徹底します。</p> <p>2504 個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学园内規則にのっとり、個人情報の取扱について適切に対応します。また、保有個人情報を管理する台帳等の整備など、学园内規則を教職員に遵守させることにより、個人情報に対する意識の向上を図ります。</p> <p>2505 監事監査や内部監査による、規程類の実施状況を含むコンプライアンスの状況を厳格にチェックし、その結果に基づき見直します。</p>		<p>ました。また、同改正を行う中で、学内から広く意見を聴取するプロセスも試行しました。</p> <p>2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律及び同法に基づき整備した学内規則に則り、法人文書の作成、整理、保存及び廃棄について、研修教材の改良を図るなどしつつ、適切に管理しました。また、私学法改正に伴う登記情報の更新に向け遅滞なく準備しました。</p> <p>2504 個人情報の保護に関する法律や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学内規則に則り、個人情報の取り扱いについて関係部署に対して助言する等適切に対応しました。 個人情報ファイルの点検作業を通じて、PIPL（個人情報登録リスト）を更新するとともに、個人情報の取り扱いについて適切に指導・助言し、職員の当該意識の向上を図りました。 本学の現行プライバシー・ポリシーを見直し、更新版をウェブサイトにて公開しました。</p> <p>2505 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、最高内部監査責任者の下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。随意契約については、150 万円以上 300 万円未満の購入案件は調達担当部署のセクション・リーダーが、500 万円以上の案件は、さらに調達審査委員会がその適切性を審査しました。全職員に受講が義務</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>2506 学園の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学園外の活動と責務について、毎年度、書面で開示します。</p> <p>2507 各専門委員会において研究や実験計画を審査し、学園の研究活動を関連法令や規制に準拠して実施することを確保します。</p> <p>2508 研究インテグリティの確保のための確実なリスクマネジメントに関する取組を進めます。</p> <p>2509 公的研究費不正使用防止計画のウェブサイト上での公表など、継続的に科研費等の競争的資金等の適切な管理を研究者に徹底します。</p> <p>2510 研究費の不正使用防止のため、着任決定時から、教員、研究者に対し、研究費使用ルールの周知徹底・意識向上に関する取組等の対策を講じます。新規教員には、着任前の面談を通して研究費使用ルールを説明するほか、着任直後にも個別に詳細なオリエンテーションを実施します。</p>		<p>付けられたコンプライアンス研修（法令・コンプライアンス・セクション主催）について、eラーニング（入校者受講必修）による研修を提供しました。</p> <p>2506 本学の全ての役員及び教職員に対して、PRP22章に基づき、利益及び責務の相反による懸念やリスクを回避するため、学外の活動と責務について年次及び即時開示を求め、該当者には当該活動に従事する上での留意事項を通知するとともに兼業申請の提出を求めるなど、適切に管理しました。</p> <p>2507 各専門委員会において研究や実験計画を審査し、学園の研究活動を関連法令や規制に準拠して実施しました。</p> <p>2508 研究インテグリティの確保のための確実なリスクマネジメントに関する取組を進めました。</p> <p>2509 公的研究費不正使用防止計画のウェブサイト上での公表など、継続的に科研費等の競争的資金等の適切な管理を研究者に徹底しました。</p> <p>2510 研究費の不正使用防止のため、新規教員及び研究者に対し、着任直後に個別に詳細なオリエンテーションを実施する等、研究費使用ルールの周知徹底・意識向上に関する取組を行いました。</p>	



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>2511 全ての研究員が受講必須とされている「責任ある研究行為」のオンライントレーニングを提供し、教員、学生及び研究員に研究不正の再発防止の改善を向上するために、学内でセミナーや教育を継続的に開催します。</p> <p>2512 不正の通報窓口を全職員に周知し、研究データの適切な記録と管理を徹底します。</p> <p>2513 野外活動安全委員会による野外活動計画の厳格な審査を継続し、安全衛生委員会による職場巡視などで研究室の安全衛生を確保し、構築された安全管理システムで安全の向上を図ります。</p>		<p>2511 教職員及び学生、短期滞在者を含むすべての構成員が受講可能なオンライントレーニング「責任ある研究行為」を提供しました。また大学院生には必修科目の一部として対面での授業を提供しました。</p> <p>2512 不正の通報窓口や手続きについて、オンライン研修で周知しました。教授会で研究データ管理について議論し、担当部署が新たな研究データマネジメントポリシーを策定しています。</p> <p>2513 野外活動安全委員会において野外活動計画を審査し、野外活動の安全かつ適切な実施にあたり必要な事項及び緊急事態への対応に関することについて助言を行いました。 労働安全衛生法に基づく法令遵守のため、安全衛生委員会が毎月研究室の職場巡視を実施しました。現場の状況を確認し、安全衛生上の課題を指摘・指導するとともに、改善が完了するまで継続してフォローしました。</p>	
2.6 情報公開及び 広報活動 目標	<p>学園が急速な成長を遂げる中、教育研究や業務運営に関する透明性の確保、及び国民に対する説明責任の履行に向けた取組が非常に重要です。国内外から幅広い支援を得るとともに、国際的な認知度を高め、学園の知名度をよりあげるために、多様なステークホルダーとの間で積極的にコミュニケーションを図ります。</p>			A
2.6	(情報公開及び広報活動)		(情報公開及び広報活動)	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>情報公開及び 広報活動 取組</p>	<p>2601 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）等により公開が義務付けられる情報は、ウェブサイト等に適切に公開します。</p> <p>2602 ニュース記事やマルチメディアを始め、ウェブサイト全般を継続的に改善し、デザインやレイアウト及びユーザーエクスペリエンスが最高水準となるようにします。学園に関して継続的に肯定的な報道がされるよう、県内外の記者が参加できるような説明会や会見等の機会を積極的に持つよう努めます。</p> <p>2603 ソーシャルメディアやデジタルチャンネルなどの写真や動画を共有するサイト及びその他のマルチメディアの内容を引き続き強化します。</p>	<p>2601 学校教育法や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイトにおいて、レイアウトを変更して利用者の閲覧利便を図り、適時適切に公開しました。</p> <p>2602 2022 年 12 月のウェブサイト全面リニューアルに続き、ユーザビリティの向上とコンテンツの集約を目的としたさらなる改善を行いました。例えば、教員以外の PI グループにも対応可能なウェブ機能の更新、マイクロサイトデザインの改良、J-PEAKS や COI-NEXT のデザインモジュールの追加などが含まれます。また、PRP、入試、卒業関連のウェブコンテンツを統合することで、コンテンツ同士の連携を強化し、ウェブホスティングのコスト削減にもつなげました。</p> <p>その他、記者会見や説明会、学内イベントへメディアを招聘するなどし、肯定的な報道につながる取材機会を積極的に設定しました。</p> <p>2603 当該年度は、全ソーシャルメディアチャネルにおいて合計 1,365 件の投稿を行いました。SNS 上の投稿に対しどれくらいの反応があったかを測る平均エンゲージメント率は、1 投稿あたり 7.26%と前年度の 6.9%から 5.2%の増加となりました。</p> <p>フォロワー数の増加率（当該年度 / 2023 年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Instagram : 33%増（前年度 43%増）</li> <li>- LINE（日本語）: 60%増（前年度 60%増）</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>2604 学園に対する理解が更に深まるよう、地元沖縄をはじめ国内外の方々など、より広範な層にアピールできるような情報を発信し、広報活動に取り組みます。それぞれのオーディエンス（対象者）に向けたキーメッセージを整理し、ブランディング強化に努めるとともに、パンフレットや展示物を見直し、制作物の拡充を図ります。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>- Facebook（英語）：4%増（前年度 7%増） Facebook（日本語）：25%増（前年度 29%増）</li> <li>- X（旧 Twitter・英語）：15%増（前年度 23%増） X（旧 Twitter・日本語）：17%増（前年度 17%増）</li> <li>- LinkedIn：24%増（前年度 19%増）</li> </ul> <p>その他のプラットフォーム実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- YouTube：149 本の動画を公開（前年度 126 本）</li> <li>- Flickr：約 228 のアルバム、約 12,900 枚の写真を公開（前年度は 101 アルバム、約 8,300 枚）</li> </ul> <p>ニュースレター：</p> <p>本学の E メールニュースレター登録者は合計で 8,056 名を超え、年間で 16%の増加（月平均約 100 名の増加）となりました。</p> <p>（主なニュースレターの実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「OIST Latest」英語版（登録者数 2,930 名）：当該年度は 8%減（前年度 14%増）</li> <li>- 「OIST Latest」日本語版（登録者数 3,580 名）：当該年度は 23%増（前年度 23%増）</li> </ul> <p>2604 外部のポッドキャスターなどのリソースを活用し、情報発信を行いました。また、週 2 回のキャンパスツアーや一般見学、科学・文化イベントなどを積極的に実施し、広く本学の活動を紹介しました。</p> <p>さらに、教員紹介ポスターを更新し、来訪者に各研究ユニットの研究内容などをより効果的にアピールし、理解促進を図りました。秋には、全学的な広報計画を作成し、</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>2605 学園内規則集をウェブサイトに掲載し、その維持と改善を図ります。</p> <p>2606 有事の場合、広報ディビジョンは統括弁護士オフィス、事務局長及び他役員に相談し、学園の評判や風評リスクに配慮した、適時適切な情報を発信します。</p> <p>2607 ソフトウェアの脆弱性を利用したゼロデイ攻撃からウェブサイトを守るため、OIST のウェブサイトは、セキュリティアップデートが迅速に適用されるサポートのもと運営します。</p>		<p>「戦略計画 2024-2029」に基づいて、各ターゲット層に届けるべきメッセージや効果的な発信方法を改めて整理しました。</p> <p>2605 学内規則集をウェブサイトにも適時アップデートしました。</p> <p>2606 有事の際に大学の評判を保ちながら即座に対応できるよう、国内各メディアと良好な関係構築に努めました。日々メディアモニタリングを行い、潜在的な危機に備え、発生に至る可能性があるかと察知した段階で各部署と連携して迅速な対応を行っています。また、外部講師を招いてスポークスパーソン向けのメディアトレーニングを実施し、危機管理能力を強化することで、レビューの維持に努めました。</p> <p>2607 定期的なモニタリングと、サイバー攻撃を受けた際にすぐに対応できる体制を整えました。</p>	
第 3 章 財務に関する事項 ー外部資金				
3 財務に関する 事項 目標:	外部資金中期戦略を踏まえ、将来の自立的経営に向けて、競争的研究資金、寄付金等の外部資金獲得額の増加を図り、財政基盤の強化に戦略的に取り組みます。			A

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
<b>3</b> <b>財務に関する事項</b> <b>取組:</b>	(競争的資金)	・競争的資金の採択状況 (件数及び獲得額)	(競争的資金)	
	3101 競争的資金を戦略的・組織的に獲得するための体制強化を図ります。	・外部資金の伸び (総額) : 政府系受託研究と助成金、産業界からの受託研究及び共同研究、寄付金、受講料及びその他の収入の合計が 2,403 百万円 (補助金予算の経常経費の 13.7%) を目標とします	3101 海外グラントの獲得増に向けて、「国際外部研究資金セクション」の設置を進めました。また外部資金の採択増に伴う適切かつ効率的な事務業務の遂行を目的に、外部研究資金セクションは財務ディビジョンと連携し、合同会議を開催して業務プロセスの改善に取り組みました。	
	3102 ウェブサイトや個別の訪問を通じて、外部資金情報、応募に係る支援、国内他機関とのネットワークの重要性等を学園の研究者に伝える機会を増やすとともに、外国人研究者や若手研究者への支援を強化します。	・施設整備に関する外部資金申請件数 (PPP/PFI 事業の活用を含む) : 1 件以上	3102 ウェブサイトと電子メールを通じて外部資金に係る情報提供をしました。また、個別に研究者に外部資金情報を説明することで、応募意欲を高め、さらに応募書類作成セミナーの開催などにより、支援強化を図りました。	
	3103 国内及び国際的なネットワークを活用した組織間連携を基盤とする大型の研究プログラムへの共同応募に対し、研究担当ディーンのリダーシップの下、戦略的に取り組みます。		3103 大型研究プログラムへの応募に向けて、パートナー大学と研究交流のためのワークショップを企画し、相手方を訪問しました。	
	3104 国内・国外のグラント情報を収集し、定期的に学園の研究者コミュニティに配信します。新規公募に係る情報収集のため、主要な資金提供機関とのコミュニケーションを図ります。		3104 TIDA と電子メールを利用して、助成金情報を本学研究コミュニティに配信しました。オンライン開催の公募説明会や委員会に参加することに加え、資金提供機関への個別のコンタクトを図ることにより情報収集に努めました。	
	3105 大型グラント申請を戦略的に進めるため、研究担当ディーンを中心とするサポートチームが中心となって情報収集や分析等を行い、グラント毎に最適と考えられるテーマ設定や PI 構成等を提案するなど、プロジェ		3105 組織として応募する外部資金情報を収集し、研究担当ディーンを介して、学内の議論に付しました。大型助成金を戦略的に獲得するための学内体制強化を継続しました。	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>クト企画促進に向けた組織的取組を推進します。</p> <p>3106 研究者が企業と協力し、公共及び民間セクターのイノベーション助成金へ応募、契約することを奨励します。</p> <p>3107 学園内におけるインセンティブ制度を通して外部資金の獲得を奨励することにより、外部資金の堅実な増加を図ります。</p>		<p>3106 当該年度は、研究者と企業との連携を促進し、民間財団によるイノベーション助成金の獲得を実現しました。公共・民間セクターの資金を活用した取り組みを通じて、早期ステージの研究成果の社会実装に向けた連携体制の強化・構築を進めました。</p> <p>3107 教員、サイエンス・テクノロジー・グループに所属する研究員に対するインセンティブとして、採択額に応じて、一時金を受け取ることができるスキームの継続に向け、検討を行いました。</p> <p><b>添付資料 3.1-1 外部資金・寄付金獲得状況</b></p>	
<p>(共同研究等)</p> <p>3108 産学連携を促進するための体制強化を図ります。企業との共同研究、スタートアップインキュベーション、起業家精神を促進するための取り組みを強化・支援します。</p>		<p>(共同研究等)</p> <p>3108 産学官の連携を深化させるとともに、研究・起業支援のための外部資金を積極的に獲得し、地域および国内外のイノベーション促進に貢献しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 助成金の獲得実績： <p>沖縄県からは、OIST Innovation Accelerator を対象とした助成金の継続支援を受けたほか、複数の民間財団から研究助成金の採択を受けました。また、科学技術振興機構（JST）の「大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援」事業の一環として、「PARKS（Platform for All Regions of Kyushu &amp; Okinawa for Startup-ecosystem）」を通じた追加資金も獲得しました。</p> </li> <li>- 共同研究・産学連携の推進：</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
			<p>サントリーホールディングス（株）との共同研究、沖縄電力およびオリオンビール株式会社との連携協定に基づく共同プロジェクトの展開、ならびに日本電通電話株式会社（NTT）および株式会社東芝との包括協定を通じた協働の枠組みが進展しました。また、経済同友会との連携により、産業界・学術界・地域社会をつなぐシンポジウムシリーズを継続開催し、オープンイノベーションの促進と社会実装に向けた対話の場を提供しました。</p> <p>また、内閣府補助金及び経済産業省「地域の中核大学等のインキュベーション・産業融合拠点の整備（大学等向け）」により、インキュベーション施設を 2 棟新設しました。</p>	
	<p>（寄付金）</p> <p>3109 個人向け定期寄付制度、法人サポーター制度、ネーミングライツによる寄付制度など、様々な手法を通じて積極的にフィランソロピーによる資金調達を行います。</p>		<p>（寄付金）</p> <p>3109 ファンドレイズ担当副学長の採用活動を開始し、海外で大型寄付獲得の経験を有する者を、次年度 5 月 1 日着任で確保しました。また、国際的な外部専門家からの助言を受け、堅固な基盤を確立のため、寄付金を充てる優先事項を見直し、寄付カタログを作成しました。</p>	
第 4 章 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項				
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 目標	<p>研究室から生まれた発明を社会的・経済的利益のため企業への技術移転を推進し、学園及び沖縄におけるイノベーションを発展させるため、以下の幅広い取組を行います。</p> <p>a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング</p>			A



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを運営 c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向けて、他機関とも連携した起業家活動及びスタートアップの育成支援 d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大 e) 沖縄のイノベーション・エコシステム（R&D クラスター）形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化 f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定 これらをより強力に進めるため、予算措置された新たなインキュベーター施設設備や体制強化を着実に実行します。			
<b>4</b> <b>沖縄の自立的発展への貢献に関する事項</b> <b>取組</b>	（技術移転及びイノベーションの促進） a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング  4101 面談や啓発イベントを通じ、積極的に教員、研究者や学生に働きかけ、学園の知的財産を特定する機会を確保します。	・将来の連携及びライセンスリングを見込んだ企業とのコンタクト数（100）  ・企業との連携事業数（連携協定、共同研究契約、特許活用件数等）（24）  ・知的財産の指標（発明の開示数（18）、知的財	（技術移転及びイノベーションの促進） a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング  4101 「知財入門」セミナーを 2 回開催し、教員や研究者との知的財産に関する会議を 100 回以上行い、知的財産に関する助言を行いました。教員及び研究者への知的財産に関する積極的な働きかけにより、以下の成果を得ました。 - 発明開示件数：21 件 - 新規特許出願件数：47 件	



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	4102 知的財産の市場価値や競争環境を評価し、事業化戦略を強化します。	<p>産の事業化(5)、特許ファミリーの累計数)</p> <p>・イノベーション、技術開発、R&amp;D クラスター開発関連トピックにおいて学園が企画又は主催したシンポジウム、会議、ワークショップ、セミナーの数 (30)</p> <p>・イノベーション、技術開発、R&amp;D クラスター開発関連トピックにおいて学園が企画又は主催したイベント、コース、シンポジウム、会議、ワークショップ、セミナーの参加者の数 (800)</p> <p>・POCのプロジェクト、及びテクノロジーパイオニアフェローシップの採択件数 (21)</p>	<p>- 特許取得件数：12 件</p> <p><b>添付資料 4. 1-1 特許状況 (グラノットマイヤー)</b></p> <p>4102 知的財産の市場価値や競争環境を評価分析が可能な、ソフトウェアやプラットフォームを活用し、事業化戦略を強化しました。</p> <p>- AI プラットフォームを導入し、包括的な市場調査を実施</p> <p>- 企業とのマッチング・プラットフォームを活用し、研究開発企業と連携</p> <p>- ライセンス供与可能な 107 件の知的財産のマーケティング資料を管理</p> <p>- 知的財産の市場価値や競争環境評価に伴う企業との会議を 100 回以上開催</p> <p>-</p> <p>4103 LinkedIn を OIST の技術を広めるマーケティングプラットフォームとして確立しました。</p> <p>- LinkedIn フォロワー数：3,700</p> <p>- 投稿平均エンゲージメント率：21%（同業技術移転機関より 150%高い）</p> <p>- LinkedIn を介してライセンス付与や共同研究に関する問合せ対応</p> <p>その他、ソーシャルメディア・プラットフォームを活用し、技術移転成果の増加を図りました。</p>	
	4103 ソーシャルメディアなど新しいマーケティングプラットフォームを利用して技術移転成果の増加を目指します。			

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>4104 特許プロセスと戦略を強化し、技術マーケットの魅力の向上を目指します。</p> <p>b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを運営</p> <p>4105 ハンズオンサポートを提供することで POC（概念実証）プログラムとテクノロジー・パイオニア・フェローシップを支援し、商業化の取組を確実にします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該年度において支援するスタートアップ数、スタートアップ・アクセラレーター・プログラム、インキュベーター施設、起業家向けプログラムによって支援された起業プロジェクト件数 (45)</li> </ul>	<p>4014 新たに 2 名の知的財産 (IP) スペシャリストを採用し、IP ライセンシング担当者の専門能力開発及びメンタリングを強化しました。</p> <p>また、日本政策投資銀行との連携を強化し、同銀行が提供する技術動向分析ツールへのアクセスを確保しました。</p> <p>当該年度は、知的財産を活用した事業件数が 10 件（昨年度比 6 件増）となりました。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーション・ネットワーク @ OIST(INO) への登録企業数 (50)</li> <li>・視察や来訪者の数（オープン・キャンパスの来訪者数を含む）</li> <li>・キャンパスを訪れた県内児童・生徒数</li> <li>・県内児童・生徒を対象とした講義やイベントの数</li> <li>・沖縄出身の職員数</li> <li>・年間の新規採用者数</li> </ul>	<p>b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを運営</p> <p>4105 当該年度は 14 件の新規 POC プロジェクトを採択し、9 件のプロジェクトを継続支援しました（合計 23 件）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- シードフェーズ：14 件（新規）</li> <li>- フェーズⅠ：2 件（継続）</li> <li>- フェーズⅡ：3 件（継続）</li> <li>- テクノロジー・パイオニア・フェローシップ：4 件（継続）</li> </ul> <p>昨年度導入した「ファストトラック」プロセスを通じて、通常の POC プログラム申請サイクルの枠外で浮上した有望なプロジェクト 2 件を採択しました。</p> <p>その他、以下のイベント等を提供し技術商用化の推進に向けサポートしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 248 時間のコンサルテーション</li> <li>- POC プロジェクトの技術に関心を持つ企業、ベンチャーキャピタリスト、専門家との面談</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>4106 POC（概念実証）プログラムのための産業界からのレビューアーや、エキスパート及びメンターのパネルメンバーを拡充、強化します。</p> <p>4107 POC（概念実証）プログラムの実施成果をスタートアップ設立などを含めた事業化へ着実ににつなげていくための新たなプログラムを構築します。</p>	<p>における沖縄県在住者採用割合</p> <p>・学園で開催された外部主催の国際会議及びワークショップの数、及びその参加者数</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 第2回 POC プログラム・ショーケース及びネットワーキングイベント</li> <li>- 技術移転、企業、バイオテクノロジー分野における規制をテーマに講演会・セミナーの開催（5回）</li> </ul> <p><b>添付資料 4.1-2 令和 6 年度 POC プロジェクト</b></p> <p>4106 新たに 7 人のレビューアーと 4 名のメンターを採用し、国際的に活躍する専門家ネットワークを拡大しました（計 130 名）。</p> <p>4107 商業化を促進するため、POC プロジェクトのプロモーションを強化しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 潜在的パートナーや投資家向けにマルチメディア・マーケティング用のプロモーションビデオを 3 本制作</li> <li>- POC プログラム応募者向け学内プロモーションビデオを 1 本制作</li> </ul> <p>また、産業界支援型 POC プログラムの導入に向けた協議及び企画を開始しました。</p> <p>その他、当該年度は POC プロジェクトから新たにスタートアップ企業 1 社設立（「株式会社 SND Regenic Pvt」）されました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>4108 POC（概念実証）プログラムを商業化へ向けてより適切に導くために、起業家育成教育や指導を強化します。</p> <hr/> <p>c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援</p> <p>4109 起業家活動育成支援を強化し、COI-NEXT 等外部資金事業による取組及びバイオコンバージェンス形成に向けたスタートアップアクセラレータープログラムを拡充します。スタートアップコミュニティと OIST の研究及び沖縄のビジネスコミュニティとの繋がりを強化します。</p>		<p>4108 MIT ベンチャーメンタリングサービスをモデルとした「OIST イノベーション・メンタリングサービス」を 8 か月間のパイロットプログラムとして実施しました。19 名のメンターと 8 チームのメンティーが参加し、計 25 回以上のメンタリングセッションを実施しました。</p> <p>2 件のプロジェクトがライセンス契約交渉中です。</p> <hr/> <p>c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援</p> <p>4109 当該年度は、4 チームを「OIST Innovation Accelerator」プログラムの参加者として選出しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- EXSURE : がんおよびがん幹細胞の両方を標的とするエクソソームベースの抗がん薬送達プラットフォームを開発。当該年度、沖縄にて法人設立を完了。県内企業と試薬等の製品販売契約および共同研究契約を締結。日本国内での製品開発・販売に必要な認証取得に向けて、国内製薬企業との契約に関する協議を進行中。また、福岡で開催されたがん研究学会にスピーカーとして招聘された。</li> <li>- Circular Powder : 余剰ワインを再利用することで、より持続可能な生産サイクルを実現し、健康食品や健康飲料産業向けにアルコールフリーで抗酸化物質が豊富な成分を開発。市場への近接性を考慮し、日本法人設立に先立ちスペイン・バスク地方にて法人設立を完了。本学と連携協定を結ぶ東京都渋谷区</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
		<p>の支援を受け、創業者がスタートアップビザを取得し、令和 7 年 11 月の日本法人設立に向けて準備中。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>Astrek Innovations</b>：身体的障害のある方のリハビリ支援や、建設・製造業などの産業従事者の作業パフォーマンス向上に貢献するため、先端ロボティクス、センサー、制御システムを活用した義肢を開発。令和 7 年 6 月の沖縄における日本法人設立に向けて手続き中。日本国内の製品製造に必要な認証取得を目的に、沖縄県内の医療機器製造事業者との契約協議を進行中。併せて、県内の複数の病院と実証試験の実施に向けた連携を協議中。</li> <li>- <b>Veritus</b>：生成 AI および大規模言語モデル（LLM）を活用し、研究開発における複雑な業務を簡素化・統合するソフトウェアソリューションを開発。本学のビジネスネットワークを活用して本社（神戸）の機能強化を図ることを目的として、沖縄でのオフィス開設に向けて準備中。グローバルなビジネスネットワークの拡大を目的に、JETRO 主催のアクセラレータープログラムに参加。国内外のスタートアップイベントにも積極的に参加し、学術機関との連携強化を図っている。</li> </ul> <p>「OIST Innovation Accelerator」プログラム修了生の当該年度の実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>GenomeMiner</b>（令和 3 年度採択）：新たなクラウドベースのノーコードツール「BLAST」をリリース。本学ゲノミクス・遺伝子制御システムユニットによる利用も開始。また、VC から追加のシードラウン</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>4110 教員、研究者、学生のニーズを満たすために、起業家精神促進のための多様な支援と教育の機会を提供します。</p>		<p>ド資金の獲得に成功。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- KanjuTech（令和 2 年度採択）：Antler Japan の令和 7 年レジデンスプログラムに採択。本学と連携協定を結ぶ東京都渋谷区の支援を受け、創業者 3 名がスタートアップビザを取得。日本法人設立に向け準備中。</li> <li>- Sage Sentinel（令和 2 年度採択）：沖縄県内の産業界 8 社が支援し沖縄発の革新的スタートアップの育成を目指す取り組みである「Okinawa STARTUP Program」に採択。</li> <li>- EF Polymer（令和元年度採択）：令和 6 年の「Forbes Asia 100 to Watch」に選出。インドにおける同社の事業活動に関心を寄せたゲイツ財団がインド子会社を訪問。</li> </ul> <p>その他、東京及び沖縄の経済同友会と共催で「第 2 回産学連携シンポジウム」を開催し、本学の研究成果やスタートアップ支援を紹介しました。</p> <p><b>添付資料 4.1-3 令和 6 年度スタートアップ数</b></p> <p>4110 セミナーとワークショップを 41 件開催し、1,870 名が参加しました。</p> <p>主なイベント：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- OIST イノベーション・ネットワーク（INO）イベント：6 月（東京）は、新規アクセラレーター・チームを紹介。11 月は、INO 会員向けに、POC プロジェクトリーダーがそれぞれのプロジェクトを発表し、約 80 名が参加。</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>4111 スタートアップや企業との共同研究ラボ用に割り当てられた学内施設を管理運営し、新たな 2 棟のインキュベーター施設運営計画を策定します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>- Lifetime Ventures と共同でスタートアップ・カンファレンスを開催。本学のスタートアップを投資家に紹介。2 日間で約 200 名が参加。</li> <li>- AgVenture Lab と共催で「Okinawa Night-地域から始まるイノベーション」を開催し、首都圏から 70 名が参加。EP ポリマー社と岡山のアグリテック・スタートアップ「WAKU」を紹介。</li> <li>- サントリーホールディングス（株）の客員研究員とともにポスターセッションを開催。OIST コミュニティとの交流を促進。約 100 名参加。</li> <li>- 企業ネットワークとスタートアップをつなぐ個別企業向けイベントを実施。約 10 社参加。</li> </ul> <p>添付資料 4. 1-4 産業関連コラボレーション及びイノベーション関連セミナー・イベント</p> <p>4111 外部機関が参画する連絡協議会を立ち上げ、学内関係者で構成されるインキュベーター・ワーキング・グループの定例会開催し、新たな 2 棟のインキュベーター施設の運営計画を策定しました。</p> <p>また、内閣府沖縄総合事務局から「令和 7 年度沖縄型スタートアップ拠点化推進事業費補助金」を獲得し、同施設で展開するビジネス、法律、財務相談等起業支援サービスの検討を開始しました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>4112 OIST-Lifetime Ventures Fund およびその他のベンチャーキャピタルと連携しスタートアップ支援の拡大を図ります。</p> <p>4113 ベンチャーキャピタルパートナーと連携し、起業家を目指す人材の育成活動を展開します。</p> <p>4114 グローバルスタートアップキャンパス構想等との連携をはじめ、更なるスタートアップ創出・育成に向けて、共同研究や人材交流等の推進方策について検討を開始します。</p>		<p>4112 Lifetime Ventures と共催で、「OIST-Lifetime Startup Elevate 2024」を開催しました。40 社以上のアーリーステージのスタートアップと 100 名以上の投資家を沖縄、日本、海外から集め、投資家には新たな投資機会の提供、スタートアップには資金確保ができるプラットフォームを構築しました。</p> <p>4113 サントリー、ライフタイム・ベンチャーズ、シリコンバレーの投資家、シスメックス、コランダム・システムズ・バイオロジーと共同で、人的資源の育成を目的としたネットワーキングイベントを 5 回開催しました。</p> <p>4114 グローバル・スタートアップ・キャンパスとの連携のもと、計算行動神経科学ユニットが Chan Zuckerberg Biohub Network（チャン・ザッカーバーグ・バイオハブ・ネットワーク）及び一般社団法人 Stella Science Foundation（ステラ・サイエンス・ファウンデーション）が共同で提供する「Global Science Scholars－SSF&amp;CZ Biohub Network プログラム」のホスト研究室として選定されました。</p> <p>その他、スタートアップ支援を目的として、以下の人材交流の取り組みを実施しました：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 一橋大学ビジネススクールから MBA インターン生 4 名を受け入れ</li> <li>- 琉球大学から学生インターン 4 名を受け入れ</li> <li>- スタンフォード大学ビジネススクールとの新たな連携を通じて、MBA インターン生の受け入れを開</li> </ul>	



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
			<p>始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- グローバル・スタートアップ・キャンパス関係者に対し、スタートアップ支援やイノベーション政策に関して助言</li> </ul>	
	<p>d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大</p> <p>4115 会議、展示会、各種ネットワークを通じて、企業との共同研究を促進します。企業会員プログラムを運営して、県内、国内、及びグローバル企業との連携を拡大します。</p> <p>4116 沖縄県、国、民間財団等からの革新的な研究のための助成金獲得に向けて支援を継続します。</p>		<p>d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大</p> <p>4115 技術やスタートアップの促進のため、102 の企業と会議を開催したほか、10 の展示会に参加し本学の研究及び技術を紹介しました。</p> <p>OIST イノベーション・ネットワーク (INO) プログラムを拡大しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 会員数 : 54 (昨年度比 9 増 : プレミアム会員数 14、レギュラー会員数 39)</li> <li>- イベント : 6 月にアクセラレーター・チームを紹介するイベントを東京にて開催。11 月に POC プロジェクトチームの技術を披露するイベントを本学にて開催。</li> <li>- インターンシップ・プログラム : サントリーと共同で行っており、当該年度は 7 名の研究員を受け入れた。</li> </ul> <p>4116 (3106 及び 3108 再掲) 当該年度は、研究者と企業との連携を促進し、民間財団によるイノベーション助成金の獲得を実現しました。公共・民間セクターの資金を活用した取り組みを通じて、早期ステージの研究成果の社会実装に向けた連携体制の強化・構築を進めました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
		<p>た。</p> <p>産学官の連携を深化させるとともに、研究・起業支援のための外部資金を積極的に獲得し、地域および国内外のイノベーション促進に貢献しました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 助成金の獲得実績： 沖縄県からは、OIST Innovation Accelerator を対象とした助成金の継続支援を受けたほか、複数の民間財団から研究助成金の採択を受けました。また、科学技術振興機構（JST）の「大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援」事業の一環として、「PARKS（Platform for All Regions of Kyushu &amp; Okinawa for Startup-ecosystem）」を通じた追加資金も獲得しました。</li><li>- 共同研究・産学連携の推進： サントリーホールディングス（株）との共同研究、沖縄電力およびオリオンビール株式会社との連携協定に基づく共同プロジェクトの展開、ならびに日本電通電話株式会社（NTT）および株式会社東芝との包括協定を通じた協働の枠組みが進展しました。また、経済同友会との連携により、産業界・学界・地域社会をつなぐシンポジウムシリーズを継続開催し、オープンイノベーションの促進と社会実装に向けた対話の場を提供しました。</li></ul> <p>また、内閣府補助金及び経済産業省「地域の中核大学等のインキュベーション・産業融合拠点の整備（大学等向け）」により、インキュベーション施設を 2 棟新設しました。</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>4117 複雑な企業との契約交渉プロセスの効率化を図り、事業化戦略を構築します。</p> <p>4118 共同研究の成果拡大に向け、企業との共同研究ラボを実施します。</p> <p>4119 ライセンス契約を強化するため、大学、企業、投資家、スタートアップを含めたマルチレベルパートナーシップ、コンソーシアム、イノベーションハブなど産業界との協力体制を強化します。</p>		<p>4117 企業と包括的な連携協定に向けた MOU を新規 1 件締結しました。</p> <p>4118 OIST x Sony CSL 共同ラボを実施し、以下の取り組みを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- COI-NEXT において、プロジェクトリーダーとして参画。</li> <li>- ワークショップを 2 回開催し、INO イベントを含む多数の講演で登壇</li> <li>- 4 本の論文を発表</li> </ul> <p>OIST×コランダム・システム・バイオロジー共同研究開発ラボを実施し、以下の取り組みを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ロボットと実験装置の設置、クラスター・システムのプロトタイプの完成、サンプル処理の検証、実験プロトコルの最適化。</li> <li>- プロジェクトの第一段階から商業化を加速させるための計画を策定。</li> </ul> <p>4119 イルミナ株式会社とゲノム科学のイノベーションを加速するための覚書を締結しました。</p> <p>当該年度は、企業と 12 件の委託研究契約、共同研究契約を締結したほか、新規ライセンス／オプション契約を 10 件締結しました。</p>	
<p>e) 沖縄のイノベーション・エコシステム (R&amp;D クラスター) 形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化</p>		<p>e) 沖縄のイノベーション・エコシステム (R&amp;D クラスター) 形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>4120 地域、国内及び海外の機関との交流を行います。</p>	<p>4120 当該年度は、学外機関との連携強化を図るため、以下の機関と覚書を締結しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- JSIP 株式会社と沖縄とアジアのスタートアップを支援するため、連携強化に向けた覚書を締結</li> <li>- みずほ銀行と本学及び地域のスタートアップを支援するため、連携推進に向けた覚書を締結</li> <li>- デンマークのソフトウェア会社 Partisia（パーティシア）社と、秘匿マルチパーティ計算技術とプライバシー強化技術の研究開発を推進するための覚書を締結</li> <li>- オリオンビール株式会社と脱炭素・持続可能な社会を見据えた次世代型エネルギーソリューションの開発及び導入において、産学連携推進に関する覚書を締結</li> <li>- 株式会社りゅうせき、国立大学法人琉球大学、日本エヌ・ユー・エス（JANUS）と「沖縄ブルーカーボンプロジェクト」における産学連携推進のため、4者間の覚書を締結</li> <li>- イルミナ株式会社とゲノム科学のイノベーションを加速するための覚書を締結</li> </ul> <p>その他、経済同友会と大型イベントを開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 東京・沖縄両経済同友会と共催で第2回「OIST 合同シンポジウム」を開催し、産学官連携によるイノベーション創出の可能性について意見交換を実施</li> <li>- 同シンポジウムでは、OIST 研究者による最先端研究の紹介、OIST 発スタートアップのピッチセッション</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>4121 沖縄におけるイノベーション・エコシステムを強化する戦略アドバイスを取り入れるために、政府や産業界の専門家と交流します。</p> <p>4122 産業界、政府、起業家、学界などのイノベーションのための関係者を集めるための会議やイベントを開催します。</p>	<p>ョン、パネルディスカッション等を通じて、具体的な連携機会の創出を促進</p> <p>沖縄経済同友会から「OIST の発展に関する提言書」（2025 年 3 月）を発行。OIST の地域・産業界への貢献と今後の連携可能性に対する期待が明示された</p> <p>4121 大学、政府、産業界の専門家等の視察を 54 件受け入れました。</p> <p>4122 (4110 再掲) セミナーとワークショップを 41 件開催し、1,870 名が参加しました。</p> <p>主なイベント：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- OIST イノベーション・ネットワーク (INO) イベント：6 月（東京）は、新規アクセラレーター・チームを紹介。11 月は、INO 会員向けに、POC プロジェクトリーダーがそれぞれのプロジェクトを発表し、約 80 名が参加。</li> <li>- Lifetime Ventures と共同でスタートアップ・カンファレンスを開催。本学のスタートアップを投資家に紹介。2 日間で約 200 名が参加。</li> <li>- AgVenture Lab と共催で「Okinawa Night-地域から始まるイノベーション」を開催し、首都圏から 70 名が参加。EP ポリマー社と岡山のアグリテック・スタートアップ「WAKU」を紹介。</li> <li>- サントリーの客員研究員とともにポスターセッションを開催。OIST コミュニティとの交流を促進。約 100 名参加。</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	<p>4123 琉球大学や沖縄高専等、県内関係機関と協力し、地域の経済発展に寄与するための産学官金連携を促進します。</p>	<p>企業ネットワークとスタートアップをつなぐ個別企業向けイベントを実施。約 10 社参加。</p> <p>4123 琉球大学や沖縄高専と以下について取り組みました。</p> <p>琉球大学／スタートアップラボ琉大（RYULAB）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 令和 7 年度の具体的なアクションプラン策定と関係強化を目的として、令和 6 年 8 月及び 9 月に管理職向けの協働ワークショップを実施。</li> <li>- スタートアップ支援活動のプロモーションのため、以下のイベントに共同出展： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Singapore Week of Innovation &amp; Technology (SWITCH) 2024</li> <li>・ Startup Japan 2024</li> <li>・ TSUNAGU CITY in NAGO 2025</li> </ul> </li> <li>- 琉球大学コミュニティへの起業家教育を継続的に提供し、同大学の COI-NEXT プログラムの一環として魚用飼料の開発を行うチームを 2024 年秋期リーベン・スタートアップ起業家研修プログラムにて支援。</li> <li>- 琉球大学の学生が OIST 発スタートアップでインターンを体験できる新規プログラムを立ち上げ、令和 6 年夏に 4 名の学生を受け入れ。</li> <li>- 東京のスタートアップコミュニティとの接点づくりとして、「Okinawa University-Startup Showcase」を開催。OIST スタートアップ 5 社、RYULAB スタートアップ 4 社が登壇。</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
			琉球大学／沖縄工業高等専門学校 - 令和 7 年 10 月にパリで開催される国際的合成生物学コンペティション「iGEM」に、沖縄県から初めて琉球大学、沖縄工業高等専門学校が出場することになり、学生に向けた実践的なメンタリングを提供。	
f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定			f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定	
4124 学園や沖縄におけるイノベーション指標の分析を進めるために必要なパートナーシップ及び手法を構築します。			4124 イノベーションの指標の追跡、分析ツールを導入しました。	
(地域連携に関する取組) 4125 知事等、沖縄県幹部と学長レベルでの意見交換に加え、実務レベルでの意見情報交換の重層的取り組みにより、「新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」への貢献や個別事業における一層の協力関係を構築します。			(地域連携に関する取組) 4125 沖縄県の科学技術振興課及び関連部署と定期及び不定期の情報交換や相互訪問を行い、より密接な協力関係を構築しました。	
4126 年間を通じあらゆる層の県民に対しキャンパス見学や県民が参加できるキャンパスツアー、科学普及プログラム、一般向け年次科学イベント、一般向け講座や映画上映会、サマーキャンプ、文化活動、教育的アウトリーチなどを実施します。地域のつながりを促進する沖縄やその他地域の文化を紹介するイベントを提供します。離島を含む沖縄県全域の県民が参加できる機会を提供します。			4126 科学アウトリーチや文化的な機会に関連する年間の充実したプログラムをキャンパス内外で提供しました。  OIST 来訪者数（合計：29,080 名） - ガイド付きキャンパスツアー：1,493 名 - 自由見学：17,125 名 - 学校訪問：84 校から 4,718 名	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
		<ul style="list-style-type: none"> <li>- 視察訪問：84 グループから 1,074 名</li> <li>- その他のキャンパス内活動・プログラム参加者：4,670 名</li> </ul> <p>アウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 毎年 138 回の活動を実施（うち 126 回は本学主催・共催・支援したイベント）</li> </ul> <p>主なイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- キッズレクチャー「OIST 発宇宙への旅」：参加者数 500 名（本学講堂）</li> <li>- 海の日キッズレクチャー『まるでエイリアン？！頭足類の秘密を探れ！』：参加者数 450 名（本学講堂）</li> <li>- こども霞が関見学デー：参加者数 160 名（内閣府中央合同庁舎にて開催）</li> <li>- 恩納村×OIST こどもかがく教室（7/22-7/26、8/14-8/16）：参加者数 141 名（恩納村外からの児童生徒を含む）</li> <li>- 第 13 回「SCORE! サイエンス in 沖縄」起業のための研究高校生のための研究コンテスト：参加者数 100 名</li> <li>- 沖縄慰霊の日トークイベント：参加者数 250 名（学内及び一般を含む）</li> <li>- 沖縄伝統芸能文化イベント「琉球の響」：参加者数 480 名</li> <li>- 沖縄県立芸術大学学生作品展「Cycle 展」：参加者数 2,165 名（本学トンネルギャラリーの来訪及び本学学生と県立芸大学生の交流プログラム参加者含む）</li> </ul>	



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
			<ul style="list-style-type: none"> <li>- アーティストスプツニ子！氏による講演会「デジタルキャンパス：科学・芸術・テクノロジーが織りなす未来」公開講演：参加者数 400 名</li> <li>- OIST サイエンスフェスタ 2025（一般公開科学イベント）：参加者 1,650 名</li> <li>- 離島での科学授業プログラム「OIST サイエンストリップ」 宮古島の沖縄県立宮古高等学校で 193 名、八重山高等学校で 50 名の学生が参加</li> </ul> <p>その他： 沖縄県、恩納村、読谷村等との連携事業を多数実施しました。</p>	
	<p>（その他の取組）</p> <p>4127 未知の感染症のまん延防止のために、本学にて PCR 検査能力・検査体制を確保するための中長期的な計画について、沖縄県と引き続き協議します。</p> <p>4128 コアファシリティ（共用研究施設）等で県内の学生がインターンシップをできる機会を提供し、学生の就業意識の向上や実地経験の獲得に協力します。</p>		<p>（その他の取組）</p> <p>4127 未知の感染症のまん延防止のために、本学にて PCR 検査能力・検査体制を確保するための中長期的な計画について、沖縄県と引き続き協議し、令和 6（2024）年 11 月に「新型インフルエンザ等感染症、指定感染症又は新感染症に係る検査を提供する体制の確保に必要な措置に関する協定書」締結しました。</p> <p>4128 当該年度、コアファシリティ部門へのインターン希望者はいなかったものの、研究ユニットにおいて国立沖縄工業高等専門学校をインターンシップとして受け入れました。</p>	
第 5 章 キャンパス整備・大学コミュニティの形成、安全確保及び環境への配慮に関する事項				
5.1	計画通りキャンパスの整備を進めます。			A

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
キャンパス整備 目標				
5.1 キャンパス整備 取組:	<p>(キャンパス整備)</p> <p>5101 新たなインキュベーター施設 (2 棟)、第 2 データセンター及びオープンイノベーション施設 (2 棟) の建設についてはコスト管理・削減を徹底するとともに、工期を厳守するよう工事の進捗について注意深くモニターしながら管理します。</p> <p>5102 既存のキャンパスビルディング及び施設・設備について、現状を把握したうえで、中長期の視点で計画的に更新・修繕・維持管理し、長寿命化や省エネルギー化、スペースの有効活用を図るとともに、外部資金等も活用した施設整備にも取り組むことにより、持続性のある施設マネジメントを推進します。</p> <p>5103 既存施設における施設維持管理・更新 (熱源、電力監視等) については、老朽化等の状況を踏まえ計画的に実行することとし、コスト管理・削減を徹底するとともに、工期を厳守するよう設計及び工事の進捗について注意深くモニターしながら管理します。</p> <p>5104 透明性確保のため、公共工事の入札及び契約の適</p>	<p>(キャンパス整備)</p> <p>5101 新たなインキュベーター施設 (2 棟)、第 2 データセンター及びオープンイノベーション施設 (2 棟) の建設について、コスト管理・削減を徹底し、また適切な工期管理を行いました。インキュベーター施設 (2 棟) 及びオープンイノベーション施設 (2 棟) は、当該年度末に完成しましたが、第 2 データセンターは、主要設備のインバータ等部品の納期及び専門作業員の手配に遅延等が生じたため、令和 7 年度中の完成を目指し工事を引き続き進めます。</p> <p>5102 長期修繕計画に基づき、中長期的な視点で計画的に施設整備や維持管理を行いました。その計画のもと、スタートアップ支援強化にもつながるシーサイドハウスの老朽化、安全対策、研究棟の照明 LED 化などを図るべく、適正な工事発注の準備を行いました。また、民間資金を活用し滞在施設の整備事業を開始しました。</p> <p>5103 長期修繕計画を踏まえ、緊急性・重要性が高い施設設備の修繕・更新について、実行体制を整え、効率的に管理しました。</p> <p>5104 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関す</p>		

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
	正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づき、入札スケジュールや結果等の入札前後の情報開示を推進します。		る法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づく手続きを順守し、入札・契約の実施及び関連情報の公表を随時・適宜行いました。	
5.2 大学コミュニティの形成、 子弟の教育・ 保育環境の向上 目標	OIST コミュニティは多様なバックグラウンドを持つメンバーで構成されているため、共通の体験や一体感を通してインクルーシブな学園文化を維持し、OIST コミュニティを活気づけるために、コミュニティの全てのメンバーに対して有意義でインパクトのある活動プログラムとサービスを提供します。			A
5.2 大学コミュニティの形成、 子弟の教育・ 保育環境の向上 取組	<p>（大学コミュニティの形成）</p> <p>5201 教職員・学生及びその家族の日常生活をサポートするための高品質のプログラムを充実させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 家族のためのオンボーディング（文化や仕事の進め方に慣れるための情報共有）を強化します。</li> <li>- 学園内の関連部署との連携を維持し、新規採用者とその家族が赴任する前に必要な、生活等に関する情報を提供する早期受入れプログラムを導入します。</li> <li>- 新しく赴任した教職員及び学生の家族が、既存教職員等の家族と交流し、互いに生活に必要な情報や地域のサービスを有効に活用できるための情報交換の方法を模索します。</li> <li>- 人事ディビジョンと連携し、住居、チャイルドケアサービス、家族サポート、医療サービス、そして日常生活のニーズに対し適切な情報を提供し、教職員とその家族の円滑かつ効率的な受入れサポート体制を確保します。</li> </ul>		<p>（大学コミュニティの形成）</p> <p>5201 教職員・学生及びその家族の日常生活をサポートするための高品質なプログラムを充実させるべく、以下のことに取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 新たに着任した職員のみならず、その家族も対象に、本学での生活や手続きに必要な情報、ならびに情報収集の方法を教示するとともに、ネットワークの形成を支援するためのプログラム「Community and Family Member Orientation」の提供を開始しました。</li> <li>- 妊娠中または乳幼児がいる教職員や学生を対象とした集会を開始し、当該年度内に 2 回開催しました（2 か月に一度開催）。</li> <li>- 教職員や学生およびその家族に必要な情報を適時適切に提供できるよう体制強化を図りました。</li> <li>- 教職員の赴任サポート業務を、人事ディビジョンから大学コミュニケーションサービスに移管し、新規職員によりシームレスに支援を提供できる体制を</li> </ul>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>- 客員研究員、招聘ゲストの滞在中のサポートを行います。</p> <p>5202 多様な学園コミュニティに品質と費用効果の高いフードサービスを提供します。</p> <p>5203 引き続き、フードサービスを提供するベンダーの品質を確保するための手順を開発し、管理・監督します。</p> <p>5204 がんじゅうサービスは、今後も質の高いエビデンスに基づくウェルビーイングの支援を学園コミュニティ全体（学生・職員・家族やその子ども）に提供し、全員が最善の状態で活動・活躍できるよう支援します。また、今後も全てのステークホルダーと連携し、学園コミ</p>		<p>整えました。</p> <p>5202 既存のレストラン、カフェ、コンビニエンスストアに加え、多国籍で多様なニーズに対応するため、お弁当販売やフードトラック事業者等 20 社と契約し、幅広い種類の食事を提供できる体制を整えました。レストランの運営会社の選定にあたっては、候補企業の運営現場やオペレーションを視察し、ハラルやヴィーガン食への対応ができ、かつ、学内の研修やワークショップのためのケータリングにも広く対応できる事業者の誘致に成功しました。さらに、夜間や週末にも利用可能な 24 時間対応の無人ストアの導入を進めました。</p> <p>5203 各事業者と日頃から密にコミュニケーションを取り、提供メニューの内容や衛生管理、アレルギー表示、宗教的食習慣への対応などについて、継続的に情報共有を行い、必要に応じて改善を図りました。また、各事業者の出店状況を定期的に視察し、実際に販売されている商品の内容や品質確認などを行うことで、現場レベルでのチェックも実施しました。</p> <p>5204 コミュニティのウェルビーイングおよびメンタルヘルスを保つため、質の高いサービスの提供に取り組みました。サービス利用までの待機期間を短縮できるよう改善しました。機密情報の取り扱いには十分に配慮しつつ、内部のコミュニケーションを密に取り合うこと</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>ユニティのニーズに合ったサービス提供をします。要請があれば、不平等な状況に関する問題提起などを代わりに働きかけます。</p> <p>5205 学園コミュニティのウェルビーイングを支援するためのワークショップ、個々のレジリエンスを高めるためのワークショップを引き続き提供し、ウェルビーイングへの取組支援を継続します。他のコミュニティーサービスと協力し、コミュニティのメンバーがサポートされ、大切にされていると感じられるような、つながりと協力の文化を築き続けていきます。</p> <p>5206 クラブ活動及びコミュニティがかかわる活動を促進し管理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ビレッジゾーン、フィットネスジム、シーサイドハウス（ラウンジ、デッキ、パティオ、テニスコート、サッカー場）、クレイファクトリー（製土工場）、新宿舍内ラウンジ等の学園のコミュニティスペースの使用を管理・監督します。</li> </ul> <p>5207 身体的、精神的な健康とコミュニティ全体のウェルビーイングを促進するためのレクリエーション活動、イベント、クラス、セミナーの企画と補助を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- イベント開催や施設の共同利用により、地域コミュニティと連携する機会を模索し提供します</li> <li>- 学園のコミュニティメンバーが参加できる沖縄の</li> </ul>		<p>で、サービスの質向上を図りました。</p> <p>5205 カウンセリングだけでなく、より多くのコミュニティメンバーに学びの機会を提供できるよう、教職員や学生に対してウェルビーイングに関するワークショップを 6 回開催しました。</p> <p>また、特定の部署などから個別の依頼があった場合、コミュニケーションに関するワークショップなど、それぞれの事案対応にカスタマイズしたプログラムも提供しました。</p> <p>5206 クラブ活動の状況調査を行うとともに、クラブと関連部署、地域社会、恩納村役場などとの円滑なコミュニケーションを支援しました。また、地域のイベントへの参加や地域の施設利用申請・減免手続きに関するサポートを行いました。</p> <p>新たに 3 つのクラブの設立、2 つのクラブの活動再開のため、クラブ細則、組織図、および緊急連絡体制の整備を支援しました。</p> <p>5207 恩納村役場の保健師を本学に招き、新生児を持つ家庭向けのイベントを開催しました。また、OIST コミュニティメンバーが地域社会とつながる機会となるイベントの開催および開催支援を行いました。</p> <p>沖縄や日本文化に触れる機会として、計 9 回の文化体験ワークショップを企画・実施し、延べ 137 名が参加しま</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>レジャー活動及び沖縄の文化的な機会を模索し提供します</p> <p>5208 学園内外のレクリエーション及びスポーツ施設の利用可能性を調査し、利用を促進します。</p> <p>5209 ニーズ調査結果に基づき、職員とその家族、県内コミュニティーメンバー向けに提供される言語クラスのサービスの質を改善します。</p> <p>5210 より柔軟な指導スケジュールと、より良いプログラムの提供について検討します。</p> <hr/> <p>(子弟の教育・保育環境)</p> <p>5211 保育サービスにおいて、STEM 及び SEL(対人関係能力育成)プログラムを通じ、教職員及び学生の子弟の教育環境の向上を図ります。</p>		<p>した。</p> <p>ワークショップ参加者を対象に、今後の文化体験イベントに関するニーズを把握するためのアンケート調査を実施しました。</p> <p>地域貢献活動の一環として、村や漁業関係者が主催するビーチクリーンイベントへの学内での参加呼びかけを行い、当日の運営サポートを行いました。</p> <p>5208 OIST 研究員コミュニティ及び外部講師から学内施設の利用や予約システムに関する意見と利用促進のための提案の聞き取りを行いました。また、学外施設利用を希望しているクラブの諸手続きの支援を行いました。</p> <p>5209 ニーズ調査アンケートの結果、言語クラスの授業以外で言語を使う機会を望んでいる学生が多くいることがわかり、学んだ言語を活用できるイベントを提供しました。</p> <p>5210 日本語を母語とする職員や学生を対象に、日本語で英語を教える「基礎英語クラス」を新たに導入しました。また、より多くの日本語クラスを提供及びプログラムの充実を図るべく、体制を整えました。</p> <hr/> <p>(子弟の教育・保育環境)</p> <p>5211 チャイルドディベロップメントセンター (CDC) では、5つの分野 (身体、言語と読み書き、アート、STEM (科学、技術、工学、数学)、SEL (対人関係能力育成)</p>	

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>5212 質の高い、完全なバイリンガル（英語・日本語）の就学前及び就学児童（学童保育/長期休暇）のための保育プログラム/教室を、チャイルドディベロップメントセンター（CDC）及び小中学校プログラム（SAP）を通じて提供・開発します。これらのプログラムへの登録者数は今後も増加すると予想されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- CDC 及び SAP の適切な人材配置モデルを再検討し、質の高い保育サービスを確保します。</li> <li>- CDC 及び SAP の収益と経費を見直し、適切な予算と料金を通じて持続可能な資金調達モデルを確立します。</li> <li>- CDC 及び SAP のスペースのニーズについて検討します。</li> <li>- CDC と SAP プログラムの管理及び職員のトレーニングプロセスを改善します。</li> <li>- CDC 連絡委員会は、CDC 及び SAP プログラムを補助するために必要に応じて会合します。</li> <li>- CDC 監督委員会は、CDC 及び SAP プログラムの運営をレビューし、必要に応じて助言・勧告します。</li> <li>- CDC 保護者会は、CDC の管理部署と必要に応じて会合し、助言・勧告します。</li> </ul> <p>5213 県内の公立学校に通う教職員・学生の子弟に適切</p>		<p>を含めた保育内容、アクティビティを計画立てて実施しました。小中学校プログラム（SAP）においても STEM 及び SEL プログラムを実施しました。</p> <p>5212 CDC 及び SAP において、質の高いバイリンガル（英語・日本語）の就学前及び就学児童のための保育プログラムを提供しました。</p> <p>国が定める保育士配置基準より高い比率を維持し、一人ひとりに丁寧な保育を提供しました。</p> <p>また、質の高いバイリンガル・プログラムを提供できる環境を維持するため、年二回の全体研修日を設け、重要事項について共有・議論するなどし、職員間の円滑なコミュニケーションと課題解決能力の向上を図りました。</p> <p>CDC と SAP では、持続可能な資金調達モデルを確立するため、定期的に予算をモニタリングし、適切な運営を行いました。また、両プログラムへの登録者の変動を見越し、スペースの有効活用について検討しました。</p> <p>5213 沖縄県における教育環境に関する保護者のニー</p>	



令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
<p>な英語教育の機会を提供します。また、優れた教職員及び学生の採用と確保のため、家族が国際的にも認められる学校教育にアクセスできるようインターナショナルスクールについての情報提供及び学校補助金プログラム支援等を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 外国人及び日本人の家族のための沖縄県内の既存の教育機会について評価・レビューし、保護者がこの情報を容易に利用できるようにします。</li> <li>- 教職員・学生の家族及び地域コミュニティのための国際バカロレア IB K-12 学校の実現可能性について検討します。</li> <li>- インターナショナルスクールの保護者満足度調査を定期的実施し、教育・サポートサービスについて検証するプロセスを開発します。</li> </ul>		<p>ズを把握し、今後の施策に反映させるため、アンケート調査を実施しました。</p> <p>また、子どもを持つ教職員および学生が、直接学校情報を得られるよう、沖縄県内のインターナショナルスクールを招いた説明会や、実際に各学校を訪問するツアーを開催しました。</p> <p>教員の採用候補者に対しても、沖縄県内の学校情報を対面またはオンラインで個別に提供しました。</p> <p>さらに、英語を母語とする教職員及び学生の子弟が、地域の学校に通いながらも継続的に英語教育を受けられる支援を継続するとともに、学校情報へのアクセスをより容易にするため、専用ウェブサイトの見直しを図り、随時情報を更新しています。</p>	
<p>(学生支援)</p> <p>5214 学生に安全で健全な環境を提供するため、学生が抱える問題の早期発見を積極的に推進し、部局内での円滑な連携を行うとともに、教員や関係部局間のコミュニケーション向上を図るなど、包括的な支援体制を講じます。</p> <p>5215 身体的、精神的な健康と学生のウェルビーイングを促進する学生のためのレクリエーション活動、イベント、クラス、セミナーの企画や支援をします。</p>		<p>(学生支援)</p> <p>5214 (1110 再掲) 個別の相談に応じ、解決策や必要なサポートを迅速に提供するなど、学生の福利厚生と学業の両面から積極的に支援しました。また、保健センターやがんじゅうサービスとも連携しつつ合理的配慮のフローについても考案し、必要に応じて情報共有を行いました。</p> <p>5215 沖縄の伝統菓子作りや漆喰シーサー作りなど、沖縄や日本の文化を体験できるワークショップを計 9 回開催しました。教職員や学生のみならず、多くのインターン生に沖縄と日本の文化体験を提供しました。また、コミュニティの誰でも参加できるアートマーケットな</p>	



令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己評価
			どのイベントを 7 回開催し、コミュニティメンバー間のネットワークづくりに貢献しました。	
<b>5.3</b> <b>安全の確保</b> <b>目標 (1)</b>	緊急対応計画、事業継続計画の実効性確認を進めるため運用及び実地訓練を実施するとともに、職場巡視を通じて各部署の安全及び緊急時対応を確保します。			<b>A</b>
<b>5.3</b> <b>安全の確保</b> <b>取組 (1)</b>	<p>(安全の確保)</p> <p>5301 緊急対応計画、事業継続計画の運用及び実地訓練を進めます。</p> <p>5302 職場巡視を通じて各部署の安全及び緊急時の体制を確保します。</p> <p>5303 恩納村と協力しながら、災害に強いキャンパス作りを進め、災害の際にはキャンパス施設を近隣住民の避難場所として提供します。</p>		<p>(安全の確保)</p> <p>5301 消防署との連携のもと総合的な火災避難訓練を実施し、避難行動をシミュレーションするとともに防災意識の向上を図りました。</p> <p>5302 安全衛生管理体制の維持・向上を目指し、安全衛生委員会、産業医（毎月）及び衛生管理者（毎週）による定期的な巡視を実施し、各研究室に対して、必要に応じ指導及び助言を行いました。その他、事故防止に関する取組みとして、発生した労災事故及びニアミスの事例に関する調査報告書（再発防止策を含む）を作成し、安全衛生委員会で関係専門家によるアドバイスも参照しつつレビューを行いました。その結果得られた知見は、学内における類似事故の再発防止を目的とした情報発信や、安全教育活動のために活用しました。</p> <p>5303 大規模な緊急事態が発生した場合、本学を近隣住民の避難場所とするため、非常用食料等の備蓄品を確保し、消費期限の過ぎた非常食は必要に応じて入替を行いました。また、災害時に使用する資機材の備蓄を増やしました。</p>	
<b>5.4</b> <b>環境への配慮</b>	環境に配慮しながら事業を推進し、また、国連が掲げる SDGs の方針に沿った取り組みを行います。			<b>A</b>

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績		自己評価																												
目標																																	
5.4 環境への配慮 取組	<p>(環境への配慮)</p> <p>5401    リサイクル製品の使用を推進します。</p> <p>5402    温室効果ガス排出量とエネルギー消費を把握し、抑制に努めます。</p>		<p>(環境への配慮)</p> <p>5401    建築工事について、費用面で適切でない場合を除き、可能な限りリサイクル製品・材料を継続的に使用しました。</p> <p>5402    当該年度において、第 5 研究棟の動物実験施設の本格稼働及び沖縄地方の平均気温の上昇によりエネルギー消費量が上昇しました。一方で、第 5 研究棟及び夏場（6 月～10 月）を除き、省エネ啓発活動（CERI）や省エネ機器の導入によりエネルギー消費量の抑制を図ることができ、電気使用量は 1.3%の削減することができました（第 5 研究棟及び夏場（6～10 月）を除く）。</p> <table><tr><th rowspan="3">測定項目</th><th colspan="2">原単位</th><th rowspan="3">前年度比 (%)</th></tr><tr><th colspan="2">〔 使用量 延床面積×職員数 〕</th></tr><tr><th>2023 年度</th><th>2024 年度</th></tr><tr><td>CO2 排出量 (kgCO2)</td><td>0.144</td><td>0.148</td><td>+ 2.8%</td></tr><tr><td>電力使用量 (kwh)</td><td>0.175</td><td>0.179</td><td>+ 2.3%</td></tr><tr><td>水道使用量 (L)</td><td>0.673</td><td>0.628</td><td>-6.7%</td></tr><tr><td>A 重油使用量 (L)</td><td>0.0053</td><td>0.0057</td><td>+ 7.5%</td></tr><tr><td>ガス使用量 (m3)</td><td>0.0025</td><td>0.0026</td><td>+ 4.0%</td></tr></table> <p>※2024 年 3 月は想定使用量を加算し試算</p>		測定項目	原単位		前年度比 (%)	〔 使用量 延床面積×職員数 〕		2023 年度	2024 年度	CO2 排出量 (kgCO2)	0.144	0.148	+ 2.8%	電力使用量 (kwh)	0.175	0.179	+ 2.3%	水道使用量 (L)	0.673	0.628	-6.7%	A 重油使用量 (L)	0.0053	0.0057	+ 7.5%	ガス使用量 (m3)	0.0025	0.0026	+ 4.0%	
測定項目	原単位		前年度比 (%)																														
	〔 使用量 延床面積×職員数 〕																																
	2023 年度	2024 年度																															
CO2 排出量 (kgCO2)	0.144	0.148	+ 2.8%																														
電力使用量 (kwh)	0.175	0.179	+ 2.3%																														
水道使用量 (L)	0.673	0.628	-6.7%																														
A 重油使用量 (L)	0.0053	0.0057	+ 7.5%																														
ガス使用量 (m3)	0.0025	0.0026	+ 4.0%																														

令和 6 (2024) 年度事業計画	指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価																
<p>5403 水の再利用システムの適切な運用管理により、周辺水域への環境負荷の低減に努め、地下水への影響が無いようにします。</p> <p>5404 施設整備に伴う各種建設工事において、濁水プラント施設を設置するなど、十分な赤土流出対策を講じます。</p> <p>5405 生態系の維持や固有生物種の保護に資するようキャンパス施設・敷地を管理します。</p> <p>5406 発電能力 80 k w 規模の太陽光発電システムを導入します。さらに、令和 5 年から令和 9 年までの 5 年間で合計 500 k w 程度の太陽光発電システムの設置を計</p>		<p>5403 水の再利用システムを適切に運用・管理するとともに、恩納村よりも厳格な本学の排水基準値内に留め、周辺水域や地下水への影響を与えることなく管理しました。</p> <table border="1" data-bbox="1330 320 1995 555"> <tr> <th></th><th>恩納村基準値</th><th>OIST 排水基準値</th><th>測定結果</th></tr> <tr> <td>BOD※1</td><td>10ppm</td><td>2ppm</td><td>2ppm</td></tr> <tr> <td>SS※2</td><td>10ppm</td><td>2ppm</td><td>2ppm</td></tr> <tr> <td>PH</td><td>5～7</td><td>5～7</td><td>5～7</td></tr> </table> <p>※1 生物化学的酸素要求量 ※2 浮遊物質（浮遊懸濁物質）</p> <p>5404 当該年度に実施した新たなインキュベーター施設、第 2 データセンター及びオープンイノベーション施設の整備においては、沖縄県赤土等流出防止条例に基づき、濁水処理プラントの設置をはじめとする各種対策を講じ、 施工期間中を通じて適切な赤土流出防止措置を実施しました。これにより、周辺環境への影響を最小限に抑え、法令遵守の下で円滑な工事の進行を図りました。</p> <p>5405 土木および建設における造成工事等において、事前に環境コンサルタントに現地調査を依頼し、希少動植物の有無の確認や必要に応じた移植・移設などを行うことで、生態系の保護・維持に努めました。</p> <p>5406 発電能力 80kw 規模の太陽光発電システムをエンジニアリングサポートビルにて運用開始し、当該年度は約 95t-CO2 の排出量を削減しました。また、500kW の</p>		恩納村基準値	OIST 排水基準値	測定結果	BOD※1	10ppm	2ppm	2ppm	SS※2	10ppm	2ppm	2ppm	PH	5～7	5～7	5～7	
	恩納村基準値	OIST 排水基準値	測定結果																
BOD※1	10ppm	2ppm	2ppm																
SS※2	10ppm	2ppm	2ppm																
PH	5～7	5～7	5～7																

令和 6 (2024) 年度事業計画		指標	令和 6 (2024) 年度業績	自己 評価
	画し、実行します。		設置に向け、沖縄電力と緊密に協力し、ガーデンズ駐車場への 200kW の太陽光発電システムの設置について検証を開始しました。	

令和6年度 業務実績報告 添付資料リスト

No.	File No.	資料名
1	1. 1-1	外部の奨学金等を獲得した学生数
2	1. 1-2	令和6年度 学術交流協定一覧
3	1. 1-3	学生に関する情報
4	1. 2-1	令和6年度 OIST 研究施設の外部利用者
5	1. 2-2	令和6年度 OIST論文・発表数
6	1. 3-1	令和6年度 研究に関する受賞実績
7	1. 3-2	令和6年度 アウトリーチ活動実績
8	1. 4-1	令和6年度 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム
9	2. 4-1	令和6年度 職位毎・国籍別職員数
10	2. 4-2	令和6年度 職員の給与水準
11	2. 4-3	令和6年度 研修の受講職員数
12	3. 1-1	外部資金・寄附金獲得状況
13	4. 1-1	特許出願状況
14	4. 1-2	令和6年度 POCプロジェクト
15	4. 1-3	令和6年度 スタートアップ
16	4. 1-4	令和6年度 産業関連コラボレーション及びイノベーション関連セミナー・イベント

List of Attachment Documents to the FY2024 Performance Report

No.	File No.	Document Name
1	1. 1-1	Number of Students Receiving External Scholarships, etc.
2	1. 1-2	FY2024 List of Agreements with Other Universities
3	1. 1-3	Students Information
4	1. 2-1	FY2024 The Number of Use of our Research Facilities by External Organizations
5	1. 2-2	FY2024 OIST Publications and Presentations
6	1. 3-1	FY2024 Number of Research Honors/Awards
7	1. 3-2	FY2024 Outreach by Faculty and Researchers
8	1. 4-1	FY2024 List of OIST Funded Workshops/Mini-Symposia
9	2. 4-1	FY2024 Number of Employees
10	2. 4-2	FY2024 Salary Level of Employees
11	2. 4-3	FY2024 Number of Employees Taking Training Programs
12	3. 1-1	FY2024 External Grants and Donations Table
13	4. 1-1	Patent Status
14	4. 1-2	FY2024 POC Projects
15	4. 1-3	FY2024 Startups
16	4. 1-4	FY2024 Industry-related Collaboration and Innovation Seminars and Events

Attachment 1. 1-1 Number of External Scholorship Received

添付資料1. 1-1 外部の奨学金等を獲得した学生数

1. Number of external scholarship received in FY24/令和6年（2024）年度外部資金受給者数

External Fund	外部資金の名称	# of students receiving the fund/ 受給者数
FY24 JSPS Fellows (DC)	令和6年度採用分日本学術振興会特別研究員（DC）	8
Osk. Huttunen Foundation Scholarship	Osk. Huttunen Foundation Scholarship	1
Taiwan Ministry of Education Tuition Scholarship	Taiwan Ministry of Education Tuition Scholarship	1

2. Number of grant applications supported and success ratio in FY24/令和6（2024）年度外部資金申請者数

External Fund	外部資金の名称	# of application/申請者数	# of Acceptance/獲得数	Success Ratio/獲得率
FY25 JSPS fellows (DC)	令和7年度採用分日本学術振興会特別研究員（DC）	70	8	11%
JSPS Ikushi Prize	令和6年度日本学術振興会育志賞	6	0	0%
2024 Google PhD Fellowship (East Asia)	2024 Google PhD フォローシップ (東アジア地区)	3	0	0%
2024 Birnstiel Award	2024 Birnstiel Award	1	0	0%
Heiwa Nakjima Foundation scholaraship	令和7年度 平和中島財団奨学金	1	1	100%
FY25 JEES・T.Banaji Indian Student Scholarship	令和7年度 JEES・T.バナージインド留学生奨学金	1	Waiting for results	#VALUE!

Attachment 1. 2-1 FY2024 List of Student Exchange Agreements with Other Universities

添付資料1. 2-1 令和6年度 学生交流協定一覧

University / Institution	大学・機関	Country	国	Type of Agreement	協定のタイプ	New / Continue	新規/継続
University of the Ryukyus	琉球大学	Japan	日本	Agreement of Cooperation	連携協力に関する協定書	Continue	継続
Okinawa National College of Technology	沖縄工業高等専門学校	Japan	日本	Agreement of Cooperation	連携協力に関する協定書	Continue	継続
Graduate School of Medicine, Osaka University	大阪大学大学院医学系研究科	Japan	日本	Special Research Student	特別研究学生	Continue	継続
Institute of Medical Science, The University of Tokyo	東京大学医科学研究所	Japan	日本	Academic Exchange Agreement	学術交流協定	Continue	継続
Okinawa Churashima Foundation	沖縄美ら島財団	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
School of Science, The University of Tokyo	東京大学理学部	Japan	日本	Memorandum of Understanding on Student Exchange	学生交流に関する覚書	Continue	継続
The University of Tokyo	東京大学	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
Academia Sinica	中央研究院	Taiwan	台湾	Memorandum of Understanding on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する覚書	Continue	継続
RIKEN	理化学研究所	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
The Hebrew University of Jerusalem (HUJI)	ザ・ヒープロー・ユニバーシティ・オブ・エルサレム	Israel	イスラエル	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導に関する合意書	Continue	継続
National Chiao Tung University	国立交通大学	Taiwan	台湾	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
Okinawa City Board of Education	沖縄市教育委員会	Japan	日本	Agreement on Mutual Collaboration and Cooperation on Academic Research and Human Resource Development	学術研究及び人材育成に係る相互連携・協力協定書	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
University of Texas Health Science Center at San Antonio	テキサス大学サンアントニオ校健康科学センター	USA	米国	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	Continue	継続
Keio University	学校法人慶應義塾（慶應義塾大学）	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
University of Tokyo	東京大学	Japan	日本	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	Continue	継続
Naha Coast Guard Office	那覇海上保安部	Japan	日本	Comprehensive Collaboration Agreement	包括業務協力に関する協定書	Continue	継続
Nara Institute of Science and Technology (NAIST)	奈良先端科学技術大学院大学	Japan	日本	Agreement on Special Research Students Exchange	特別研究学生交流に関する協定書	Continue	継続
Universidad Politécnica de Madrid (UPM)	ポリテクニカ・デ・マドリード大学	Spain	スペイン	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	Continue	継続
University of Queensland	クイーンズランド大学	Australia	オーストラリア	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
University of Lausanne	ローザンヌ大学	Switzerland	スイス	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Johannes Gutenberg University Mainz	ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ	Germany	ドイツ	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
University of Bristol	ブリストル大学	UK	英国	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Institute of Theoretical Physics and Astronomy, Vilnius University	ヴィリニウス大学理論物理学・天文学研究所	Lithuania	リトアニア	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
The Helmholtz Institute Mainz	ハルムホルツ研究所マインツ	Germany	ドイツ	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
University of Cyprus	キプロス大学	Cyprus	キプロス	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規

Attachment 1. 1-3 Students Information

添付資料1. 1-3 学生に関する情報

	Metrics	指標	Number / 数値
1	Number of applications for the PhD program (AY2024)	国内外からの博士課程志願者数（令和 6 学年度）	1304
	Japanese	国内	49
	International	海外	1255
	Male	男性	872
	Female	女性	432
2	Number of admitted PhD students (Class 2024)	国内外からの博士課程入学者数（令和 6 学年度入学生）	50
	Japanese	国内	12
	International	海外	38
	Male	男性	22
	Female	女性	28
3	Number of graduates (Total)	博士課程修了者数（合計）	184
	AY2016	平成 2 8 学年度	7
	AY2017	平成 2 9 学年度	13
	AY2018	平成 3 0 学年度	15
	AY2019	令和元学年度	25
	AY2020	令和 2 学年度	17
	AY2021	令和 3 学年度	23
	AY2022	令和 4 学年度	30
	AY2023	令和 5 学年度	34
	AY2024*	令和 6 学年度*	20
4	PhD student retention rate (%)*	博士課程学生の定着率*	
	Class 2012	平成 2 4 学年度入学生	85
	Class 2013	平成 2 5 学年度入学生	85
	Class 2014	平成 2 6 学年度入学生	85
	Class 2015	平成 2 7 学年度入学生	88
	Class 2016	平成 2 8 学年度入学生	89
	Class 2017	平成 2 9 学年度入学生	81
	Class 2018	平成 3 0 学年度入学生	88
	Class 2019	令和元学年度入学生	85
	Class 2020	令和 2 学年度入学生	87
	Class 2021	令和 3 学年度入学生	91
	Class 2022	令和 4 学年度入学生	94
	Class 2023	令和 5 学年度入学生	96
	Class 2024	令和 6 学年度入学生	100
5	Average number of students per faculty member*	教員1人あたりの平均学生数*	3
6	Average year for graduation*	卒業までに要した平均年数*	5.87
7	Number of applications for the RI program (GS fund and Unit fund)	リサーチインターンシップ・プログラム応募者数 (研究科オフィス及びユニットの予算負担)	
	AY2019	令和元学年度	2,894
	AY2020	令和 2 学年度	3,723
	AY2021	令和 3 学年度	3,118
	AY2022	令和 4 学年度	2,947
	AY2023	令和 5 学年度	6,617
	AY2024*	令和 6 学年度*	7,247
8	Number of Research Interns (GS fund and Unit fund)	リサーチインターンの人数 (研究科オフィス及びユニットの予算負担)	
	AY2019	令和元学年度	52
	AY2020	令和 2 学年度	57
	AY2021	令和 3 学年度	117
	AY2022	令和 4 学年度	193
	AY2023	令和 5 学年度	184
	AY2024*	令和 6 学年度*	100
9	Number of student exchange agreements with other universities* (List of FY2024 separately attached)	学生交流協定締結数* (令和 6 年度の締結分は「学生交流協定一覧」に別途記載 )	29

\*As of 2025/3/31

\*令和 7 年 3 月 3 1 日現在



添付資料 1.2-1 令和 6 年度 OIST 研究施設の外部利用者

組織	機器	セッション数	請求金額 (税込:円)
大学 A	電子ビーム加熱真空装置	2	225,000
大学 B	電子ビーム加熱真空装置	2	130,000
会社 A	ICP-MS	1	92,720

Attachment 1.2-1 FY2024 The Number of Use of Our Research Facilities by External Organizations

Organization	Equipment	Number of Session	Billed Amount (tax incl.: JPY)
University A	E-beam evaporator	2	225,000
University B	E-beam evaporator	2	130,000
Company A	ICP-MS	1	92,720

添付資料1.2-2 令和6年度 OIST論文・発表数

Attachment 1.2-2 FY2024 OIST Publications and Presentations

OIST 論文数・講演数		(ユニット別)		令和6年度		
OIST Scientific Productivity		(by unit)		FY2024		
	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articiles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術 論文の数 (国際会議論文含 む)	セミナー, 学会でのプレゼ ンの数 (ポスタープレゼ ン含む)	博士論文、オンライン データベース等の数	ユニット別合計
	Total	2	614	1447	28	2091
1	Aaraj	0	0	0	0	0
2	Abdulla	0	2	26	0	28
3	Armitage	0	8	15	0	23
4	Bandi	0	6	16	0	22
5	Bourguignon	0	15	12	0	27
6	Busch	0	12	28	3	43
7	Chabchoub	0	2	2	0	4
8	Chakraborty	0	1	9	0	10
9	Christine Luscombe	0	17	27	0	44
10	Cid	0	3	3	0	6
11	Dani	0	4	31	0	35
12	De Schutter	0	3	12	0	15
13	Dieckmann	0	8	1	0	9
14	Doya	0	12	48	0	60
15	Economo	0	20	16	3	39
16	Esposito	0	0	0	0	0
17	Ekert	0	1	12	0	13
18	Elkouss	0	9	28	0	37
19	Feng	0	0	3	0	3
20	Fried	0	6	22	0	28
21	Froese	0	5	9	1	15
22	Fukai	0	7	9	2	18
23	Fukunaga	0	1	6	0	7
24	Gioia	0	1	2	0	3
25	Goda	0	6	17	0	23
26	Goryanin	0	1	0	0	1
27	Hikami	0	2	7	0	9
28	Höhn	0	14	68	0	82
29	Husnik	0	4	36	0	40
30	Ishikawa	0	3	0	3	6
31	Kabe	0	10	27	0	37
32	Kazu	0	1	6	0	7
33	Khusnutdinova	0	2	6	1	9

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術 論文の数 (国際会議論文含 む)	セミナー, 学会でのプレゼ ンの数 (ポスタープレゼ ン含む)	博士論文、オンライン データベース等の数	ユニット別合計
34	Kitano	0	3	17	0	20
35	Kiyomitsu	1	0	17	0	18
36	Kondrashov	0	6	8	0	14
37	Kono	0	3	21	1	25
38	Konstantinov	0	2	15	3	20
39	Kuhn	0	5	6	0	11
40	Kusumi	0	2	4	0	6
41	Laudet	0	19	10	1	30
42	Laurino	0	11	15	1	27
43	Liu	0	5	42	0	47
44	Luscombe	0	3	9	0	12
45	Masai	0	3	16	1	20
46	Meitinger	0	3	10	0	13
47	Miller	0	5	11	0	16
48	Mitarai	0	8	6	0	14
49	Miyahara	0	0	0	0	0
50	Munro	0	15	0	0	15
51	Myers	0	0	0	0	0
52	Nakayama	0	0	4	0	4
53	Narita	0	11	31	0	42
54	Neiman	0	11	29	1	41
55	Nemoto	0	11	27	0	38
56	Nic Chormaic	0	8	67	0	75
57	Okada	0	5	5	0	10
58	Pääbo	0	3	3	0	6
59	Pao	0	4	16	0	20
60	Pigolotti	0	3	9	0	12
61	Qi	0	0	2	0	2
62	Ravasi	0	21	14	0	35
63	Reiter	0	3	16	1	20
64	Rokhsar	0	1	6	0	7
65	Rosti	0	16	52	1	69
66	Sallan	0	20	19	0	39
67	Satoh	0	17	12	0	29
68	Saze	0	8	18	0	26
69	Shannon	0	12	50	1	63
70	Shen	0	20	51	0	71
71	Shintake	0	4	10	0	14
72	Shu Zhang	0	0	0	0	0

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術 論文の数 (国際会議論文含 む)	セミナー, 学会でのプレゼ ンの数 (ポスタープレゼ ン含む)	博士論文、オンライン データベース等の数	ユニット別合計
73	Sitsel	0	3	5	0	8
74	Speyer	0	6	12	1	19
75	Stephens	0	4	11	0	15
76	Szöllősi	0	4	10	0	14
77	Takahashi Hiroki	0	4	14	0	18
78	Tanaka	0	4	3	1	8
79	Tani	0	7	16	1	24
80	Terenzio	0	3	12	0	15
81	Toriumi	0	10	31	0	41
82	Touber	0	0	4	0	4
83	Tripp	0	8	32	0	40
84	Twamley	0	10	16	0	26
85	Uusisaari	0	5	20	1	26
86	Watanabe	0	6	12	0	18
87	Wickens	1	5	4	0	10
88	Wolf	0	12	6	0	18
89	Yamada	0	15	14	0	29
90	Yamamoto	0	3	12	0	15
91	Yazaki-Sugiyama	0	3	4	0	7
92	Yokobayashi	0	4	8	0	12
93	Yoshida	0	8	1	0	9
94	Zhou	0	7	18	0	25
95	Science and Technology Group	0	23	19	0	42
96	Buribushi	0	3	11	0	14

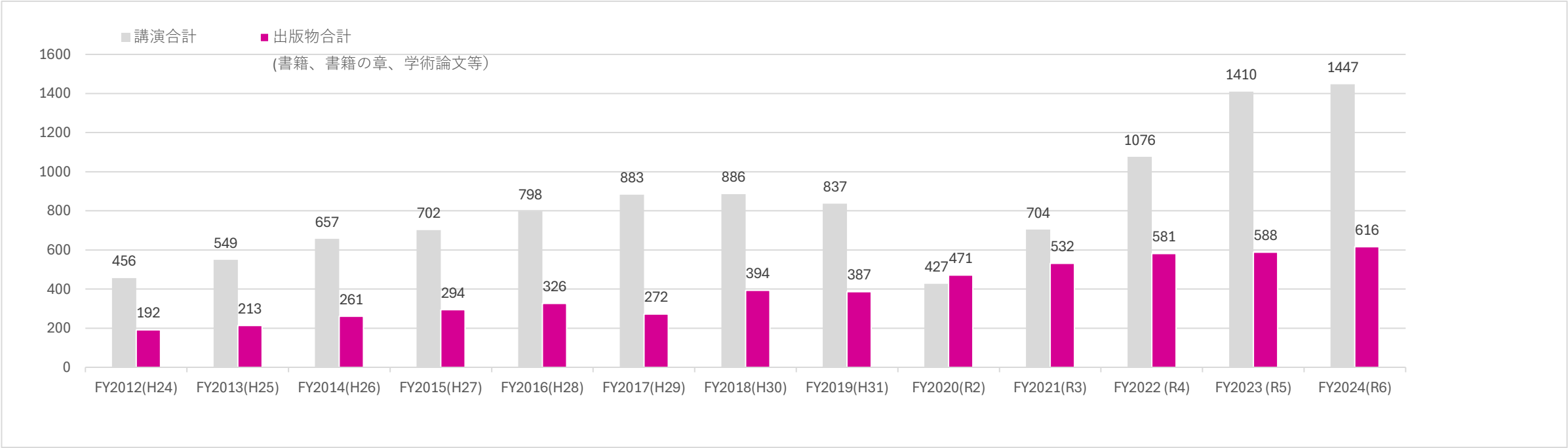
OIST論文数・講演数

(平成24-令和6年度)

OIST Scientific Productivity

(FY2012-2024)

	書籍の 執筆・編集	書籍の章及び 学術論文	学会での講演 (ポスタープレゼンを含む)	セミナー	博士論文, オンラインデータ ベース等	講演合計	出版物合計 (書籍、書籍の章、学術論文 等)
	Books and edited books	Book Chapters and Journal Articles	Presentations at conferences including poster presentations	Seminars	Dissertations, online databases, etc	Presentations and seminars	Publications (including books and book chapters)
FY2012(H24)	0	192	309	147	0	456	192
FY2013(H25)	2	211	430	119	0	549	213
FY2014(H26)	0	261	491	166	0	657	261
FY2015(H27)	2	292	535	167	1	702	294
FY2016(H28)	2	324	616	182	4	798	326
FY2017(H29)	2	270	692	191	7	883	272
FY2018(H30)	1	393	703	183	3	886	394
FY2019(H31)	7	380	641	196	16	837	387
FY2020(R2)	1	470	302	125	33	427	471
FY2021(R3)	3	529	487	217	33	704	532
FY2022 (R4)	2	579	783	293	62	1076	581
FY2023 (R5)	4	584	1065	345	56	1410	588
FY2024(R6)	2	614	953	494	28	1447	616



添付資料1.3-1 令和6年度研究に関する受賞実績  
受賞実績(教員)

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
1	ダニユニット(フェムト秒分光法ユニット)	ケシャヴ ダニ	2025年度Opticaフェロー	ケシャヴ・ダニ教授は2025年度のOpticaフェローに選出されました。Opticaは、光学およびフォトニクス分野における世界有数の学会であり、今年は27カ国から121名が学会フェローに選出されました。	<a href="https://www.optica.org/get_involved/awards_and_honors/fellow_members/elected_fellows/2025_fellows/">https://www.optica.org/get_involved/awards_and_honors/fellow_members/elected_fellows/2025_fellows/</a>	2025年1月16日
2	エコノモユニット(生物多様性・複雑性研究ユニット)	エヴァン エコノモ	フロンティアズ・プラネット賞 日本代表チャンピオン	エヴァン・エコノモ教授は、既知および未発見のアリの生物多様性の世界的な分布に関する研究により、フロンティアズ・プラネット賞の日本代表チャンピオンに選出されました。	<a href="https://www.frontiersplanetprize.org/news/blog-post-title-four-93k9t-87bsr-ae4yh-m3ktl-cpyt3-93cnl-e2s6n-xd3kd-rhwkr-ztcnp-gdcdd-ynhz5-5by44">https://www.frontiersplanetprize.org/news/blog-post-title-four-93k9t-87bsr-ae4yh-m3ktl-cpyt3-93cnl-e2s6n-xd3kd-rhwkr-ztcnp-gdcdd-ynhz5-5by44</a>	2024年4月22日
3	福永ユニット(知覚と行動の神経科学ユニット)	福永 泉美	応用物理学会論文賞 優秀論文賞	福永准教授は、脳表面での光遺伝学的刺激のための「接着可能な柔軟性を持つGaNベースのマイクロLEDアレイフィルム」に関する研究で、第46回(2024年度)の応用物理学会論文賞 優秀論文賞を受賞しました。	<a href="https://www.jsap.or.jp/outstanding-paper-award">https://www.jsap.or.jp/outstanding-paper-award</a>	2024年
4	クスヌディノワユニット(錯体化学・触媒ユニット)	ジュリア クスヌディノワ	Organometallics 優秀著者賞	ジュリア クスヌディノワ准教授は2024年のOrganometallics 優秀著者賞を受賞しました。この賞は、有機金属化学分野で重要な論文を執筆した研究者を称えるものです。	<a href="https://axial.acs.org/organometallic-chemistry/meet-julia-khusnutdinova-the-2024-organometallics-distinguished-author-award-winner">https://axial.acs.org/organometallic-chemistry/meet-julia-khusnutdinova-the-2024-organometallics-distinguished-author-award-winner</a>	2024年
5	清光ユニット(細胞分裂動態ユニット)	清光 智美	ニコン最優秀JOICO賞	清光准教授は、「メダカ初期胚の協調のかつ神秘的な細胞分裂ダイナミクス」の研究によりNikon社による顕微鏡画像コンテストでニコン最優秀JOICO賞を受賞しました。		2025年4月1日
6	クリスティーヌ・ラスカムユニット(パイ共役ポリマーユニット)	クリスティーヌ ラスカム	ジャン＝マリー・レーン賞	クリスティン・ラスカム教授は、ジャン＝マリー・レーン賞(Jean-Marie Lehn Award)を受賞しました。この賞は、材料科学および工学の分野、特に高分子化学における革新的な研究で多大な貢献を果たしたことを評価したものです。	<a href="https://www.degruyter.com/document/doi/10.1515/ci-2024-0418/html?lang=en&amp;srsItd=AfmBOor5QoEYTTYzE9AeGtxKq6cjKYsL4dhoPJxGm6ioi2bf20LfLsQ">https://www.degruyter.com/document/doi/10.1515/ci-2024-0418/html?lang=en&amp;srsItd=AfmBOor5QoEYTTYzE9AeGtxKq6cjKYsL4dhoPJxGm6ioi2bf20LfLsQ</a>	2024年
7	クリスティーヌ・ラスカムユニット(パイ共役ポリマーユニット)	クリスティーヌ ラスカム	優秀査読者	クリスティン・ラスカム教授は、ジャーナル「Energy & Environmental Science」の優秀査読者(Outstanding Reviewer)として表彰されました。この賞は、エネルギーおよび環境科学分野での研究の質と信頼性を支える査読プロセスにおいて、重要な貢献を果たしたことを評価したものです。		2024年
8	マンロユニット(量子工学ユニット)	マンロ ウィリアム ジョン	SPIEシニアメンバーシップ	マンロ ウィリアム ジョン教授は、SPIEシニアメンバーシップ(SPIE Senior Membership)に認定されました。これは、光学およびフォトニクス分野での専門的な経験や貢献が認められた個人に与えられる称号です。	<a href="https://spie.org/membership/member-recognition/spie-senior-members">https://spie.org/membership/member-recognition/spie-senior-members</a>	2024年7月26日
9	マイヤーズユニット(生態・進化ゲノミクス アルゴリズムユニット)	ジーン マイヤーズ	ザクセン州功労勲章	ジーン マイヤーズ 教授は、ザクセン自由州功労勲章(Order of Merit of the Free State of Saxony)を受賞しました。この勲章は、ドイツのザクセン州がその州や住民に対して顕著な貢献をした個人に授与する最高の荣誉です。	<a href="https://www.mpi-cbg.de/news-outreach/news-media/article/order-of-merit-of-the-free-state-of-saxony-awarded-to-eugene-myers#:~:text=The%20Saxon%20Order%20of%20Merit%20is%20the%20highest%20state%20honor,awarded%20on%20October%2027%2C%201997.">https://www.mpi-cbg.de/news-outreach/news-media/article/order-of-merit-of-the-free-state-of-saxony-awarded-to-eugene-myers#:~:text=The%20Saxon%20Order%20of%20Merit%20is%20the%20highest%20state%20honor,awarded%20on%20October%2027%2C%201997.</a>	2024年10月1日
10	ニコーマックユニット(量子技術のための光・物質相互作用ユニット)	シーレ ニコーマック	SPIE シニアメンバーシップ	シーレ ニコーマック 教授は、専門的な経験、光学コミュニティやSPIEへの積極的な関わりが評価され、SPIE上級会員に選出されました。	<a href="https://spie.org/membership/member-recognition/spie-senior-members">https://spie.org/membership/member-recognition/spie-senior-members</a>	2024年
11	ペーボユニット(ヒト進化ゲノミクスユニット)	スバンテ ペーボ	名誉博士号	スバンテ ペーボ 教授は、リエージュ大学より名誉博士号を授与されました。	<a href="https://www.uliege.be/cms/c_20238949/en/svante-paabo-docteurs-honoris-causa">https://www.uliege.be/cms/c_20238949/en/svante-paabo-docteurs-honoris-causa</a>	2024年12月17日
12	ペーボユニット(ヒト進化ゲノミクスユニット)	スバンテ ペーボ	名誉博士号	スバンテ ペーボ 教授は、オビエド大学より名誉博士号を授与されました。	<a href="https://www.uniovi.es/actualidad/noticias/-/asset_publisher/RuOcAJNPm1m/content/la-universidad-de-oviedo-inviste-como-doctor-honoris-causa-al-bi%25C3%25B3logo-molecular-sueco-svante-p%25C3%25A4%25C3%25A4bo">https://www.uniovi.es/actualidad/noticias/-/asset_publisher/RuOcAJNPm1m/content/la-universidad-de-oviedo-inviste-como-doctor-honoris-causa-al-bi%25C3%25B3logo-molecular-sueco-svante-p%25C3%25A4%25C3%25A4bo</a>	2024年4月19日
13	ロスティユニット(複雑流体・流動ユニット)	マルコ エドアルド ロスティ	Outstanding Reviewers 2023	マルコ エドアルド ロスティ 准教授は、2023年に「Outstanding Reviewers」賞を受賞しました。この賞は、学術誌における査読プロセスで高品質なレビューを提供し、研究の質を向上させた個人を称えるものです。彼の貢献は、特に流体力学分野の学術誌で評価されました。		2024年12月31日
14	シェンユニット(マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット)	エイミー シェン	Annual FLOW Lecturer	エイミーシェン教授は、「Annual FLOW Lecturer」として選ばれました。この称号は、流体力学や関連分野で卓越した研究を行い、講演を通じてその知識を共有する研究者に与えられるものです。		2025年1月1日
15	ソローシユニット(モデルベース進化ゲノミクスユニット)	ゲルゲイ ヤーノシュ ソローシ	ハンガリー科学アカデミー物理学賞	ゲルゲイヤーノシュ ソローシ 准教授は、ハンガリー科学アカデミーの物理学賞を受賞しました。この賞は、物理学分野での卓越した研究成果を称えるもので、彼の進化生物学や物理学的モデリングにおける貢献が評価されました。	<a href="https://mta.hu/kozgyules2024/a-fizika-fejlodesi-iranyai-video-az-mta-197-kozgyulesehez-kapcsolodo-tudomanyos-ulesrol-113743">https://mta.hu/kozgyules2024/a-fizika-fejlodesi-iranyai-video-az-mta-197-kozgyulesehez-kapcsolodo-tudomanyos-ulesrol-113743</a>	2024年
16	ソローシユニット(モデルベース進化ゲノミクスユニット)	ゲルゲイ ヤーノシュ ソローシ	ピエール＝ジル・ド・ジェンヌ賞	ゲルゲイヤーノシュ ソローシ 准教授は、ピエール＝ジル・ド・ジェンヌ賞を受賞しました。この賞は、物理学や材料科学の分野で革新的な研究を行った研究者に授与されるものです。	<a href="https://dubrovnik.epfl.ch">https://dubrovnik.epfl.ch</a>	2024年



No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
17	山田ユニット(機械学習とデータ科学ユニット)	山田 誠	IEICE TC-IBISML研究会賞	山田 准教授は、IEICE TC-IBISML研究会賞を受賞しました。この賞は、情報論的学習理論と機械学習 (IBISML) 研究会で発表された優れた研究論文に対して授与されるものです。		2024年11月1日
18	杉山(矢崎)ユニット(臨界期の神経メカニズム研究ユニット)	杉山(矢崎) 陽子	塚原仲晃記念賞	矢崎(杉山) 陽子氏は、塚原仲晃記念賞を受賞しました。この賞は、生命科学分野で独創的な研究を行った50歳以下の研究者に贈られるもので、彼女の発声学習の神経メカニズムに関する研究が評価されました。	<a href="https://www.bs-f.jp/tsukahara_title.html">https://www.bs-f.jp/tsukahara_title.html</a>	2024

受賞実績(研究員・学生)

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
1	ディークマンユニット(複雑性科学と進化ユニット)	影山 舜	ポスター賞	技術員の影山舜さんは、ウルム大学にてポスター賞を受賞しました。		2024年9月1日
2	銅谷ユニット(神経計算ユニット)	原 修平	COSYNE 学会渡航費	博士課程学生 of 原修平さんは、2024年にCOSYNE 学会渡航費 を授与されました。	<a href="https://www.cosyne.org/travel-grants">https://www.cosyne.org/travel-grants</a>	2025年3月27日
3	銅谷ユニット(神経計算ユニット)	山内 直寛	若手育成道場 優秀発表賞	博士課程学生 of 山内直寛さんは、NEURO2024にて若手育成道場 優秀発表賞を受賞しました。	<a href="https://neuro2024.jnss.org/img/ExcellenceAward-Career%20Scientists.pdf">https://neuro2024.jnss.org/img/ExcellenceAward-Career%20Scientists.pdf</a>	2024年7月24日
4	エコノモユニット(生物多様性・複雑性研究ユニット)	久高 愛実	女性研究者ポスター発表賞	研究補助員の久高愛実さんは、琉球諸島における樹皮に営巣するアリの系統的研究により、第 27 回国際昆虫学会議 (ICE2024-International Congress of Entomology2024, Kyoto, Japan) で女性研究者ポスター発表賞を受賞しました。	<a href="https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf">https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf</a>	2024年8月30日
5	エコノモユニット(生物多様性・複雑性研究ユニット)	カーツク ユリアン	メアリー・ライス最優秀講演賞(無脊椎動物学部門)	博士課程学生 of ユリアン・カーツクさんは、アリの大顎の巨大進化における捕食と多機能性に関する研究により、The Society for Integrative and Comparative Biology (SICB 2025, Atlanta, USA) の年次大会で最優秀講演賞であるメアリー・ライス賞を受賞しました。	<a href="https://sicb.org/sicb-news/congratulations-sicb-2025-bsp-winners/">https://sicb.org/sicb-news/congratulations-sicb-2025-bsp-winners/</a>	2025年1月3日
6	エコノモユニット(生物多様性・複雑性研究ユニット)	ガウタム シュブハム	若手研究者ポスター発表賞	博士課程学生 of シュブハム・ガウタムさんは、膜翅目昆虫の嗅覚受容体レバートリーの進化に関する研究で、第 27 回国際昆虫学会議 (ICE2024-International Congress of Entomology2024, Kyoto, Japan) で若手研究者ポスター発表賞を受賞しました。	<a href="https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf">https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf</a>	2024年8月30日
7	エコノモユニット(生物多様性・複雑性研究ユニット)	久高 愛実	若手研究者ポスター発表賞	研究補助員の久高愛実さんは、琉球諸島における樹皮に営巣するアリの系統的研究により、第 27 回国際昆虫学会議 (ICE2024-International Congress of Entomology2024, Kyoto, Japan) で若手研究者ポスター発表賞を受賞しました。	<a href="https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf">https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf</a>	2024年8月30日
8	エコノモユニット(生物多様性・複雑性研究ユニット)	水野 理央	若手研究者ポスター発表賞	ポストドクトラルスカラー水野理央さんは、非軍隊アリと軍隊アリの進化の比較研究により、第 27 回国際昆虫学会議 (ICE2024-International Congress of Entomology2024, Kyoto, Japan) で若手研究者ポスター発表賞を受賞しました。	<a href="https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf">https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf</a>	2024年8月30日
9	エコノモユニット(生物多様性・複雑性研究ユニット)	カーツク ユリアン	若手研究者口頭発表賞	博士課程学生 of ユリアン・カーツクさんは、アリの大顎の巨大進化における捕食と多機能性に関する研究により、第 27 回国際昆虫学会議 (ICE2024-International Congress of Entomology2024, Kyoto, Japan) で若手研究者口頭発表賞を受賞しました。	<a href="https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf">https://ice2024.org/wp/wp-content/uploads/2024/08/Presentation-Award.pdf</a>	2024年8月26日
10	エルコウスユニット (ネットワーク型量子デバイスユニット)	ゾン シン	NTT BRL奨学金	博士課程学生 of ゾン シンさんは、2024年に日本電信電話株式会社(Nippon Telegraph and Telephone Corporation )より、NTT BRL奨学金を授与されました。	<a href="https://group.ntt/en/">https://group.ntt/en/</a>	2024年12月1日
11	エルコウスユニット (ネットワーク型量子デバイスユニット)	ゾン シン	ポスター賞	博士課程学生 of ゾン シンさんは、国際シンポジウムQuantum Innovation 2024 にてポスター賞を受賞しました。	<a href="https://quantum-innovation.riken.jp/">https://quantum-innovation.riken.jp/</a>	2024年10月24日
12	エルコウスユニット (ネットワーク型量子デバイスユニット)	マヌエル ゴウラオ	Vencer o Adamastor 賞	ポストドクトラルスカラーのマヌエル ゴウラオさんはVencer o Adamastor 賞を受賞しました。この賞は、情報通信技術分野の若手科学者による革新的な研究を認識するためのものです。	<a href="https://tecnico.ulisboa.pt/en/events/vencer-o-adamastor-award-ceremony-2/">https://tecnico.ulisboa.pt/en/events/vencer-o-adamastor-award-ceremony-2/</a>	2024年7月23日
13	福永ユニット(知覚と行動の神経科学ユニット)	ロイシュンバッハ ヨセフィース	二酸化炭素排出除去に関する大会にてファイナリストに選出	博士課程学生 of ロイシュンバッハ ヨセフィースさんは、ニューヨークで開催された二酸化炭素排出除去に関する大会ヘチームで応募、ファイナリストに選出されました。	<a href="https://openaircollective.com/2024crc/">https://openaircollective.com/2024crc/</a>	2024年5月21日
14	ホーエンユニット(量子ビットと時空ユニット)	ドゥ ヴェスト ジュリアン	IOP 優秀査読賞 2024	博士課程学生 of ルー ウェン シンさんは、IOP優秀査読賞2024を受賞しました。	<a href="https://accreditations.ioppublishing.org/46920e82-a7e6-4b10-ac02-8d02dc25cf87#acc.5DTRiYyl">https://accreditations.ioppublishing.org/46920e82-a7e6-4b10-ac02-8d02dc25cf87#acc.5DTRiYyl</a>	2025年3月1日
15	フスニックユニット (進化・細胞・共生の生物学ユニット)	ブア ヨン ヘン	ポスター優秀賞	博士課程学生 of ブア ヨン ヘンさんは、欧州分子生物学機構の超構造膨張顕微鏡法ワークショップにてポスター優秀賞を受賞しました。	<a href="https://www.embl.org/about/info/course-and-conference-office/events/eic24-02/">https://www.embl.org/about/info/course-and-conference-office/events/eic24-02/</a>	2024年
16	フスニックユニット (進化・細胞・共生の生物学ユニット)	島 堯杜	ポスター優秀賞	リサーチインターンの島堯杜さんは、アジア微生物生態シンポジウムにてポスター優秀賞を受賞しました。	<a href="https://sites.google.com/view/asme2024-taipei/home">https://sites.google.com/view/asme2024-taipei/home</a>	2024年
17	フスニックユニット (進化・細胞・共生の生物学ユニット)	ブア ヨン ヘン	ポスター優秀賞	博士課程学生ブア ヨン ヘンさんは、CGUE単細胞真核生物会議にてポスター優秀賞を受賞しました。	<a href="https://www.mbl.edu/research/research-centers/josephine-bay-paul-center/2024-cgue-conference-unicellular-eukaryotes">https://www.mbl.edu/research/research-centers/josephine-bay-paul-center/2024-cgue-conference-unicellular-eukaryotes</a>	2024年
18	フスニックユニット (進化・細胞・共生の生物学ユニット)	島 堯杜	口頭発表優秀賞	リサーチインターンの島堯杜さんは、第37回一般社団法人日本機械学会流体工学部門会議にて口頭発表優秀賞を受賞しました。	<a href="https://2024.jsme-conference.net/">https://2024.jsme-conference.net/</a>	2024年

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
19	フスニックユニット (進化・細胞・共生の生物学ユニット)	エメリア ネンコ ペラ	口頭発表優秀賞	博士課程学生のエメリアネンコ ペラさんは第15回国際カイアシ類学会にて口頭発表優秀賞を受賞しました。	https://www.google.com/url?sa=t&source=web&rc t=j&opi=89978449&url=https://www.facebook.co m/p/15th-International-Conference-on-Copepoda-100069929739686/&ved=2ahUKewj14Nj30tGL AxUyfVUHHa_BA9cQFnoECBYQAQ&usg=AOv Vaw0wMY8jFD1xQckg_M5Uix1d	2024年
20	河野ユニット (膜生物学ユニット)	グラシッチ ヤン	A3フォーサイトミーティング最優秀ポスター賞	博士課程学生のグラシッチ ヤンさんは、延世大学校および大邱慶北科学技術院(韓国)にてA3フォーサイトミーティング最優秀ポスター賞を受賞しました。		2025年3月9日
21	河野ユニット (膜生物学ユニット)	グラシッチ ヤン	RAM Blitz Talk 優勝者	博士課程学生のグラシッチ ヤンさんは、OISTリサーチコミュニティーにてRAM Blitz Talk 優勝者として表彰されました。	https://www.oist.jp/events/ram2024-blitz-talks	2024年10月4日
22	コンスタンチノフユニット (量子ダイナミクスユニット)	イップ カ エイ	Quantum Innovation 2024 Poster Presentation Awards for Young Researchers	博士課程学生のイップ カ エイさんは、国際シンポジウムQuantum Innovation 2024 にて若手研究者ポスター発表賞を受賞しました。		2024年
23	ラウリーノユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	クリフトン ベンジャミン	Excellent Presentation Award	スタッフサイエンティストのクリフトン ベンジャミンさんは日本微生物生態学会にて優秀発表者賞を受賞しました。		2024年
24	ラウリーノユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	神初 弾	特別研究員奨励金	博士課程学生の神初弾さんは、日本学術振興会より 特別研究員奨励金を授与されました。		2024年
25	ラウリーノユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	マタイ パウル	Benjamin Walther Stipendium 奨学金	リサーチフェローのマタイ パウルさんは、ドイツ研究振興協会よりBenjamin Walther Stipendium奨学金を授与されました。		2024年
26	ラウリーノユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	グウチ エイミー スタントン	ポスター賞銅賞	博士課程学生のグウチ エイミー スタントンさんは、環境バイオテクノロジー分野において J.C.ベンター研究所よりポスター賞(銅賞)を受賞しました。		2024年
27	ラウリーノユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	落合 佳樹	優秀ポスター発表賞	博士課程学生の落合佳樹さんは、第64回生物物理若手の会 夏の学校にて優秀ポスター発表賞を受賞しました。		2024年
28	ラウリーノユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	落合 佳樹	BPS2025 トラベルアワード	博士課程学生の落合佳樹さんは、生物物理学会よりBPS2025トラベルアワードを受賞しました。		2024年
29	ミラーユニット (物理生物学ユニット)	ジフチャコヴァ ルツィア	CephNeuro 2024トラベルアワード	ポストドクトラルスカラーのジフチャコヴァ ルツィアさんは、CephNeuro 2024トラベルアワードを受賞しました。		2024年4月18日
30	ニコーマックユニット (量子技術のための光・物質相互作用ユニット)	ジャラルディーン モハンメド ズィア	ベストポスター賞	博士課程学生のジャラルディーン モハンメド ズィアさんはWOMA 2024学会でベストポスター賞を受賞しました。		2024年11月29日
31	ペーボユニット (ヒト進化ゲノミクスユニット)	リキン ユ	若手研究者トミー賞	ポストドクトラルスカラーのリキン ユさんは、30th EAJS-Taipeiにて優れた若手研究者に贈られるトミー賞を受賞しました。		2024年10月1日
32	ペーボユニット (ヒト進化ゲノミクスユニット)	ジュ シアンチュン	若手研究者トミー賞	ポストドクトラルスカラーのジュ シアンチュンさんは、30th EAJS-Taipeiにて優れた若手研究者に贈られるトミー賞を受賞しました。		2024年10月1日
33	ラバシユニット (海洋気候変動ユニット)	ハドソン カルム ジェームズ	欧州海洋生物資源センターイタリア (EMBRC-IT) Funded Access Call Award	博士課程学生のハドソン カルム ジェームズさんは、プロジェクト「将来の海洋状況の自然類似物を使用した海水酸性化がウニに与える影響理解」に対して欧州海洋生物資源センターイタリア (EMBRC-IT) より助成金を授与されました。		2024年4月1日
34	ラバシユニット (海洋気候変動ユニット)	ディエキセンス ニコラス	Revolutionizing Next-Generation Sequencing学会参加のための旅費補助	学際的ポストドクトラルフェローのディエキセンス ニコラスさんは、Revolutionizing Next-Generation Sequencing学会参加のための旅費補助金を授与されました。	https://www.vibconferences.be/events/revolutionizing-next-generation-sequencing-6th-edition	2025年3月19日
35	ロスティユニット (複雑流体・流動ユニット)	アモル ロドリゲス クリスティアン	国際HPCサマースクール参加の奨学金	博士課程学生のアモル ロドリゲス クリスティアンさんは、理化学研究所より国際HPCサマースクール参加の為の奨学金を授与されました。	https://www.ihpcss.org/index.html	2024年7月1日
36	ロスティユニット (複雑流体・流動ユニット)	フォッジ ロタ ジュリオ	the European Drag Reduction and Flow Control Meeting参加の奨学金	博士課程学生のフォッジ ロタ ジュリオさんは、ERCOTACよりthe European Drag Reduction and Flow Control Meeting参加の為の奨学金を授与されました。	https://www.oist.jp/research/research-units/cffu/presentations	2024年9月1日
37	ロスティユニット (複雑流体・流動ユニット)	小関 森恵	the European Drag Reduction and Flow Control Meeting参加の奨学金	博士課程学生の小関 森恵さんは、ERCOTACよりthe European Drag Reduction and Flow Control Meeting参加の為の奨学金を授与されました。	https://www.oist.jp/research/research-units/cffu/presentations	2025年9月1日
38	ロスティユニット (複雑流体・流動ユニット)	フォッジ ロタ ジュリオ	若手優秀発表賞	博士課程学生のフォッジ ロタ ジュリオさんは、一般社団法人日本機械学会流体工学部門より若手優秀発表賞を受賞しました。	https://www2.nagare.or.jp/nenkai2024/	2024年12月1日
39	サラーンユニット (大進化ユニット)	畑 晴陵	Editor's Choice ( MDPI )	スタッフサイエンティストの畑晴陵さんは、MDPI (Multidisciplinary Digital Publishing Institute) の学術誌において、編集者が特に注目すべきと判断した論文を選定するEditor's Choiceに選出されました。	https://doi.org/10.3390/taxonomy3030021	2025年1月16日



No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
40	サラーンユニット (大進化ユニット)	畑 晴陵	日本魚類学会奨励賞	スタッフサイエンティストの畑晴陵さんは、2024年度の日本魚類学会奨励賞を受賞しました。この賞は、魚類学分野で顕著な業績を挙げた研究者を称えるものです。	<a href="https://www.fish-isj.jp/about/award.html">https://www.fish-isj.jp/about/award.html</a>	2024年9月7日
41	シェンユニット(マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット)	シュテッフエン・レックテンヴァルト	最優秀ポスター賞	スタッフサイエンティストのシュテッフエン・レックテンヴァルトさんは、レオロジー学会の第95回年次大会で最優秀ポスター賞を受賞しました。		2024年10月13日
42	谷ユニット (認知脳ロボティクス研究ユニット)	カルロス オオヤマ エンヒッケ	第16回HOPEミーティング参加資格	ポストドクトラルスカラーのカルロス オオヤマ エンヒッケさんは、第16回日本学術振興会HOPEミーティングの参加者に選出されました。	<a href="https://www.jsps.go.jp/j-hope/hope16/gaiyou16.html">https://www.jsps.go.jp/j-hope/hope16/gaiyou16.html</a>	2024年12月4日
43	杉山(矢崎)ユニット(臨界期の神経メカニズム研究ユニット)	コモロスカ ムラー ヨアンナ	ベストプレゼンテーションアワード	博士研究員のコモロスカ ムラー ヨアンナさんは、安芸市で開催された第1回エリア会議において、最優秀発表賞を受賞しました。		2024年12月24日

Attachment 1. 3-2 FY2024 Outreach by Faculty and Researchers  
添付資料1.3-2 アウトリーチ活動実績

延べ数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション. 所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
1	1	2024/4/2	沖縄尚学高等学校	Okinawa Shogaku High School	Koseki Morie	Complex fluids and flows Unit複雑流体・流動ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	40
2	2	2024/4/20	科学技術週間・アースデイ科学イベント キッズレクチャー「OIST発宇宙への旅」	Earth Day Kids Lecture "Journey to Space from OIST"	Yuko Kakazu	Education Ambassador for the OIST Foundation OIST財団教育大使	Science event/科学イベント	OIST Auditorium	一般 / General Visitors	500
3	3	2024/4/23	嘉諾撒聖心書院	Sacred Heart Canossian College	Yip Ka Wing	Quantum Dynamics Unit量子ダイナミクスユニット	Career education/キャリア教育	OIST	その他 / Other	24
4	4	2024/4/30	沖縄県立宜野湾高校	Okinawa Prefectural Ginowan High School	Ochiai Yoshiki	Protein Engineering and Evolution Unitタンパク質工学・進化ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	45
5	5	2024/5/2	那覇市立読原中学校	Kyohara Junior High School	Yoshioka Rengo	Organic Optoelectronics Unit有機光エレクトロニクスユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	228
6	6	2024/5/3	恩納村博物館GWイベント「クマノミの世界をみてみよう」	Onna Village Museum GW Event "Let's take a look at the world of the clownfish"	Hayashi Kina	Marine Eco-Evo-Devo Unit海洋生態進化発生生物学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村博物館	一般 / General Visitors	17
7	7	2024/5/24	The American School in Japan	The American School in Japan	Turkki Tara Helmi	Neuronal Rhythms in Movement Unit神経活動リズムと運動遂行ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	20
8	8	2024/6/11	ハワイ州高校生（国際性に富む人材育成事業グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）	Highschool students from Hawaii (project organized by OPG)	Garcia Geoffrey Acoba	Mechanics and Materials Unit力学と材料科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	海外高校 / Overseas High School	20
9	9	2024/6/12	京都府立福知山高等学校	Kyoto Prefectural Fukuchiyama High School	Oshiro Mitsuyuki	Coordination Chemistry and Catalysis Unit錯体化学・触媒ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	78
10	10	2024/6/20	埼玉県西武台高等学校	Saitama Prefectural Seibudai High School	Noma Tomoya	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit核酸化学・工学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	17
11	11	2024/6/25	ハワイ沖縄連合会	Hawaii United Okinawa Association visit	Shiroma Hirotsugu	Integrated Open Systems Unit統合オープンシステムユニット	Research outline/研究紹介	OIST	一般 / General Visitors	20
12	12	2024/6/26	うんな中職体験プログラム(6/26-6/27開催)	Unna junior high school Work Experience Program	Suwabe Mayuko	Environmental Science and Informatics Section環境科学・インフォマティクスセクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	3
13		2024/6/26			Toshihiro Kinjo	Environmental Science and Informatics Section環境科学・インフォマティクスセクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
14		2024/6/26			Mari Takenouchi	Translation and Interpretation Team翻訳・通訳チーム	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
15		2024/6/26			Hisashi Gakiya	Media Relations Sectionメディア連携セクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
16		2024/6/26			Miho Sekioka	Facilities Operation and Use Section施設運用セクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
17		2024/6/26			Tomohiko Ishigami	Facilities Operation and Use Section施設運用セクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
18		2024/6/26			(Unit Members)	Occupational Health and Safety Section安全衛生セクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
19	13	2024/7/2	沖縄県立中部農林高等学校（出前授業）	Okinawa Prefectural Chubu Agriculture and Forestry High(Outreach Classes) School	Taira Serina	CDC Child Development CenterCDC チャイルドディベロップメントセンター	Research outline/研究紹介	中部農林高校	県内高校 / Okinawa High School	600
20	14	2024/7/3	那覇工業高等学校（出前授業）	Naha Technical High School(Outreach Classes)	Yuu Shimabukuro	EF Polymer EFポリマー株式会社	Research outline/研究紹介	那覇工業高校	県内高校 / Okinawa High School	16
21	15	2024/7/13	海の日イベント キッズレクチャー「まるでエイリアン？！頭足類のひみつを探れ！」	Ocean Day Kids Lecture"Exploring Secrets of Cephalopods"	Mano Tomoyuki	Computational Neuroethology Unit計算行動神経科学ユニット	Science event/科学イベント	OIST Auditorium	一般 / General Visitors	450
22	16	2024/7/17	沖縄県立北山高等学校	Okinawa Prefectural Hokuzan High School	Yip Ka Wing	Quantum Dynamics Unit量子ダイナミクスユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	39
23	17	2024/7/22	恩納村×OISTこどもかがく教室2024(7/22-7/26開催)	Onna×OIST Children's School of Science2024	Kuhn Bernd	Optical Neuroimaging Unit光学ニューロイメージングユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	105
24		2024/7/22			Aleksandra Gavrilova	Optical Neuroimaging Unit光学ニューロイメージングユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
25		2024/7/22			Ken Maeda	Marine Eco-Evo-Devo Unit海洋生態進化発生生物学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
26		2024/7/22			Marleen Klann	Marine Eco-Evo-Devo Unit海洋生態進化発生生物学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
27		2024/7/22			Ryosuke Kimbara	Molecular Genetics Unit分子遺伝学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
28		2024/7/22			Kazuo Mori	Optical Neuroimaging Unit光学ニューロイメージングユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
29		2024/7/22			Shinya Komoto	Scientific Imaging Sectionイメージングセクション	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
30		2024/7/22			Lucia Zifcakova	Physics and Biology Unit物理生物学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
31		2024/7/22			Zdenek Lajbner	Physics and Biology Unit物理生物学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
32		2024/7/22			Mehmet Arif Zoral	Physics and Biology Unit物理生物学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
33		2024/7/22			Rikako Ozaki	Macroevolution Unit大進化ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
34		2024/7/22			Snantha Phan	pi-Conjugated Polymers Unitπ共役ポリマーユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
35		2024/7/22			Nicholas Connolly	Quantum Information Science and Technology Unit量子情報科学・技術ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
36		2024/7/22			Yayoi Hongo	Evolutionary Neurobiology Unit進化神経生物学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
37		2024/7/22			Chaimae El Bouazizi	Quantum Information Science and Technology Unit量子情報科学・技術ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
38		2024/7/22			Jake Lewis	Environmental Science and Informatics Section環境科学・インフォマティクスセクション	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
39	18	2024/7/22	日本財団主催 しまうみ探検隊 in うるま市	SHIMAUMI Exploration in Uruma City -by The Nippon Foundation	Noda Takeshi	Marine Genomics Unitマリンゲノミックスユニット	Science event/科学イベント	うるま市	県内小学校 / Okinwa Elementary school	20
40		2024/7/22			Haruhi Narisoko	Marine Genomics Unitマリンゲノミックスユニット	Science event/科学イベント	うるま市	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
41	19	2024/7/25	恩納村×OISTこどもかがく教室2024オープンクラス	Onna×OIST Children's School of Science2024 Open Class	Ozaki Rikako	Macroevolution Unit大進化ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinwa Elementary school	21
42	20	2024/7/29	東京大学医学部学生(ラボツアー)	Students from the University of Tokyo Faculty of Medicine(Lab Tour)	Fukai Tomoki	Neural Coding and Brain Computing Unit神経情報・脳計算ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	一般 / General Visitors	4
43		2024/7/29			Viviane Saito	Memory Research Unit記憶研究ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	一般 / General Visitors	
44	21	2024/7/30	アメラジアンスクール・イン・オキナワ（出前授業）	Amerazian School in Okinawa(Outreach Classes)	Jana Björn	Visiting Researcher from TSVP	Research outline/研究紹介	アメラジアンスクールインオキナワ	県内中学校 / Okinawa Junior High School	12
45		2024/7/30			Anders Björn	Visiting Researcher from TSVP	Research outline/研究紹介	アメラジアンスクールインオキナワ	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
46	22	2024/8/1	名護高等学校	Nago High School	Morohashi Yuichi	Neuronal Mechanism for Critical Period Unit臨界期の神経メカニズム研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	81
47	23	2024/8/1	太田 充 日本政策投資銀行代表取締役会長、他	Mr. Mitsuru Ota, Chairman, Development Bank of Japan, Inc	Bandi Mahesh	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	一般 / General Visitors	6
48	24	2024/8/2	沖縄県立知念高等学校	Okinawa Prefectural Chinen High School	Morohashi Yuichi	Neuronal Mechanism for Critical Period Unit臨界期の神経メカニズム研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	80



延べ数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visiter	Collaborator Name	研究ユニット/セクション. 所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
49	25	2024/8/5	八洲学園大学国際高等学校	Yashima Gakuen University International High School	Kudaka Azumi	Biodiversity and Biocomplexity Unit生物多様性・複雑性研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	75
50	26	2024/8/7	こども霞が関見学デー2024（8/7-8/8開催） キッズレクチャー「サメの世界へようこそ！」	Children's Kasumigaseki Visiting Day 2024 Kids Lecture	Ziadi Fabienne	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Science event/科学イベント	東京内閣府庁舎	その他 / Other	160
51	27	2024/8/8	こどもかがく教室特別キャンパスツアー	Special Campus Tour for Children's school of Science	Ozaki Rikako	Macroevolution Unit大進化ユニット	Science event/科学イベント	OIST Auditorium	県内小学校 / Okinwa Elementary school	60
52	28	2024/8/14	ジュニア・サイエンスプログラム2024(8/14-8/16開催)	Junior Science Program2024(8/14-8/16)	Sheng Xiaobing	Mathematical and Theoretical Physics Unit数理論物理学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	15
53		2024/8/14			Kougaku Eguchi	Neuronal Rhythms in Movement Unit神経活動リズムと運動遂行ユニット	Science event/科学イベント	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
54	29	2024/8/20	沖縄こどもの国×OISTサイエンスキャンプ2024	Okinawa Kodomo no Kuni x OIST Science Camp 2024	Uechi Gen-ichiro	Protein Engineering and Evolution Unitタンパク質工学・進化ユニット	Science event/科学イベント	OIST	県内小学校 / Okinwa Elementary school	30
55	30	2024/8/21	令和6年度沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議	FY2024 General Meeting of the Council for Promotion of OIST(Kenmin Kaigi)	Shimabukuro Shizuka	Human Developmental Neurobiology Unit発達神経生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	一般 / General Visitors	90
56	31	2024/8/22	沖縄こどもの国×OISTサイエンスキャンプ2024	Okinawa Kodomo no Kuni x OIST Science Camp 2024	Moriyama Yohsuke	Membranology Unit膜生物学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	県内小学校 / Okinwa Elementary school	30
57	32	2024/8/27	OISTキッズキャンパスツアー2024	OIST Kids Campus Tour 2024	Moriyama Yohsuke	Membranology Unit膜生物学ユニット	Science event/科学イベント	OIST Auditorium	県内小学校 / Okinwa Elementary school	94
58	33	2024/8/29	令和6年度子ども科学技術人材育成事業サイエンステックキャラバンin宮古島（8/29-8/30実施）	Science Tech Fest in Miyakojima（8/29-8/30）	Lewis Jake	Environmental Science and Informatics Section環境科学・インフォマティクスセクション	Science talk/サイエンストーク	宮古島	県内小学校 / Okinwa Elementary school	53
59	34	2024/9/3	能美市・恩納村教育交流パートナー事業（OIST訪問）	Nomi City-Onna Village Educational Exchange Partner Program (OIST visit)	Ziadi Fabienne	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	20
60		2024/9/3			Ka Wing Yip	Quantum Dynamics Unit量子ダイナミクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
61		2024/9/3			Nicholas Connolly	Quantum Information Science and Technology Unit量子情報科学・技術ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
62		2024/9/3			Rhett Register	Communication and Public Relations Division広報ディビジョン	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
63	35	2024/9/20	うるま市立彩橋小中学校（出前授業）	Uruma City Ayahashi Eleментарary and Junior High School	Kudaka Azumi	Biodiversity and Biocomplexity Unit生物多様性・複雑性研究ユニット	Research outline/研究紹介	彩橋小学校	県内小学校 / Okinwa Elementary school	69
64		2024/9/20			Masako Ogasawara	Environmental Science and Informatics Section環境科学・インフォマティクスセクション	Research outline/研究紹介	彩橋小学校	県内小学校 / Okinwa Elementary school	
65	36	2024/9/24	沖縄市立安慶田中学（出前授業）	Ageda Junior High School(Outreach Classes)	Kojima Yutaka	Computational Neuroethology Unit計算行動神経科学ユニット	Research outline/研究紹介	安慶田中学校	県内中学校 / Okinawa Junior High School	200
66	37	2024/9/25	新潟県中越高等学校	Chuetsu High School	Mori Ayaka	Cell Division Dynamics Unit細胞分裂動態ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	58
67	38	2024/9/26	沖縄カトリック高等学校	Okinawa Catholic Junior & Senior High School	Tomonaga Sutashu	Neural Computation Unit神経計算ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	65
68	39	2024/10/1	大阪府立大手前高等学校	OTEMAE Senior High School	Kimbara Ryosuke	Molecular Genetics Unit分子遺伝学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	34
69	40	2024/10/11	広島なぎさ高等学校	Hiroshima Nagisa Senior High School	Takada Kazuma	Embodied Cognitive Science Unit身体性認知科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	31
70	41	2024/10/16	広島修道大学ひろしま協創高等学校	Hiroshima Kyoso Senior High School	Koseki Morie	Complex fluids and flows Unit複雑流体・流動ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	13
71	42	2024/10/25	サイエンストリップ in 石垣島（八重山高等学校）	Science Trip in Ishigaki（Yaeyama High School）	Mano Tomoyuki	Computational Neuroethology Unit計算行動神経科学ユニット	Research outline/研究紹介	八重山高校	県内高校 / Okinawa High School	50
72	43	2024/10/25	サイエンストリップ in 宮古（宮古高校）	Science Trip in Miyako（Miyako High School）	Kurima Kiyoto	Neurobiology Research Unit神経生物学研究ユニット	Research outline/研究紹介	宮古高校	県内高校 / Okinawa High School	193
73	44	2024/10/27	サイエンステックフェスin 石垣	Science Tech in Ishigaki	Mano Tomoyuki	Computational Neuroethology Unit計算行動神経科学ユニット	Science event/科学イベント	石垣島	一般 / General Visitors	100
74	45	2024/10/28	沖縄工業専門学校	National Institute of Technology, Okinawa College	Kuhn Bernd	Optical Neuroimaging Unit光学ニューロイメージングユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	8
75	46	2024/10/28	タイ高等専門学校	KOSENーKMTEL	Froese Tom	Embodied Cognitive Science Unit身体性認知科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	海外高校 / Overseas High School	18
76	47	2024/10/29	沖縄県立前原高等学校	Okinawa Prefectural Machara High School	Yoshioka Yuki	Marine Genomics Unitマリンゲノミクスユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	40
77	48	2024/10/31	静岡サレジオ高等学校	Salesio Gakuin High School	Noma Tomoya	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit核酸化学・工学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	海外高校 / Overseas High School	37
78	49	2024/11/3	はいさい！いちやりば祭	Haisai! Ichariba Festival	Toshihiro Kinjo	Environmental Science and Informatics Section環境科学・インフォマティクスセクション	Science event/科学イベント	かでな未来館	一般 / General Visitors	41
79	50	2024/11/5	沖縄県立与勝高校 出前授業	Yokatsu high school Outreach Classes	Nagahama Naano	Neurobiology Research Unit神経生物学研究ユニット	Research outline/研究紹介	与勝高校	県内高校 / Okinawa High School	75
80	51	2024/11/6	神奈川県立鎌倉高等学校	Kamakura Senior High School	Hongo Yayoi	Evolutionary Neurobiology Unit進化神経生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	41
81	52	2024/11/7	沖縄アミークス職場体験(11/7-11/8開催)	AMICUS Work Experience Program	Connolly Nicholas	Quantum Information Science and Technology Unit量子情報科学・技術ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	3
82		2024/11/7			Andrew Scott	Digital Content, Brand and Design Sectionデジタルコンテンツ・ブランドデザイン・セクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
83		2024/11/7			Ryosuke Kimbara	Molecular Genetics Unit分子遺伝学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
84		2024/11/7			Yumiko Akamine	Neurobiology Research Unit神経生物学研究ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
85		2024/11/7			Mari Takenouchi	Translation and Interpretation Team翻訳・通訳チーム	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
86		2024/11/7			Justin Charles Foster Sutherland	Language Education Sectionランゲージ・エデュケーション・セクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
87	53	2024/11/8	千葉県二松学舎大学附属柏高等学校	Nishogakusha-kashiwa Senior High School	Hongo Yayoi	Evolutionary Neurobiology Unit進化神経生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	13
88	54	2024/11/12	静岡県浜松聖星高等学校	Hamamatsu Seisei Senior High School	Hongo Yayoi	Evolutionary Neurobiology Unit進化神経生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	165
89	55	2024/11/12	名護小学校 出前授業	Nagou Elenentary School Outreach Classes	Kojima Yutaka	Computational Neuroethology Unit計算行動神経科学ユニット	Research outline/研究紹介	名護小学校	県内小学校 / Okinwa Elementary school	22
90	56	2024/11/17	宮古島市立城東中学校	Joto Junior High School	Kurima Kiyoto	Neurobiology Research Unit神経生物学研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	40
91	57	2024/11/20	奥間小学校 出前授業	Okuma Elementary School Outreach Classes	Takahashi Ai	Memory Research Unit記憶研究ユニット	Research outline/研究紹介	奥間小学校	県内小学校 / Okinwa Elementary school	56
92	58	2024/11/21	Okinawa Christian School International	Okinawa Christian School International	Liu Andrew	Biological Design Unit生物デザインユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	22
93	59	2024/11/24	グッジョブ★とみぐく-こどもお仕事体験	Work experience event in Tomigusuku	Harakuni Tetsuya	Developmental Neurobiology Unit神経発生ユニット	Science event/科学イベント	豊見城市民体育館	一般 / General Visitors	70
94		2024/11/24			Jake Lewis	Environmental Science and Informatics Section環境科学・インフォマティクスセクション	Science event/科学イベント	豊見城市民体育館	一般 / General Visitors	
95	60	2024/11/25	徳之島町立亀津中学校 出前授業	Tokunoshima kametu junior high school Outreach Classes	Kawai Erina	Marine Climate Change Unit海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	亀津中学校	県外中学校 / Junior High School	77
96		2024/11/25			Ayşe Haruka Oshima A çikbaş	Marine Climate Change Unit海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	亀津中学校	県外中学校 / Junior High School	



延べ数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visiter	Collaborator Name	研究ユニット/セクション. 所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
97	61	2024/11/28	兵庫県関西国際学園中・高等部	Kansai International Academy Junior & Senior High School	Hagiwara Wahei	Evolutionary and Synthetic Biology Unit進化・合成生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	11
98	62	2024/11/29	北九州大学・九州工業大学視察兼学生交流	the University of Kitakyushu&Kyushu Institute of Technology Tour and Student Exc	Foggi Rota Giulio	Complex fluids and flows Unit複雑流体・流動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	一般 / General Visitors	8
99		2024/11/29			Christian Amor Rodriguez	Complex fluids and flows Unit複雑流体・流動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	一般 / General Visitors	
100		2024/11/29			Nanako Okabe	Macroevolution Unit大進化ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	一般 / General Visitors	
101	63	2024/11/30	第13回SCORE!サイエンス in オキナワ: 起業のための研究	13th Annual SCORE! Science in Okinawa: Research and Entrepreneurship	Youhei Morita	Conference and Workshop Sectionカンファレンス・ワークショップ・セクション	Science event/科学イベント	OIST Auditorium	県内高校 / Okinawa High School	100
102		2024/11/30			Christine Luscombe	pi-Conjugated Polymers Unitパイ共役ポリマーユニット	Science event/科学イベント	OIST Auditorium	県内高校 / Okinawa High School	
103	64	2024/12/2	宇都宮短期大学附属高等学校	Utsunomiya Junior college High school	Gavrilova Aleksandra	Optical Neuroimaging Unit光学ニューロイメージングユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	171
104	65	2024/12/3	茨城県立つくばサイエンス高等学校	Tsukuba Science High School	Chen Jianning	Neural Computation Unit神経計算ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	12
105	66	2024/12/4	港澳信義會明道小学	HKMLC Ming Tao Primary School	Yip Ka Wing	Quantum Dynamics Unit量子ダイナミクスユニット	Career education/キャリア教育	OIST	その他 / Other	46
106	67	2024/12/9	英真学園高等学校	EishinGakuen High School	Yip Ka Wing	Quantum Dynamics Unit量子ダイナミクスユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	29
107	68	2024/12/16	沖縄工業高等学校	Okinawa Technical High School	Takahashi Ai	Memory Research Unit記憶研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	40
108	69	2024/12/16	沖縄工業高等学校	Okinawa Technical High School	Nagahama Naano	Neurobiology Research Unit神経生物学研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	38
109	70	2024/12/18	沖縄尚学高等学校	Okinawa Shogaku High School	Nagahama Naano	Neurobiology Research Unit神経生物学研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	80
110	71	2024/12/19	沖縄県立糸満高校	Okinawa Itoman High School	Hagiwara Wahei	Evolutionary and Synthetic Biology Unit進化・合成生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	90
111	72	2024/12/24	福岡県立筑紫丘高等学校	Chikushigaoka High School	Goyal Pulkit	Cognitive Neurorobotics Research Unit認知脳ロボティクス研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	40
112	73	2025/1/7	沖縄県立名護高等学校	Nago High School	Ohta Morihiro	Experimental Quantum Information Physics Unit量子情報物理実験ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	71
113	74	2025/1/10	Hope International Academy Okinawa	Hope International Academy Okinawa	Amrita Mitra	Quantum Materials Science Unit量子物質科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	25
114	75	2025/1/15	沖縄県立中部商業高校	Okinawa Chubu Commercial High School	Takenouchi Mari	Translation and Interpretation Team翻訳・通訳チーム	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	14
115	76	2025/2/1	OISTサイエンスフェスタ2025	OIST Science Festa 2025	EGgenberger Monika	Molecular Cryo-Electron Microscopy Unit生体分子電子顕微鏡解析ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	1650
116		2025/2/1			Jack Featherstone	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
117		2025/2/1			Vincent Laudet	Marine Eco-Evo-Devo Unit海洋生態進化発生生物学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
118		2025/2/1			Nick Luscome	OIST Sonic Lab	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
119		2025/2/1			Jake Lewis	Environmental Science and Informatics Section環境科学・インフォマティクスセクション	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
120		2025/2/1			(Unit Members)	Scientific Imaging Sectionイメージングセクション	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
121		2025/2/1			(Unit Members)	Environmental Science and Informatics Section環境科学・インフォマティクスセクション	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
122		2025/2/1			(Unit Members)	Cognitive Neurorobotics Research Unit認知脳ロボティクス研究ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
123		2025/2/1			(Unit Members)	Physics and Biology Unit物理生物学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
124		2025/2/1			(Unit Members)	Protein Engineering and Evolution Unitタンパク質工学・進化ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
125		2025/2/1			(Unit Members)	Scientific Computing & Data Analysis Section科学計算・データ解析セクション	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
126		2025/2/1			(Unit Members)	Complex fluids and flows Unit複雑流体・流動ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
127		2025/2/1			(Unit Members)	Occupational Health and Safety Section安全衛生セクション	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
128		2025/2/1			(Unit Members)	Evolutionary and Synthetic Biology Unit進化・合成生物学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
129		2025/2/1			(Unit Members)	Micro/Bio/Nanofluidics Unitマイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
130	77	2025/2/4	沖縄クリスチャンスクールインターナショナル	Okinawa Christian School International	Amrita Mitra	Quantum Materials Science Unit量子物質科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	13
131	78	2025/2/5	沖縄県立那覇商業高等学校	Okinawa Prefectural Naha Commercial High School	Shiroma Hirotosugu	Integrated Open Systems Unit統合オープンシステムユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	35
132	79	2025/2/28	ニューライフアカデミー 出前授業	New Life Academy	Connolly Nicholas	Quantum Information Science and Technology Unit量子情報科学・技術ユニット	Research outline/研究紹介	ニューライフアカデミー	県内小学校 / Okinwa Elementary school	39
133	80	2025/3/3	那覇市立大道小学校 出前授業	Daido Elementary School Outreach Class	Narisoko Haruhi	Marine Genomics Unitマリングノミックスユニット	Research outline/研究紹介	大道小学校	県内小学校 / Okinwa Elementary school	50
134	81	2025/3/5	徳之島町立竜徳小学校 出前授業	Tokunoshima Kametoku elementary school Outreach Class	Oshima Ayse Haruka	Marine Climate Change Unit海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	竜徳小学校	県外小学校 / Elementary School	26
135	82	2025/3/6	石川県蘭学園高等学校	Ohtori Gakuen High School	Sil Souvik	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	92
136	83	2025/3/8	サイエンストークシリーズ「普通ってなに？」発達多様性（ニューロダイバーシティ）を活かして	Science Talk Series What is "NORMAL"? Embracing Neurodiversity	Furukawa Eni	Human Developmental Neurobiology Unit発達神経生物学ユニット	Science talk/サイエンストーク	OIST Auditorium	一般 / General Visitors	400
137	84	2025/3/15	OISTロボット体験会~ピーテクリーン（谷ユニット対応）	OIST Robot Workshop ~Beach Cleanup ( Supported by Tani Unit)	Queisser Jeffrey	Cognitive Neurorobotics Research Unit認知脳ロボティクス研究ユニット	Science event/科学イベント	伊平屋村離島振興総合センター	一般 / General Visitors	50
138		2025/3/15			(Unit Members)	Neural Computation Unit神経計算ユニット	Science event/科学イベント	伊平屋村離島振興総合センター	一般 / General Visitors	
139	85	2025/3/29	AIビーチロボットハッカソン（銅谷ユニット、谷ユニット対応）	AI Beach Robot Hackathon (Doya Unit, Tani Unit)	Queisser Jeffrey	Cognitive Neurorobotics Research Unit認知脳ロボティクス研究ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	4
140		2025/3/29			(Unit Members)	Neural Computation Unit神経計算ユニット	Science event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
141		2025/3/31			Kantenárov Aleksei	Coordination Chemistry and Catalysis Unit錯体化学・触媒ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
142		2025/3/31			Daniil Ilatovskii	Coordination Chemistry and Catalysis Unit錯体化学・触媒ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
143		2025/3/31			Lenard Szantho	Model-Based Evolutionary Genomics Unitモデルベース進化ゲノミクスユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
144		2025/3/31			Oliver Schick	Model-Based Evolutionary Genomics Unitモデルベース進化ゲノミクスユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	

延べ数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visiter	Collaborator Name	研究ユニット/セクション, 所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
145	86	2025/3/31	第13回スコア！インターンシッププログラム(3/31-4/1開催)	Internship program for the 13th SCORE! winners	Chien-chia Liu	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	6
146		2025/3/31			Hirokazu Maruoka	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
147		2025/3/31			Jack Featherstone	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
148					Hisashi Gakiya	Media Relations Sectionメディア連携セクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
149		2025/3/31			Dr.Cheung	EF Polymer EFポリマー株式会社	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
150		2025/3/31			Ko Nakagawa	EF Polymer EFポリマー株式会社	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
151		2025/3/31			Ming Ching Chiang	Memory Research Unit記憶研究ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	



添付資料1. 4-1 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム

\*Keyword: OIST Workshop

#REF!#REF!#REF!#REF!

	開催状況/ 開催形式	開始日	終了日	テーマ	開催場所	中止/延期されたイベントの 予定参加者数	参加者数（リモート参加含む）	内、会場参加者	内、リモート参加者	内、海外参加者（リモート参加含む）
1	会場開催	2024年4月9日	2024年4月12日	日本冷却原子国際会議	OISTシーサイドハウス	非該当	67	67	0	17
2	会場開催	2024年4月16日	2024年4月19日	乱流および混相流研究における現在の取り組み	OISTシーサイドハウス	非該当	48	48	0	24
3	会場開催	2024年5月28日	2024年5月31日	浮揚荷電粒子による量子技術	OISTシーサイドハウス	非該当	65	65	0	33
4	会場開催	2024年6月17日	2024年7月4日	OIST計算神経科学コース 2024	OISTシーサイドハウス	非該当	46	46	0	28
5	会場開催	2024年9月25日	2024年10月3日	物理サマースクール おきなわ: コヒーレント量子ダイナミクス (2024)	OISTメインキャンパス、シーサイドハウス	非該当	48	48	0	39
6	会場開催	2024年11月5日	2024年11月7日	進化から得るシナプス機構と神経ネットワーク制御の原理	OIST カンファレンス・センター	非該当	64	64	0	15
7	会場開催	2025年3月4日	2025年3月6日	OIST 機械学習ワークショップ	OIST カンファレンス・センター	非該当	69	69	0	23
8	ハイブリッド	2025年3月11日	2025年3月14日	今までの、そして今後の脊髄研究	OIST カンファレンス・センター	非該当	86	84	2	50
合計							493	491	2	229

\*Keyword: Partnership WS

	開催状況	開始日	終了日	テーマ	開催場所	中止/延期されたイベントの 予定参加者数	参加者数（リモート参加含む）	内、会場参加者	内、リモート参加者	内、海外参加者（リモート参加含む）
1	ハイブリッド	2024年4月22日	2024年4月26日	OIST-CNRS Joint Symposium on West Pacific Marine Biology	OIST カンファレンス・センター	非該当	150	148	2	79
2	会場開催	2024年7月29日	2024年8月10日	解析と偏微分方程式に関するSLMath-Oxford-OISTサマーワークショップ	OISTシーサイドハウス	非該当	49	49	0	30
3	会場開催	2024年10月6日	2024年10月10日	軸索変性および再生に関するワークショップ	OISTシーサイドハウス	非該当	82	82	0	66
4	会場開催	2024年10月21日	2024年10月25日	量子極限宇宙：物質、情報、重力	OIST カンファレンス・センター	非該当	199	199	0	94
5	会場開催	2024年11月11日	2024年11月15日	量子マテリアルから量子情報へ：トランススケール量子科学と量子マテリアル創成に関するシンポジウム	OISTシーサイドハウス	非該当	69	69	0	26
6	会場開催	2024年12月9日	2024年12月13日	シュレディンガーの猫 - 量子世界の端を見つける探求	OISTメインキャンパス	非該当	73	73	0	49
合計							150	148	2	79

	開催状況/ 開催形式	開始日	終了日	テーマ	開催場所	中止/延期されたイベントの 予定参加者数	参加者数（リモート参加含む）	内、会場参加者	内、リモート参加者	内、海外参加者（リモート参加含む）
1	ハイブリッド	2024年6月5日	2024年6月8日	OIST-JST-AIMR Joint International Symposium: Interaction between various chiral fields and chiral materials	OISTメインキャンパス	非該当	67	67	0	17
2	会場開催	2024年6月17日	2024年6月17日	JST創発自発的な融合の場 第3回分子生命反応創発討論会	OISTメインキャンパス	非該当	48	48	0	24
3	ハイブリッド	2024年6月24日	2024年6月24日	TSVP: Transboundary Workshop on Human Augmentation and Open Lab	OISTメインキャンパス	非該当	65	65	0	33
4	会場開催	2024年7月8日	2024年7月10日	適応学習の神経調節：生物学的ニューラルネットワークと人工ニューラルネットワークの橋渡し	OISTメインキャンパス	非該当	46	46	0	28
5	会場開催	2024年10月1日	2024年10月1日	BBSRC UKAN Researchers on Ageing: Approaches to Ageing Issues	OISTメインキャンパス	非該当	48	48	0	39
6	会場開催	2024年11月22日	2024年11月22日	おきなわマリンサイエンスワークショップ	OISTメインキャンパス	非該当	97	97	0	0
7	会場開催	2024年11月27日	2024年11月27日	Collaborative Innovation for Sustainable Future through Advanced Materials Science	OISTメインキャンパス	非該当	45	45	0	0
8	会場開催	2024年11月27日	2024年11月27日	OIST-NanoLSI Joint Symposium "Exploring Uncharted Nanoscale Frontiers in Life Sciences"	OISTメインキャンパス	非該当	60	60	0	0
9	会場開催	2024年12月5日	2024年12月5日	グリーンモビリティ アイデアソン	OISTメインキャンパス	非該当	64	64	0	15
10	ハイブリッド	2025/01/27, Mon	2025/01/30, Thu	The 13th International Symposium on Dynamic Exciton (ISDyEx)	OISTメインキャンパス、シーサイドハウス	非該当	69	69	0	23
11	会場開催	2025年1月31日	2025年1月31日	OIST-KEIO SHOWCASE TALK シリーズ 7 - 科学と社会の出会い：生命科学における学際的アプローチの最前線	OISTメインキャンパス	非該当	86	84	2	50
合計							695	693	2	229

\*Keyword: Acad/OIST Co-Hosted; Acad/Section Co-hosted; Acad/Section Hosted; Acad/Unit Co-hosted; Acad/Unit Hosted; GradSchool/Section hosted

令和6年度OISTセクション・ユニット主催/共催及びOIST名義上共催学会会議

	開催状況/ 開催形式	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数（リ モート参加含 む）	内、会場参加 者	内、リモート 参加者	内、海外参加 者（リモート 参加含む）
1	会場開催	2024年4月22日	2024年4月26日	Representation Theory of Algebras and related areas	OISTメインキャンパス	35	35	0	6
2	会場開催	2024年4月22日	2024年4月26日	EU-Japan Symposium on Emerging Nanomaterials for Photonics and Catalysis Official title of workshop in English EU-Japan Symposium on Emerging Nanomaterials for Photonics and Catalysis	OISTメインキャンパス	31	31	0	9
3	会場開催	2024年5月29日	2024年5月29日	Fostering Academic-Industry Collaborations in Japan   Kenji Takeda	OISTメインキャンパス	50	50	0	0
4	会場開催	2024年6月20日	2024年6月22日	IBISML, NC, JPSJ-MPS, JPSJ-BIO 合同研究会	OISTメインキャンパス	99	99	0	0
5	ハイブリッド	2024年6月30日	2024年6月30日	WCCI 2024 AIガバナンス公開フォーラム	パシフィコ横浜	449	118	331	60
6	ハイブリッド	2024年9月9日	2024年9月13日	Theory of Quantum Computation, Communication and Cryptography (TQC) Conference	OISTメインキャンパス及びOIST カンファレンス・センター	369	355	14	298
7	会場開催	2024年9月21日	2024年9月24日	トラップされたイオンのための先端量子技術	OISTシーサイドハウス	83	83	0	48
8	会場開催	2024年10月1日	2024年10月1日	BBSRC UKAN Researchers on Ageing: Approaches to Ageing Issues	OISTメインキャンパス	50	50	0	6
9	会場開催	2024年10月16日	2024年10月17日	RMAN-J in Okinawa	OISTメインキャンパス及びOIST カンファレンス・センター	500	500	0	0
10	会場開催	2024年10月31日	2024年11月1日	【OISTxサントリーウェルネス共同シンポジウム】「健康社会の実現に向けた細胞メカニズムの解明」	OISTメインキャンパス	50	50	0	0
11	会場開催	2024年11月19日	2024年11月29日	Speyer Unit WS	OISTシーサイドハウス	0		0	0
12	会場開催	2024年11月22日	2024年11月22日	おきなわマリンサイエンスワークショップ	OISTメインキャンパス	97	97	0	0
13	会場開催	2025年1月20日	2025年1月21日	DOE/MEXT Workshop 2025	OISTカンファレンスセンター	102	102	0	52
合計						1915	1570	345	479

添付資料2. 4-1 令和6年度職位毎・国籍別職員数

		定年制				任期制				非常勤				派遣				総計				総計	
区分	役職名称	女性	男性	うち 外国人	定年制 集計	女性	男性	うち 外国人	任期制 集計	女性	男性	うち 外国人	非常勤 集計	女性	男性	うち 外国人	派遣 集計	女性	男性	うち 外国人	合計		
Admin	副学長					2	3	2	5									2	3	2	5	5	
	准副学長		1		1	3	3	3	6									3	4	3	7	7	
	シニアマネジャー		3		3	4	10	3	14									4	13	3	17	17	
	マネジャー	1			1	12	12	4	24									13	12	4	25	25	
	アシスタントマネジャー		1		1	12	5	2	17									12	6	2	18	18	
	スペシャリスト	1	1		2	33	24	20	57									34	25	20	59	59	
	アドミニストレイティブスタッフ	1			1	157	37	33	194									158	37	33	195	195	
	リサーチユニットアドミニストレーター					57	1	4	58									57	1	4	58	58	
	リサーチサポートリーダー		1		1														1		1	1	1
	リサーチサポートスペシャリスト					7	4	10	11									7	4	10	11	11	
	情報技術エンジニア						7	5	7										7	5	7	7	7
	非常勤										2	1		3				2	1		3	3	3
	派遣職員														66	11	16	77	66	11	16	77	77
	Admin 集計		3	7		10	287	106	86	393	2	1		3	66	11	16	77	358	125	102	483	483
Rsearch Support Division (RSD)	准副学長						1	1	1										1	1	1	1	1
	マネジャー							1	1										1	1	1	1	1
	アシスタントマネジャー					1			1									1			1	1	
	スペシャリスト					1			1									1			1	1	
	アドミニストレイティブスタッフ					3	2	1	5									3	2	1	5	5	
	リサーチサポートリーダー	1			1		6	4	6									1	6	4	7	7	
	リサーチサポートスペシャリスト					11	29	24	40									11	29	24	40	40	
	リサーチサポートテクニシャン					1	2	1	3									1	2	1	3	3	
	情報技術リーダー						1		1										1		1	1	1
	情報技術エンジニア						3	3	3										3	3	3	3	3
	非常勤										2		2					2			2	2	2
	派遣職員													5	4	3	9	5	4	3	9	9	9
	RSD 集計		1		1	17	45	35	62	2			2	5	4	3	9	25	49	38	74	74	74
	RU	教授					9	35	23	44									9	35	23	44	44
准教授						8	28	25	36									8	28	25	36	36	36
シニアスタッフサイエンティスト						5	15	8	20									5	15	8	20	20	20
スタッフサイエンティスト						17	66	58	83									17	66	58	83	83	83
ポストドクトラルスカラー						53	142	181	195									53	142	181	195	195	195
サイエンス・テクノロジーアソシエイト						10	7	12	17									10	7	12	17	17	17
リサーチユニットテクニシャン						60	65	73	125									60	65	73	125	125	125
非常勤										17	7	8	24					17	7	8	24	24	24
リサーチユニットアドミニストレーター						11			11									11			11	11	11
派遣職員														4			4	4			4	4	4
RU 集計						173	358	380	531	17	7	8	24	4			4	194	365	388	559	559	559
総計		4	7		11	477	509	501	986	21	8	8	29	75	15	19	90	577	539	528	1116	1116	



	国籍	Admin	RSD	研究部門		合計
				(Faculty/Researcher)	(左記以外)	
AF	アフガニスタン	1				1
AR	アルゼンチン			1		1
AT	オーストリア	1		2	1	4
AU	オーストラリア	2	2	3		7
BD	バングラデシュ		1	3		4
BE	ベルギー			7	1	8
BG	ブルガリア	1		1	1	3
BJ	ベニン			1		1
BR	ブラジル	1		7		8
BY	ベラルーシ				1	1
CA	カナダ	5	1	4	1	11
CH	スイス	1		1		2
CN	中国	2		29	9	40
CO	コロンビア				1	1
CZ	チェコ		1	4	1	6
DE	ドイツ	5		21	2	28
DK	デンマーク	1		1		2
DZ	アルジェリア			1		1
EE	エストニア			2		2
EG	エジプト			2	1	3
ES	スペイン	1		11		12
FI	フィンランド		1	3		4
FR	フランス		2	17	2	21
GB	イギリス	7	1	17	8	33
GE	ジョージア			1		1
GH	ガーナ			1		1
GR	ギリシャ			1	1	2
HK	香港			1		1
HU	ハンガリー	1		2	1	4
ID	インドネシア	1	2	4		7
IE	アイルランド		1	6		7
IL	イスラエル	2		3	1	6
IN	インド	6	1	45	5	57
IR	イラン			5		5
IT	イタリア		1	12		13
JP	日本	380	36	88	87	591
KR	韓国	1	1	5	2	9
KZ	カザフスタン			1	1	2
LK	スリランカ				1	1
LT	リトアニア			2	1	3
LU	ルクセンブルク			1		1
MA	モロッコ	1		1		2
MG	マダガスカル		1			1
MM	ミャンマー	1				1
MX	メキシコ	3		4	2	9
MY	マレーシア			2	1	3
NL	オランダ	1	1		2	4
NO	ノルウェー			1		1
NP	ネパール				1	1
NZ	ニュージーランド	1	1	4		6
PE	ペルー	1		1		2
PH	フィリピン	4	1	1	2	8
PK	パキスタン			1		1
PL	ポーランド			3	1	4
PT	ポルトガル			3	2	5
RO	ルーマニア			2	2	4
RU	ロシア連邦	2	3	12	4	21
SA	サウジアラビア	1		1		2
SE	スウェーデン	1	2		1	4
SK	スロバキア		1	2		3
SV	エルサルバドル			1		1
TH	タイ			2		2
TN	チュニジア		1		1	2
TR	トルコ	1		2	1	4
TW	台湾	4	2	10	5	21
UA	ウクライナ	1				1
US	アメリカ	24	6	21	13	64
VE	ベネズエラ			1		1
VN	ベトナム	2		3	1	6
YE	イエメン				1	1
ZA	南アフリカ	2	1			3
ZM	ザンビア			1		1
ZZ	海外	14	3			17
総計		483	74	395	169	1121

## 添付資料2. 4-2 令和5年度職員の給与水準

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園(法人番号6360005004186)の役職員の報酬・給与等について

### I 役員報酬等について

#### 1 役員報酬についての基本方針に関する事項

##### ① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任に鑑み、国際水準も考慮した報酬支給水準を設定している。

特に、理事長(学長)については、有為な人材確保に向けた国際競争が厳しい中で、世界最高水準の研究機関における組織管理を行った実績や国際的に高い水準の教授陣を統率しうる研究者、教育者としての人望・実績を有する優れた人材を確保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

##### ② 令和5年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

常勤役員については、特に必要と認める場合に、特別調整手当を支給することができることとしている。

##### ③ 役員報酬基準の内容及び令和5年度における改定内容

###### 法人の長

###### 1. 役員報酬基準の内容

役員の報酬等は、報酬、特別調整手当、通勤手当、住居手当及び退職手当であり、報酬の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、それぞれ、理事会において決定する。

###### 2. 令和5年度の改定内容 改定なし。

###### 理事

###### 1. 役員報酬基準の内容

役員の報酬等は、報酬、特別調整手当、通勤手当、住居手当及び退職手当であり、報酬の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、それぞれ、理事会において決定する。

###### 2. 令和5年度の改定内容 改定なし。

###### 理事(非常勤)

###### 1. 役員報酬基準の内容

非常勤役員の報酬については、その勤務形態を考慮し、職に応じ、理事会において決定する。

###### 2. 令和5年度の改定内容 改定なし。

###### 監事

###### 1. 役員報酬基準の内容

役員の報酬等は、報酬、特別調整手当、通勤手当、住居手当及び退職手当であり、報酬の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、それぞれ、理事会において決定する。

###### 2. 令和5年度の改定内容 改定なし。

###### 監事(非常勤)

###### 1. 役員報酬基準の内容

非常勤役員の報酬については、その勤務形態を考慮し、職に応じ、理事会において決定する。

###### 2. 令和5年度の改定内容 改定なし。

## 2 役員の報酬等の支給状況

役名	令和5年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	支給総額	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
A法人の長	千円 50,020	千円 25,000	千円	千円 25,020 (通勤/特別調整手当)	6月1日		
B法人の長	千円 7,000	千円 5,000	千円	千円 2,000 (特別調整手当)		5月31日	
A理事	千円 23,154	千円 20,000	千円	千円 3,154 (通勤/特別調整手当)			※※
B理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ( )			※
C理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ( )			
D理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ( )			
E理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ( )			
F理事 (非常勤)	千円 980	千円	千円	千円 ( )			
G理事 (非常勤)	千円 900	千円	千円	千円 ( )			
H理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ( )			
I理事 (非常勤)	千円 580	千円	千円	千円 ( )			
J理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ( )			
K理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ( )			
L理事 (非常勤)	千円 980	千円	千円	千円 ( )			
M理事 (非常勤)	千円 980	千円	千円	千円 ( )			
N理事 (非常勤)	千円 980	千円	千円	千円 ( )			※
O理事 (非常勤)	千円 41		千円	千円 ( )		6月30日	

P理事 (非常勤)	千円 980	千円	千円	千円 ( )			
Q理事 (非常勤)	千円 908	千円	千円	千円 ( )	5月23日		
A監事	千円 8,750	千円 8,750	千円	千円 ( )		10月31日	◇
B監事	千円 5,912	千円 5,912	千円	千円 ( )	11月1日		◇
C監事 (非常勤)	千円 1,983	千円 1,983	千円	千円 ( )		10月31日	
D監事 (非常勤)	千円 1,416	千円 1,416	千円	千円 ( )	11月1日		
E監事 (非常勤)	千円 3,400	千円 3,400	千円	千円 ( )			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄

### 3 役員の報酬水準の妥当性について

#### 【法人の検証結果】

法人の長

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性、ノーベル賞受賞者等その識見に照らし妥当である。

監事

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

監事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

#### 【主務大臣の検証結果】

沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、重要な科学論文のランキングにおいて世界第9位・国内トップの評価を得るとともに、ノーベル生理学・医学賞受賞者を生んだほか、スタートアップ支援においても着実に成果を挙げている。

令和5年度においては、他大学や地元企業・経済団体等との連携を強化し、社会課題解決に向けた研究を推進するとともに、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」を始めとした外部資金調達額・割合の大幅拡大による財政基盤の強化を図るなど、国際的に卓越した科学技術に関する教育研究を行うというOISTの目的実現のための取組、基盤整備を図っているものと評価することができる。

このような状況を踏まえると、大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する役員の報酬水準は、国際的水準との均衡等からみても、妥当なものと考えられる。



4 役員の退職手当の支給状況(令和5年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
	千円	年	月			
法人の長	18,833	6	0	令和4年 12月31日	1.0	

注1:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄

注2:元・法人の長(令和4年12月31日退職)については、業績勘案率が決定したため退職手当を支給した。

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	退職手当支給額は、「独立行政法人、特殊法人及び認可法人の役員の退職金について」(平成15年12月19日閣議決定(平成27年3月24日一部改正))に準じた方法により算出されており、また、業績勘案率は外部有識者も参画する委員会において、在職期間中の業績を勘案して決定されており、妥当なものであると考えられる。
理事	該当者なし
監事	該当者なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

特に必要と認める場合に、特別調整手当を支給することができる仕組みを導入済みである。今後もこの仕組みを継続する。

## Ⅱ 職員給与について

### 1 職員給与についての基本方針に関する事項

#### ① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、教員の約6割、学生の約8割が外国人という国際的な大学であることから、職員は、原則としてビジネスレベルの英語力が不可欠であり、こうした能力を前提にした上で、職種毎に、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準の動向等を踏まえた適切な年俸範囲を定め、その範囲内で個々の業績を反映させた給与水準を決定している。

特に、研究部門においては、職員が有する専門的な知見をいかし、世界的に最高水準の研究者に対する研究管理や支援・評価を行うことができる者が求められており、国際競争が厳しい中で、優れた人材を確保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

#### ② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させている。

#### ③ 給与制度の内容及び令和5年度における主な改定内容

##### 1. 給与制度の内容

給与の種類: 年俸、超過勤務手当、その他の手当(通勤、住居手当等)

給与体系: 年俸制(職種(教員、研究者、事務スタッフ等)と職層に基づく給与レンジを設定)

##### 2. 令和5年度における主な改定内容

なし

### 2 職員給与の支給状況

#### ① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	令和5年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
常勤職員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	9	53.3	10,271	10,271	162	0
事務・技術	人	歳	千円	千円	千円	千円
	9	53.3	10,271	10,271	162	0
研究職種	人	歳	千円	千円	千円	千円
	-	-	-	-	-	-

任期付職員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	710	43.3	7,572	7,572	81	0
教員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	75	50.8	18,404	18,404	28	0
事務・技術	人	歳	千円	千円	千円	千円
	375	44.5	6,072	6,072	110	0
研究職種	人	歳	千円	千円	千円	千円
	260	39.6	6,610	6,610	53	0

在外職員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	-	-	-	-	-	-

注1: 常勤職員については、在外職員を除く。

注2: 常勤職員、任期付職員の該当者がいない職種については記載を省略。

注3: 再任用職員及び非常勤職員は該当者がいないため記載を省略。

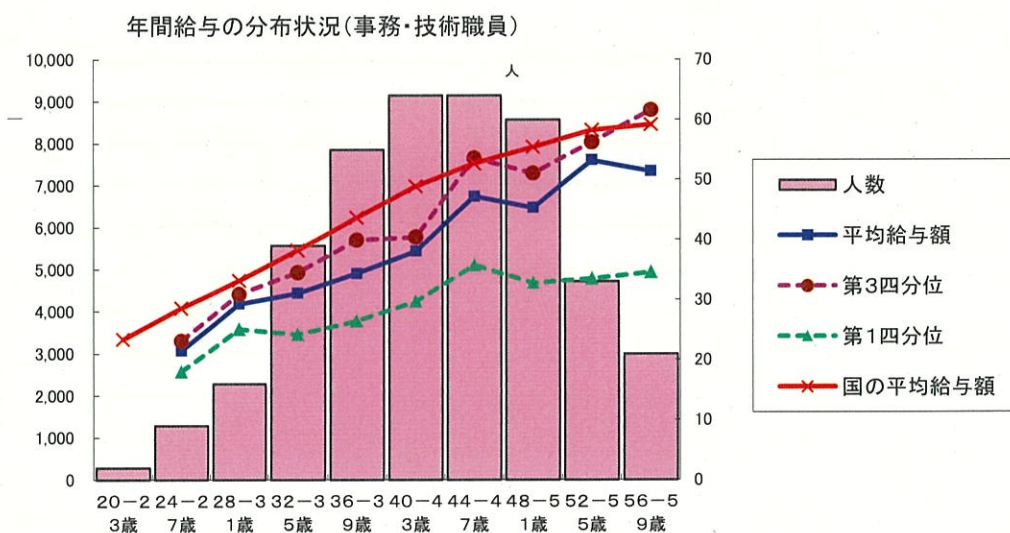
注4: 常勤職員、任期付職員は全て年俸制適用者である。

注5: 在外職員とは海外拠点の年俸制適用者である。

注6: 該当者が2人以下の場合、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、区分以外は省略。全体の数値からも除外。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員)〔在外職員を除く。以下、④まで同じ。〕

千円



注:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2:【20-23】の年齢層において、2名以下であることから第1・第3分位・平均給与額を示す点を表示しない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員)

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額	
			平均	最高～最低
部長相当	25	53.2	15,067	31,810 ～ 8,534
課長相当	37	49.1	8,719	12,258 ～ 5,781
課長補佐相当	57	46.5	6,975	10,918 ～ 4,644
主任相当	130	45.5	5,282	7,754 ～ 3,935
係員	135	40.2	4,023	8,735 ～ 2,484

④ 賞与(該当者なし)

区分		夏季(○月)	冬季(○月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～



### 3 給与水準の妥当性の検証等

#### ○事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢勘案 83.6</li> <li>・年齢・地域勘案 93.6</li> <li>・年齢・学歴勘案 82.2</li> <li>・年齢・地域・学歴勘案 92.6</li> </ul>
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	
給与水準の妥当性の 検証	<p>(法人の検証結果)</p> <p>年齢勘案で、令和4年度83.9、令和5年度83.6と対国家公務員指数は100以下となっている。これまで講じてきた給与水準の引下げに向けた種々の取組により、給与水準の適正化が図られている。</p> <p>(主務大臣の検証結果)</p> <p>沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、教員の約6割、学生の約8割が外国人という国際的な環境の下、世界最高水準の教育研究を行っており、このような研究者の支援を担う事務職員については、高い語学力を前提に、科学技術に関する幅広い知見も併せ有することが求められており、こうした人材を沖縄県内に留まらず、国内及び世界各地から確保するためには、相応の処遇が必要であると考えられる。</p> <p>こうした状況にあっても、給与水準の適正化が図られてきた結果、対国家公務員指数については、国に比べて低く抑えられており、おおむね妥当な水準といえる。</p> <p>今後とも、有為な人材確保に向けた国際競争が厳しい中で、優れた人材の確保が図られるよう留意しつつ、給与水準が適正なものとなるよう、引き続き注視していく。</p>
講ずる措置	<p>今後とも引き続き、</p> <p>①能力に遜色がない場合は、中堅・若年層を計画的に採用</p> <p>②業務評価を徹底し、昇給反映の厳格化を行うことで適切な給与水準を保つ。</p>

### 4 モデル給与

注:年俸制のみのため、記載を省略

### 5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に留意しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。今後もこの仕組みを継続する。



### Ⅲ 総人件費について

区 分	前年度 (令和4年度)	当年度 (令和5年度)
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 7,627,852	千円 7,884,563
退職手当支給額 (B)	千円 41,109	千円 25,227
非常勤役職員等給与 (C)	千円 61,633	千円 65,024
福利厚生費 (D)	千円 861,932	千円 909,682
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 8,592,526	千円 8,884,496

#### 総人件費について参考となる事項

・沖縄科学技術大学院大学(OIST)においては、国際的に卓越した教育研究を行っており、有為な人材確保に向けた国際競争が厳しい中で、優れた人材を確保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

・「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)を踏まえ、役職員の退職手当について、平成25年4月1日から、国家公務員の退職手当の改正に準じて、退職手当の算定額に調整率(平成25年10月から平成26年6月まで92/100、平成26年7月以降は87/100)を乗じた額を支給することにより減額し、平成30年1月以降は、平成29年11月17日閣議決定に基づき、さらに83.7/100へ引き下げた。

・令和5年度における総人件費の増加は、職員数の増加、及び福利厚生費の増加に伴うもの。

### Ⅳ その他

定 年  
教 員:70歳 役職定年無  
研究職種:65歳 役職定年無  
事務・技術:65歳 役職定年無

添付資料2. 4-3 令和5年度研修の受講実績  
令和6年度（FY2024） 研修実績・HR

2025.3.31時点

区分 Training Category	コース名 Course Name	実施方法 Method	実施回数 # of times	参加人数 # of participation
管理職研修 Management Development	目標設定 Objective Setting	対面 In person	4	29
	人事評価と効果的なコミュニケーション Performance Review and Effective Communication	対面 In person	4	49
職員セッション Staff Informative Session	人事評価 Performance Review Conflict Management	対面, Zoom In person/Zoom	2	150
Total			10	228

For-T (Forty-Hour Learning Target) FY2024	対象者数（休職中、年度途中の退職者を除く） # of subjects (excl. employees on leave and resigned during the year)	平均学習時間 Ave. hours of study	学習時間達成率 Archived Rate	目標達成者数 # of employees archived target
	450	10.21	14%	63

LinkedIn Learning	登録者数 # of registered users	ログインユーザー # of logged-in users	ログイン率 Login rate	平均視聴時間(分) Average viewing time (min.)
エンゲージメント Engagement	681	254	37.29%	180

※FY2023より、新入職員オリエンテーションは全てオンライン化  
"All new employee orientations in FY2023 have been conducted online."

添付資料2.4-3 研修の受講職員数

令和6年度 セミナー・会議・コース

FY2024編集済

セミナー・会議・コース	対象者（記入例：アドミ、研究者、業者等）	参加人数	登壇者（発言言語）	開催日
Overview of KAKENHI	研究者・アドミ	82	亀井（英語）	2024/7/19
KAKENHI Clinic1 Day1	研究者	34（研究者: 18名、メンター: 16名）	Prof.清光 智美(英語) Prof.岡野栄之(英語)	2024/8/1
KAKENHI Clinic1 Day2	研究者	40（研究者: 27名、メンター: 13名）	Prof.清光 智美(英語) Prof.岡野栄之(英語)	2024/8/2
KAKENHI Clinic2 Day1	研究者	29（研究者: 20名、メンター: 9名）	ワークショップのみ	2024/8/29
KAKENHI Clinic2 Day2	研究者	24（研究者: 16名、メンター: 8名）	ワークショップのみ	2024/8/30
科研費説明会	アドミ、研究者	9（職員：3名、研究者：6名）	大塚 彩乃（英語）	2024/8/26
科研費説明会	アドミ、研究者	12（職員：8名, 研究者：4名）	大塚 彩乃（日本語）	2024/8/26

科研費支援セッション

内容	対象	参加者	担当	開催日
科研費交付申請	研究者	15	大塚、池原、藤松、亀井、渡名喜	2024/4/4
科研費交付申請	研究者	10	大塚、池原、藤松、亀井、渡名喜	2024/4/5
実績報告/成果報告	研究者	7	池原、藤松、亀井	2024/5/15
実績報告/成果報告	研究者	3	池原、亀井	2024/5/16
科研費応募	研究者	6	亀井、藤松、井上、Yee、池原、小橋川、管間	2024/9/2
科研費応募	研究者	20	亀井、藤松、井上、Yee、池原、小橋川、管間	2024/9/3
科研費支払請求	研究者	15	天願、井上、菅間	2025/2/18

FY2024 Seminar/Meeting/Course

Seminar/Meeting/Course	Participants (e.g. admin staff, researchers, venders etc.	# of participants	Speaker (language)	Date
KAKENHI Explanatory Session	researchers,Admin staff	82	KAMEI (English)	2024/7/19
KAKENHI Clinic1 Day1	研究者	34 (Researcher: 18, Mentor: 16名)	Prof.Tomomi Kiyomitsu (English) Prof.Hideyuki Okano (English)	2024/8/1
KAKENHI Clinic1 Day2	研究者	40 (Researcher: 27, Mentor: 13)	Prof.Tomomi Kiyomitsu (English) Prof.Hideyuki Okano (English)	2024/8/2
KAKENHI Clinic2 Day1	研究者	29 (Researcher: 20, Mentor: 9)	n/a (workshop only)	2024/8/29
KAKENHI Clinic2 Day2	研究者	24 (Researcher: 16, Mentor: 8)	n/a (workshop only)	2024/8/30
KAKENHI Explanatory Session	Admin staff, researchers	9 (Admin: 3, Researcher: 6)	Ayano Ohtsuka (English)	2024/8/26
KAKENHI Explanatory Session	Admin staff, researchers	12 (Admin: 8, Researcher: 4)	Ayano Ohtsuka (Japanese)	2024/8/26

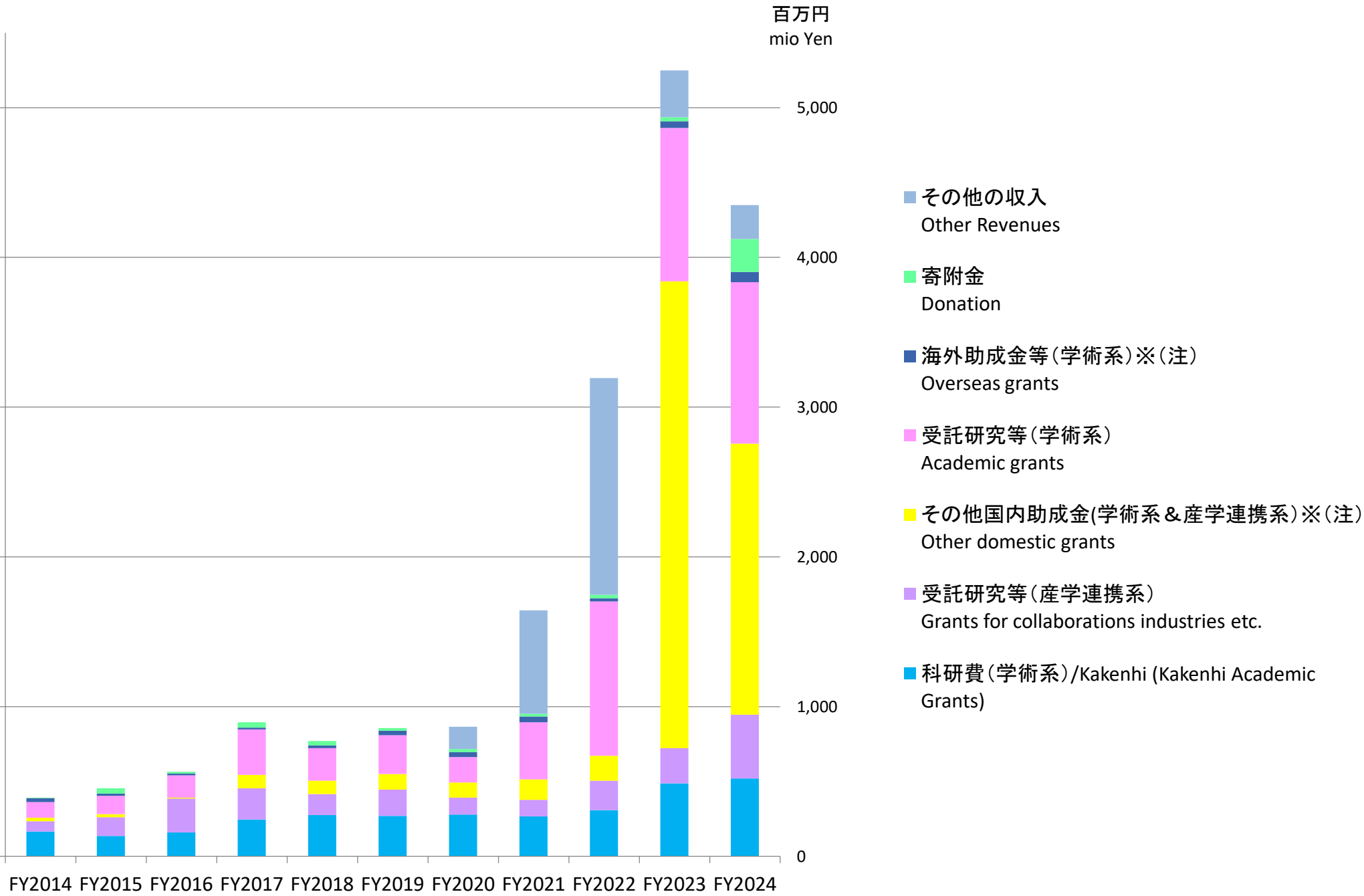
KAKENHI Support Session

Content	Participants	# of participants	Person in Charge	Date
Payment Request	Researchers	15	Ohtsuka,Ikehara,Fujimatsu,Kamei,Tonaki	2024/4/4
Payment Request	Researchers	10	Ohtsuka,Ikehara,Fujimatsu,Kamei,Tonaki	2024/4/5
Annual Report/Final Report	Researchers	7	Ikehara,Fujimatsu,Kamei	2024/5/15
Annual Report/Final Report	Researchers	3	Ikehara,Fujimatsu,Kamei	2024/5/16
FY25 Application	Researchers	6	Kamei, Fujimatsu, Inoue, Yee, Ikehara, Kobashigawa, Sugama	2024/9/2
FY24 Application	Researchers	20	Kamei, Fujimatsu, Inoue, Yee, Ikehara, Kobashigawa, Sugama	2024/9/2
Payment Request	Researchers	15	Tengan, Inoue, Sugama	2025/2/18

Acquisition of External Funding (as of March 31, 2025)/外部資金獲得状況

分類 Category	FY2014		FY2015		FY2016		FY2017		FY2018		FY2019		FY2020		FY2021		FY2022		FY2023		FY2024	
	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#
科研費（学術系）/Kakenhi (Kakenhi Academic Grants)	165,266,341	54	137,160,016	47	158,517,697	56	245,254,159	86	276,201,309	109	270,013,444	122	279,366,196	126	266,250,000	127	308,720,377	136	487,142,951	165	518,790,000	164
受託研究等（産学連携系） Grants for collaborations industries etc.	69,994,690	10	124,337,784	10	227,151,400	18	210,513,791	20	140,701,256	21	173,956,670	17	113,827,496	14	110,444,030	17	197,708,273	23	234,896,880	41	425,686,349	56
その他国内助成金(学術系&産学連携系) ※（注） Other domestic grants	22,635,500	11	20,989,419	6	7,116,234	10	87,587,000	37	87,523,000	48	105,620,345	55	100,231,726	40	137,844,000	54	165,102,058	79	3,118,488,100	67	1,810,582,000	59
受託研究等（学術系） Academic grants	104,967,000	5	120,758,500	7	149,131,000	6	302,781,001	10	217,504,200	10	258,767,900	13	169,562,500	21	379,884,880	27	1,031,706,842	26	1,024,100,792	30	1,078,901,602	34
海外助成金等（学術系）※（注） Overseas grants	27,166,059	3	16,015,264	3	11,916,945	1	13,335,884	2	18,395,330	4	30,798,406	4	33,552,811	6	39,242,711	11	18,926,962	7	43,750,345	10	68,878,956	18
寄附金 Donation	1,075,960	7	36,417,498	13	10,644,779	13	34,747,672	27	28,227,199	24	15,975,729	39	18,407,587	54	18,048,052	102	24,433,551	62	28,217,555	47	220,592,485	190
その他の収入 Other Revenues													149,222,149	8	691,980,599	6	1,448,700,027	16	311,205,760	29	226,691,775	39
	391,105,550		455,678,481		564,478,055		894,219,507		768,552,294		855,132,494		864,170,465		1,643,694,272		3,195,298,090		5,247,802,383		4,350,123,167	

※（注） FY2017以降はフェローシップの金額を含む Fellowship is included from FY2017

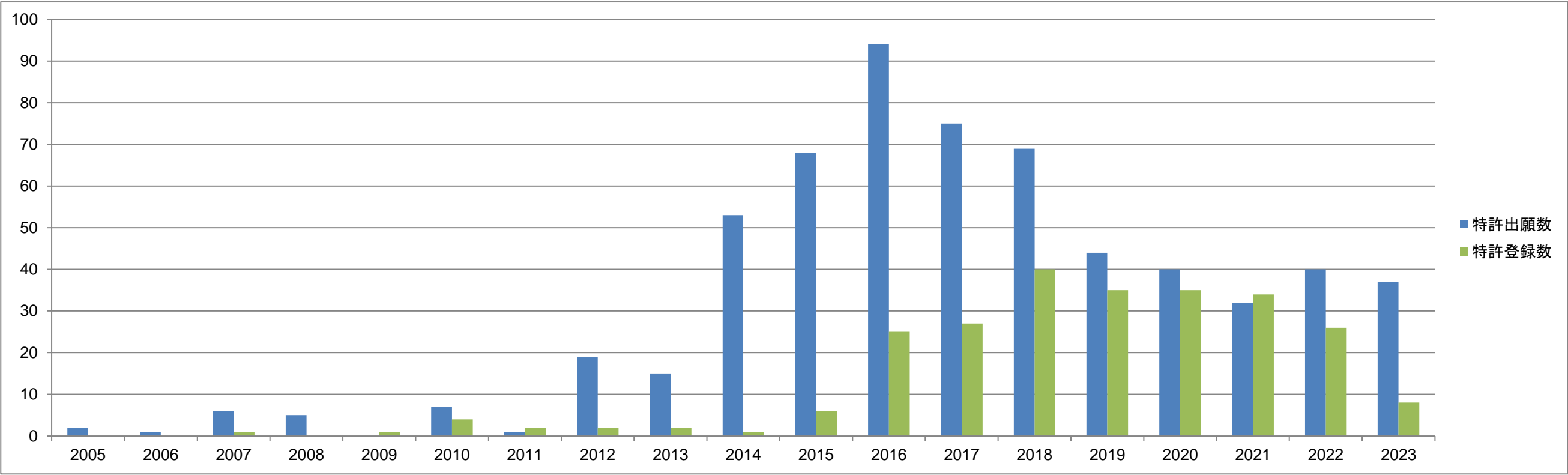


添付資料4. 1-1特許状況

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
特許出願数	0	2	1	6	5	0	7	1	19	15	53	68	94	75	69	44	40	32	40	37	47
特許登録数	0	0	0	1	0	1	4	2	2	2	1	6	25	27	40	35	35	34	26	8	12

\* FY2022(令和4年度) は見込み数

\*\*数値は特許以外の知的財産を含む(商標等)



添付資料4. 1-2 令和6年度 POC プロジェクト

POC プロジェクト

No	プロジェクト名	新規/継続	代表研究者	プロジェクトタイプ (シードフェーズ, フェーズ I/II, TPF)
1	養豚場向け低コスト・低メンテナンスのスケールアップ高度排水処理装置の開発	継続	イゴール　ゴリヤニン	Phase II
2	おきなわ糸づくりプロジェクト	継続	新里　　瞳	TPF
3	オピオイドの鎮痛作用を増強し、耐性発現を抑制するペプチド医薬品	継続	チョウ　　ペン	TPF
4	研究・医療用途の 3次元スキャフォールド、ハイドロゲル、インプラント開発のためのハイブリッド 3次元ナノファブリケーション技術	継続	吉田　　富	Phase II
5	磁氣的に調整可能なレンズ	継続	ジェイソン　トゥワムリー	Phase I
6	ポリフルオロ化合物を効率的に分解する大腸菌株の設計	継続	パオラ　　ラウリーノ	Seed Phase
7	ナノ粒子に搭載した siRNA による、効果的な治療法開発	継続	山本　　雅	Seed Phase
8	食肉類似物の栄養特性と知覚特性を向上させる機能性成分としての微細藻類	継続	エイミー　　シェン	Seed Phase
9	通信とセンシングのためのマイクロ波メーザーと周波数コム	継続	ジェイソン　トゥワムリー	Seed Phase
10	マイクロ波量子技術のためのスピンを用いた超低ノイズ増幅器	新規	久保　　結丸	Phase II
11	アルツハイマー病治療薬としての新規低分子ペプチド PHDP5	新規	銅谷　賢治	Phase I
12	量子コンピューティングネットワーク構築に向けたイオントラップと光共振器の開発	新規	高橋　優樹	Seed Phase
13	ヒトの心臓再生を加速するUD プロテオミクスが導く幹細胞プログラミング	新規	合田　裕紀子	Seed Phase
14	統計物理学を用いたクアッドコプターの性能劣化の低減	新規	マヘッシュ　　バンディ	Seed Phase
15	革新的な環境核酸技術でエビ養殖を改善	新規	ティモシー　　ラバシ	Seed Phase
16	神経芽腫を標的としたペプチド阻害剤の開発	新規	フランツ　　マイティンガー	Seed Phase
17	iH2O2：鉄触媒による過酸化水素生成	新規	竹林　智司	Seed Phase
18	保存中の有機化合物の分解を防ぐ化合物	新規	田中　富士枝	Seed Phase
19	進化的アプローチによるPFAS分解微生物の探索	新規	パオラ　　ラウリーノ	Seed Phase
20	リボスイッチによるAAVベクター生産の効率化	新規	横林　洋平	Seed Phase

添付資料 4. 1-3 令和6年度（2024）のスタートアップ・インキュベーター入居企業

スタートアップ・入居企業

No	企業名	新規/継続	タイプ (OIST技術/アクセラレーター/外部)	場所 (ラボ3/インキュベーター/その
1	BioAlchemy株式会社	継続	OIST技術	インキュベーター
2	Watasumi株式会社	継続	OIST技術	Lab G
3	株式会社ACIリサーチ	継続	OIST技術	インキュベーター
4	メタブル合同会社	継続	OIST技術	第5研究棟
5	アティエーラ株式会社	継続	OIST技術	インキュベーター
6	株式会社SND Regenic Pvt	新規	OIST技術	インキュベーター
7	Kwahuu Ocean株式会社	新規	OIST技術	インキュベーター
8	株式会社REPS JAPAN	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
9	EF Polymer株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
10	Sage-Sentinel Smart Solutions株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
11	Genome Miner	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
12	HerLifeLab株式会社 (Menopause and Beyond)	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
13	大阪ヒートクール株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
14	株式会社SYLCAST	新規	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
15	Vyorius日本株式会社	新規	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
16	株式会社SAVORY	継続	元OIST職員	インキュベーター
17	Cgreen(Miwa Mega)	継続	元OIST職員	インキュベーター
18	Shima & Co.株式会社	継続	元OIST職員	インキュベーター
19	株式会社フラットミニマ	継続	OIST教員	インキュベーター
20	Greenleaf Global Technologies	新規	OIST職員	インキュベーター
21	株式会社ハナハナワークスおきなわ	継続	外部	インキュベーター
22	株式会社SPEC	継続	外部	インキュベーター
23	特定非営利活動法人ミラツク	継続	外部	インキュベーター
24	株式会社エッセンス	継続	外部	インキュベーター
25	株式会社マネリア	継続	外部	インキュベーター
26	株式会社ハヤト・インフォメーション	継続	外部	インキュベーター
27	Haitai株式会社(Kenko Leaf)	継続	外部	インキュベーター
28	株式会社Cultivera	継続	外部	インキュベーター
29	H.KLAB.	継続	外部	インキュベーター
30	琉球アスティーダ スポーツクラブ株式会社	継続	外部	インキュベーター
31	株式会社MTG Ventures	継続	外部	インキュベーター
32	一般社団法人 HAPPY EARTH	継続	外部	インキュベーター



No	企業名	新規/継続	タイプ (OIST技術/アクセラレーター/外部)	場所 (ラボ3/インキュベーター/その
33	株式会社いいにおい	継続	外部	インキュベーター
34	株式会社リリーフアシスト( 株式会社クリビオ)	継続	外部	インキュベーター
35	株式会社レキサン	継続	外部	インキュベーター
36	レコテック株式会社	継続	外部	インキュベーター
37	株式会社グローバルウェイ	継続	外部	インキュベーター
38	Ananthya株式会社	継続	外部	インキュベーター
39	Morpheus株式会社	継続	外部	インキュベーター
40	合同会社アラネア	継続	外部	インキュベーター
41	ジャパンプレミアムベジタブル株式会社	継続	外部	インキュベーター
42	合同会社HAKKI	継続	外部	インキュベーター
43	株式会社ARTH	継続	外部	インキュベーター
44	ライフタイムベンチャーズ	継続	外部	インキュベーター
45	株式会社ショーナン	継続	外部	インキュベーター
46	株式会社ekei labs	継続	外部	インキュベーター
47	株式会社シンク・ネイチャー	継続	外部	インキュベーター
48	株式会社タイヨー・ジャパン	新規	外部	インキュベーター

添付資料 4. 1-4 令和5年度受託研究等（産学連携）及びイベント

受託研究等（産学連携）

	事業名	新規・継続	連携機関	分野	OIST研究ユニット／部署
1	覚書	継続	渋谷区	スタートアップ	OIST Innovation
2	覚書	継続	機密	スタートアップ	OIST Innovation
3	覚書	継続	機密	脳科学	トム・フロース
4	覚書	継続	機密	環境	実験動物セクション
5	覚書	継続	機密	スタートアップ	OIST Innovation
6	覚書	継続	沖縄銀行	スタートアップ	OIST Innovation
7	覚書	継続	リウボウ商事	スタートアップ	OIST Innovation
8	覚書	継続	ディープコア	スタートアップ	OIST Innovation
9	覚書	継続	沖縄振興開発金融公庫	スタートアップ	OIST Innovation
10	覚書	継続	機密	スタートアップ	OIST Innovation
11	覚書	継続	AgVenture Lab	スタートアップ	OIST Innovation
12	覚書	継続	機密	環境	環境科学・インフォマティクスセクション
13	覚書	継続	FC琉球	脳科学	トム・フロース
14	覚書	継続	沖縄県産業振興公社	スタートアップ	OIST Innovation
15	覚書	継続	株式会社Srust	スタートアップ	OIST Innovation
16	覚書	継続	機密	スタートアップ	OIST Innovation
17	包括協定	継続	日本政策投資銀行	スタートアップ	OIST Innovation
18	包括協定	継続	インスパイア	スタートアップ	OIST Innovation
19	覚書	継続	新エネルギー・産業技術総合開発機構	スタートアップ	OIST Innovation
20	覚書	継続	日本電信電話	複数	OIST
21	覚書	継続	東芝	複数	OIST
22	覚書	継続	沖縄電力	エネルギー	OIST
23	共同研究	継続	機密	健康医療	横林洋平
24	共同研究	継続	機密	健康医療	横林洋平
25	共同研究	継続	機密	化学	田中富士枝
26	共同研究	継続	機密	健康医療	シャルル・プレシ
27	共同研究	継続	機密	エネルギー	科学計算・データ解析セクション
28	共同研究	継続	機密	量子	根本香絵
29	共同研究	継続	機密	データサイエンス	山田誠
30	共同研究	継続	機密	環境	御手洗哲司
31	共同研究	継続	機密	健康医療	山本雅
32	共同研究	継続	機密	健康医療	銅谷賢治
33	共同研究	継続	機密	健康医療	河野恵子
34	共同研究	継続	機密	健康医療	横林洋平
35	共同研究	継続	機密	健康医療	カハル・キャッセディ
36	共同研究	継続	コランダム・システム・バイオロジー	健康医療	北野宏明
37	共同研究	継続	機密	健康医療	ユージン・クロール
38	共同研究	継続	機密	健康医療	トム・フロース
39	共同研究	継続	機密	健康医療	北野宏明
40	共同研究	継続	機密	量子	根本香絵
41	共同研究	継続	機密	AI	北野宏明
42	共同研究	新規	機密	量子	根本香絵
43	共同研究	新規	機密	脳科学	深井朋樹
44	共同研究	新規	機密	バイオ	パオラ・ラウリーノ

45	共同研究	新規	機密	脳科学	銅谷賢治
46	共同研究	新規	機密	バイオ	エイミー・シェン
47	覚書	新規	オリオンビール株式会社	エネルギー	OIST Innovation
48	覚書	新規	りゅうせき株式会社	環境	ティモシー・ラバシ
49	包括協定	新規	イルミナ株式会社	環境	OIST Innovation
50	委託研究	継続	ハイアットリージェンシー瀬良垣 アイランド沖縄	環境	ティモシー・ラバシ
51	委託研究	新規	機密	環境	ティモシー・ラバシ
52	委託研究	継続	機密	食品	佐瀬英俊
53	共同研究	新規	機密	暗号情報	カルロス・シッド
54	秘密保持契約書	継続	機密	化学	クリスティーン・ラスカム
55	秘密保持契約書	継続	機密	量子	久保 結丸
56	秘密保持契約書	継続	機密	AI	北野宏明
57	秘密保持契約書	継続	機密	材料科学	OIST Innovation
58	秘密保持契約書	新規	機密	バイオ	北野宏明
59	秘密保持契約書	新規	機密	バイオ	横林洋平
60	秘密保持契約書	新規	機密	コンピューター	Core Facilities
61	秘密保持契約書	新規	機密	エンジニアリング	新里瞳
62	秘密保持契約書	新規	機密	材料科学	新里瞳
63	秘密保持契約書	新規	機密	材料科学	新里瞳
64	秘密保持契約書	新規	機密	材料科学	新里瞳
65	秘密保持契約書	新規	機密	バイオ	山本雅
66	秘密保持契約書	新規	機密	量子	久保結丸
67	秘密保持契約書	新規	機密	エネルギー	OIST Innovation
68	秘密保持契約書	新規	機密	海産	ジョナサン・ミラー
69	秘密保持契約書	新規	機密	データサイエンス	エミール・トゥベール
70	秘密保持契約書	新規	機密	バイオ	ケシャプ・ダニ
71	秘密保持契約書	新規	機密	バイオ	バーンド・クーン
72	秘密保持契約書	新規	機密	バイオ	パオラ・ラウリーノ
73	秘密保持契約書	新規	機密	バイオ	楠見明弘
74	秘密保持契約書	新規	機密	環境	OIST Innovation
75	秘密保持契約書	新規	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
76	試料移転契約	新規	機密	バイオ	合田裕紀子
77	試料移転契約	新規	機密	バイオ	佐瀬英俊
78	ライセンス契約	継続	機密	健康医療	横林洋平
79	ライセンス契約	継続	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
80	ライセンス契約	継続	O-Force	健康医療	山本雅
81	ライセンス契約	継続	機密	環境	柳田充弘
82	ライセンス契約	継続	機密	健康医療	柳田充弘
83	ライセンス契約	継続	機密	バイオ	佐瀬英俊
84	ライセンス契約	新規	機密	環境	イミル・トゥベール
85	ライセンス契約	新規	機密	スタートアップ	渡邊寛
86	ライセンス契約	新規	機密	スタートアップ	ジョナサン・ミラー
87	ライセンス契約	新規・継続	機密	健康医療	横林
88	ライセンス契約	新規	機密	分析機器	ケシャプ・ダニ
89	ライセンス契約	新規	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
90	オプション契約	継続	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
91	オプション契約	新規	機密	スタートアップ	マルコ・テレンツィオ

92	オプション契約	新規	機密	バイオ	OIST
93	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	継続	沖縄科学技術振興センター	環境	佐藤矩行
94	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	継続	沖縄科学技術振興センター	医療	山本雅
95	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	継続	沖縄科学技術振興センター	環境	佐藤矩行
96	大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト創出支援事業	新規	沖縄県	材料科学	新里瞳
97	戦略的イノベーション創造プログラム	継続	JST	エネルギー	北野宏明
98	大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援（PARKS）	継続	科学技術振興機構	スタートアップ	OIST Innovation
99	著作権使用許諾契約	新規	機密	環境	COI-NEXT
100	秘密保持契約書	新規	機密	エネルギー	北野宏明
101	秘密保持契約書	新規	機密	量子	高橋優樹
102	外来種対策事業	継続	機密	環境	環境科学・インフォマティクスセクション
103	覚書	新規	Partisia	暗号技術	カルロス・シッド

展示会

No	事業名	開催日	場所	主催	内容
1	SusHi Tech Tokyo	2024年5月	東京	SusHi Tech Tokyo 実行委員会	ブース、商談会
2	InnoVEX 2024	2024年6月	台湾	台北市コンピュータ協会（TCA）	ブース、商談会
3	JST新技術説明会	2024年6月	オンライン	JST	プレゼンテーション
4	iNexSシーズマッチングコンソーシアム	2024年8月	藤沢	湘南アイパーク	商談会
5	BioFit	2024年9月	リール（フランス）	Eurasante	プレゼンテーション、商談会
6	沖縄県企業誘致セミナー	2024年9月	大阪	沖縄県	ブース、商談会
7	バイオジャパン	2024年9月	横浜	BioJapan組織委員会、JTBコミュニケーション	ブース、商談会
8	iNexSシーズマッチングコンソーシアム	2024年9月	藤沢	湘南アイパーク	商談会
9	Startup GoGo	2024年10月	福岡	GxPartners	スタートアップビッチ
10	SWITCH	2024年10月	シンガポール	Enterprise Singapore（JETRO）	ブース、商談会
11	BioEurope	2024年11月	ストックホルム	デロイトトーマツ	商談会
12	Startup Japan Expo 2024	2024年11月	東京	SanSan	ブース、商談会
13	量子コンピューティングEXPO	2024年11月	千葉	RX Japan	商談会
14	ケミカルマテリアルJapan	2024年11月	東京	化学工業日報	商談会
15	恩納村産業まつり	2025年1月	沖縄県	恩納村	ブース
16	nano tech	2025年1月	東京	nano tech実行委員会	ブース、商談会
17	AUTM Annual Meeting	2025年3月	ワシントン	AUTM	商談会
18	SASディープテックスタートアップ分科会	2025年3月	オンライン	GIAC	プレゼンテーション
19	UPDATE EARTH	2025年3月	東京	デロイトトーマツ	ブース
20	iNexSシーズマッチングコンソーシアム	2025年3月	藤沢	湘南アイパーク	商談会

OIST Innovation主催のセミナー・イベント

No	演題	開催日	参加者数
1	セミナー: GreenTech Insights by Rik van Gorp	2024年4月	35
2	イベント：OIST Lifetime Startup Elevate	2024年4月	200
3	イベント: インパクトフォーラム	2024年5月	20
4	セミナー: Innovations along microscaled	2024年5月	30
5	イベント：ASEAN TechCrossroads Mixer	2024年5月	100
6	サントリー交流イベント Sip and Connect	2024年5月	70
7	セミナー: Fostering Academic-Industry Colla	2024年5月	30

No	演題	開催日	参加者数
8	セミナー：サントリー客員研究員研究発表	2024年6月	30
9	セミナー：Harnessing the Power of Networking	2024年6月	30
10	INOイベント@東京	2024年6月	100
11	GIAC主催OIST技術シーズ事業化プログラム：アイデアソン	2024年7月	20
12	セミナー：Expanding Your Startup in Southeast Asia	2024年7月	60
13	セミナー：事業計画書作成のポイント	2024年8月	45
14	令和6年度沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議	2024年8月	110
15	琉大×OIST連携ワークショップ	2024年8月	12
16	GIAC主催OIST技術シーズ事業化プログラム：Demo Day	2024年8月	40
17	Okinawa University-Startup Showcase	2024年9月	170
18	沖縄県認定VCメンタリングセッション	2024年9月	11
19	セミナー:Intro to IP	2024年9月	15
20	琉大×OIST連携ワークショップ	2024年9月	20
21	セミナー：Lean Startup 2024 - Intro	2024年9月	15
22	ワークショップ：Lean Startup 2024 - Workshop	2024年9月	30
23	イベント：James Higa Silicon Valley Entrepreneurs	2024年9月	60
24	Ryudai>OIST Startup サマーインターンシップ 報告会	2024年10月	20
25	LINK-J Member's Meetup アカデミア産学連携大集合！	2024年10月	40
26	セミナー：OIST Innovation Celebrates RAM	2024年10月	40
27	イベント：Biprogy Meets OIST Startups	2024年10月	30
28	イベント：OIST サントリー 連携協議会	2024年11月	20
29	INOイベント（11月）@OIST	2024年11月	70
30	サントリー交流イベント Sip and Connect	2024年11月	100
31	OIST/沖縄が創るイノベーション - OISTの最新研究とOIST発ベンチャー	2024年11月	58
32	セミナー：Lessons on Succeeding with Early-Stage Venture	2024年12月	25
33	セミナー：Chemistry and Optics of Semiconductor Manufacturing	2024年12月	80
34	セミナー：Incubate Fund	2025年1月	20
35	イベント：パナソニック来訪	2025年1月	20
36	Seminar: シスメックス社セミナー	2025年2月	40
37	住友化学社来校イベント	2025年2月	20
38	知財セミナー	2025年2月	25
39	イベント：VMS In-Person Mentors Meeting	2025年3月	20
40	セミナー:OIST Innovation Society Seminar:	2025年3月	25
		Total Participan	1906